

レバノン国会選挙(第18期国民議会選挙)顛末記(ノート)

——第2部 選挙戦——

CMEPS-J Report No. 27

2010年1月1日に <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/aljabal/biladalsham/lebanon/elections2009/3.htm> にて公開(2012年7月18日更新に更新)。

2015年8月20日に http://syriaarabspring.info/alsham/lebanon_parliament_2009_2.html に転載。

2018年7月10日に CMEPS-J Report として再刊。

青山 弘之

目次

- [I. 序](#)
- [II. 選挙戦概観](#)
- [III. ベイルート県第1区](#)
- [IV. ベイルート県第2区](#)
- [V. ベイルート県第3区](#)
- [VI. レバノン山地県バアブダー郡](#)
- [VII. レバノン山地県マトン郡](#)
- [VIII. レバノン山地県シューフ郡](#)
- [IX. レバノン山地県アレイ郡](#)
- [X. レバノン山地県キスラワーン郡](#)
- [XI. レバノン山地県ジュベイル郡](#)
- [XII. 南部県サイダー郡](#)
- [XIII. 南部県ザフラーニー郡](#)
- [XIV. 南部県スール郡](#)
- [XV. 南部県ジェズイーン郡](#)
- [XVI. ナバティーヤ県ナバティーヤ郡](#)
- [XVII. ナバティーヤ県ビント・ジュベイル郡](#)
- [XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)
- [XIX. ベカーア県ザフレ郡](#)
- [XX. ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡](#)
- [XXI. ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡](#)
- [XXII. 北部県トリポリ郡](#)
- [XXIII. 北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡](#)
- [XXIV. 北部県アッカール郡](#)
- [XXV. 北部県ズガルター郡](#)
- [XXVI. 北部県クーラ郡](#)
- [XXVII. 北部県ビシャッリー郡](#)
- [XXVIII. 北部県バトルーン郡](#)

XXIX. まとめ

XXX. 文献リスト

I. 序

「第1部 選挙法改正」では2009年6月7日にレバノンで実施された国会選挙(第18期国民議会選挙)を取りあげる前段階として、2005年8月から2008年9月にかけての選挙法改正をめぐる動きに着目した。本稿では、2009年10月8日法律第25号の公布とともに始まった選挙戦の経緯を詳細に追ひ、同国の政情分析に必要な情報を提示する。以下ではまず第I節で、2008年末から投票が行われた2009年6月までの選挙戦を通史的に概観する。第II節では立候補者選定とリスト作成をめぐる各政党・政治組織、政治指導者の動きを選挙区ごとに具体的に整理する。

なお本稿におけるアラビア語の固有名詞のカタカナ表記およびローマ字転写は一部の例外を除き大塚他編[2002:10-15]の表記法に依拠する。ただし定冠詞「アル=」(al-)は省略した。

II. 選挙戦概観

レバノン国民議会に関して、筆者は既発表論文において以下の通り述べ、選挙の過程が大きく二つの段階に分けられると指摘した。

「国民議会選挙は大選挙区完全連記制を採用しており、有権者は自らが帰属する宗派以外の立候補者を含む複数の立候補者を選出するしくみになっている。この制度のもと、選挙過程は以下二つの段階を経る。第1段階は選挙区改編(グリマンダリング)である…。立候補者(有力政治家・組織)は、垂直関係を通じて最大限の議席を獲得するため、選挙のたびに選挙区の改編を試みてきた。彼らは自身の地盤地域と選挙区を可能な限り一致させようとするか、それが不可能な場合には、ライバルの地盤を切り崩す、ないしは分断して他の立候補者の地盤に組み込むようなかたちで選挙区を画定しようとしたのである…。第2段階は選挙公示後に行われる候補者リスト(la' iha)の作成である。ひとたび選挙区が画定すると、立候補者は、垂直関係だけでなく、水平関係を駆使して集票を行う。なぜなら、大選挙区完全連記制において当選を確実にするには、自らの宗派の支持を得るだけでは不十分で、同一選挙区内の他の宗派に対しても自身への投票を促す必要があるからである。ここにおいて立候補者は、他の宗派に属する立候補者と選挙協力をを行い、共同で候補者リストを作成することで互いの支持票を共有しようとするのである。つまり、候補者リストの作成のための連携ポリティクス成否は、選挙区内の宗派を網羅するかどうかに係っており、その限りにおいて、候補者リスト内の立候補者どうしの政策の違いは時に度外視され、政策論争がモラトリアムされることさえある」(青山・末近[2009:140-141])。

第18期国民議会選挙の第1段階は、「第1部 選挙法改正」において詳述した通り、「憲政上の真空」(al-faragh al-dusturi)および「均衡崩壊」(kasr al-tawazun)という混乱を経たのち、ドーハ合意に基づいて1960年選挙法の区画に基づいた選挙区改編が行われることで決着した。

一方、第2段階、すなわちリスト作成のための選挙同盟の結成は、選挙区改編を含む一連の争点をめぐる3月14日勢力と3月8日勢力の対立を軸に展開した。むろん、このことは、すべての立候補者が両陣営のいずれかに属して選挙戦に臨んだことを意味せず、彼らのなかには自身を中道派、ないしは無所属と位置づける者もいた。だが彼らの多くは、これまでの選挙と同様、政策や理念の相違を無視して3月14日勢力、3月8日勢力のいずれかと選挙同盟を結び、当選をめざした。こうした動きは、劣勢を伝えられていた3月14日勢力によってとりわけ歓迎され、同勢力は2008年8月以来、無所属との選挙同盟を積極的に推し進めた(al-Hayat, August 5, 2008)。また、3月14日勢力、3月8日勢力に属する立候補者のなかには、現下の対立構図のなかでは「均衡崩壊」にいたる政治の麻痺が解消し得ない、ないしは現下の対立構図のなかではこれ以上の権力伸張を見込めないと判断し、政界再編を意識したような政治同盟を模索する者もいた。その代表人物が、ワリード・ジュンブラート(Walid Junblat)元難民大臣が率いる進歩社会主義党とその

同盟者たちであり、彼らは3月14日勢力に身を置きつつも、「ドーハ合意の原則に従う」(Nahamet.com, March 23, 2009)との名目で3月8日勢力との直接対立を避けるような立候補者調整を行った(「レバノン国会選挙(第18期国民議会選挙)顛末記(ノート):第1部 選挙法改正」の第III節を参照)。

なお3月14日勢力と3月8日勢力の対立を打開しようとする試みのなか、選挙戦開始と時を同じくして、ミシェル・スライマーン(Mishal Sulayman)大統領の指導のもとに第3の陣営(中道ブロック[kutla wasatiya])を結成し、既存の対立構図を再編する兆候も現れた。例えば、ナビーフ・ビッリー(Nabih Birri)国民議会議長は2008年10月19日、ミシェル・スライマーン大統領と会談し、政界再編の可能性を示唆した(*al-Hayat*, October 20, 2008)。しかしこの動きは、10月23日に大統領が選挙で自身のリストを結成する意思がないと述べたことで立ち消えた(*The Daily Star*, October 24, 2008)¹。

立候補者たちの政見は、リスト、政党・政治組織、さらには個人の選挙綱領など、さまざまなレベルで発表された。ここでは、3月14日勢力と3月8日勢力の二局対立を反映して、レバノン特別法廷の是非、シリア、イランとの関係、国防戦略(国軍以外の組織による武器保有の是非)、ターイフ合意の遵守、ドーハ合意の尊重などが主要な争点になった。しかし後述するように各立候補者(各政党・政治組織、リストなど)の主張のほとんどは具体性を欠いており、彼らが実際に何をしたいかを読みとることは困難だった。こうした状況は、当選を確実にするために政策や理念を異にしたライバルと選挙同盟を結ぶ必要に多くの立候補者が駆られたことの結果である一方で、選挙後の政界再編や対立構図の変化を見込んだ彼らの周到な戦術を反映したものでもあった。

2009年1月5日、内務省は第18期国会選挙の投票日を6月7日とすると声明で発表し、選挙が告示された(Akhbar al-Sharq, January 5, 2009, *al-Hayat*, January 6, 2009, *The Daily Star*, January 6, 2009)。これを受け、4月7日(投票日の60日前)までに703人の立候補者が届出を済ませた²。そして4月22日(投票日の45日前)の立候補届出猶予期間までに115人が立候補を辞退し、最終的には587人が選挙戦を戦うことになった(Akhbar al-Sharq, April 23, 2009, *al-Hayat*, April 9, 2009)。

各選挙区における具体的に選挙戦は次節以降で見るとして、人口構成推計と選挙登録者数をまとめると表1および表2の通りである。

表1 宗派毎の人口構成

県	選挙区	イスラム教				キリスト教						その他 (ユダヤ教)	計	
		スンナ派	シーア派	ドゥルー ズ派	アラウイ ー派	マロン派	ギリシャ正教	ギリシャ・カ トリック	アルメニア正 教	アルメ ニア・カトリッ ク	福音派			マイリテイ
ベイルート県														
第1区	人	6,029	1,777	330	102	15,642	23,955	11,849	15,059	4,837	2,004	9,991	53	91,628
	%	6.58	1.94	0.36	0.11	17.07	26.14	12.93	16.43	5.28	2.19	10.90	0.06	100.00
第2区	人	29,291	24,780	123	43	3,640	2,484	1,887	26,757	3,578	2,285	3,528	472	98,868
	%	29.63	25.06	0.12	0.04	3.68	2.51	1.91	27.06	3.62	2.31	3.57	0.48	100.00
第3区	人	157,590	33,645	4,798	73	5,518	16,289	5,187	4,928	1,208	2,594	8,287	4,849	244,966
	%	64.33	13.73	1.96	0.03	2.25	6.65	2.12	2.01	0.49	1.06	3.38	1.98	100.00
レバノン山地県														
バアブダ ー郡	人	8,282	33,564	24,770	9	56,570	11,543	6,805	1,282	438	111	3,777	0	147,151
	%	5.63	22.81	16.83	0.01	38.44	7.84	4.62	0.87	0.30	0.08	2.57	0.00	100.00
マシ ン郡	人	2,736	4,147	1,840	30	74,130	23,814	15,271	25,508	6,889	2,675	10,013	23	167,076
	%	1.64	2.48	1.10	0.02	44.37	14.25	9.14	15.27	4.12	1.60	5.99	0.01	100.00
	人	49,350	3,708	54,080	0	52,816	873	11,458	40	43	627	173	6	173,174

¹ ただしその後も中道ブロックの結成を求める動きは続き、例えば、ナスルッラー・スファイル(Nasr Allah Sufayr)マロン派総大司教は2009年1月24日、左右のバランスがとれたすべての宗派からなる国会中道ブロックの結成を主唱した(*al-Hayat*, January 25, 2009, Nahamet, January 24, 2009)。なおミシェル・スライマーン大統領は2009年4月8日にも、自身が無所属候補を支持しないこと、自派の候補者を擁立しないことを名言した(Nahamet.com, April 9, 2009)。

² 2009年4月8日、ズィヤード・バールード(Ziyad Barud)内務地方行政大臣が記者会見で発表したところによると、届出を行った立候補者総数は703人だったが、うち同一人物で2選挙区に届け出を行った者が1人、記者会見での公式発表以前に立候補を辞退した者が1人いたため、実際の候補者数は701人だった(*al-Hayat*, April 9, 2009, NNA, April 8, 2009)。

県	選挙区	イスラーム教				キリスト教							その他 (ユダヤ教)	計	
		スンナ派	シーア派	ドゥルーズ派	アラウィー派	マロン派	ギリシヤ正教	ギリシヤ・カトリック	アルメニア正教	アルメニア・カトリック	福音派	マイリテイ			
シュエーデン	郡	%	28.50	2.14	31.23	0.00	30.50	0.50	6.62	0.02	0.02	0.36	0.10	0.00	100.00
	アレイ郡	人	1,313	3,283	60,246	0	28,193	15,091	3,400	553	82	772	1,002	52	113,987
		%	1.15	2.88	52.85	0.00	24.73	13.24	2.98	0.49	0.07	0.68	0.88	0.05	100.00
	キスラネン郡	人	165	1,379	3	9	81,161	690	1,283	1,448	539	263	1,397	0	88,337
		%	0.19	1.56	0.00	0.01	91.88	0.78	1.45	1.64	0.61	0.30	1.58	0.00	100.00
	ジュベイル郡	人	1,732	13,984	0	16	54,020	2,052	291	1,002	80	2	215	0	73,394
%		2.36	19.05	0.00	0.02	73.60	2.80	0.40	1.37	0.11	0.00	0.29	0.00	100.00	
南部県															
サイダー郡	人	43,185	4,632	33	0	1,293	181	1,744	158	23	96	204	0	51,549	
	%	83.77	8.99	0.06	0.00	2.51	0.35	3.38	0.31	0.04	0.19	0.40	0.00	100.00	
ザフラーネー郡	人	2,292	65,038	42	0	9,924	184	12,129	8	23	369	2	0	90,011	
	%	2.54	72.18	0.05	0.00	11.01	0.20	13.46	0.01	0.03	0.41	0.00	0.00	100.00	
スール郡	人	12,211	128,546	0	0	2,249	598	6,549	1,055	112	599	263	0	152,182	
	%	8.02	84.47	0.00	0.00	1.48	0.39	4.30	0.69	0.07	0.39	0.17	0.00	100.00	
ジェッスーン郡	人	950	10,402	474	0	33,307	111	8,139	22	14	17	8	0	53,444	
	%	1.78	19.46	0.89	0.00	62.32	0.21	15.23	0.04	0.03	0.03	0.01	0.00	100.00	
ナバティーヤ県															
ナバティーヤ郡	人	524	110,561	7	0	3,641	55	763	0	12	0	31	0	115,594	
	%	0.45	95.65	0.01	0.00	3.15	0.05	0.66	0.00	0.01	0.00	0.03	0.00	100.00	
マルジヤーン郡・ハズバヤ郡	人	22,187	74,943	13,707	0	5,989	10,571	3,572	68	18	1,273	1,032	0	133,360	
	%	16.64	56.20	10.28	0.00	4.49	7.93	2.68	0.05	0.01	0.95	0.77	0.00	100.00	
ピン・ジュベイル郡	人	25	102,452	0	0	11,630	0	2,876	0	16	0	0	0	116,999	
	%	0.02	87.57	0.00	0.00	9.94	0.00	2.46	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	100.00	
ベカーア県															
ザフレ郡	人	37,525	21,500	740	6	24,319	14,960	29,436	8,362	1,794	1,334	6,700	28	146,704	
	%	25.58	14.66	0.50	0.00	16.58	10.20	20.06	5.70	1.22	0.91	4.57	0.02	100.00	
西カーア郡・ラニヤヤ郡	人	56,012	16,090	17,507	0	9,409	9,754	9,909	38	31	403	378	0	119,531	
	%	46.86	13.46	14.65	0.00	7.87	8.16	8.29	0.03	0.03	0.34	0.32	0.00	100.00	
バルバツ郡・ヘルム郡	人	32,282	180,735	0	95	19,949	2,096	15,461	136	4	51	61	0	250,870	
	%	12.87	72.04	0.00	0.04	7.95	0.84	6.16	0.05	0.00	0.02	0.02	0.00	100.00	
北部県															
トリカ郡	人	148,519	707	10	16,101	4,355	12,244	1,023	1,898	362	563	897	42	186,721	
	%	79.54	0.38	0.01	8.62	2.33	6.56	0.55	1.02	0.19	0.30	0.48	0.02	100.00	
ミニヤ郡・ディンニヤ郡	人	80,356	28	0	2	6,293	7,820	0	0	0	0	0	0	98,306	
	%	81.74	0.03	0.00	0.00	6.40	7.95	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	
アッカー郡	人	141,459	2,473	0	9,663	28,111	37,520	1,541	46	7	703	2	0	221,525	
	%	63.86	1.12	0.00	4.36	12.69	16.94	0.70	0.02	0.00	0.32	0.00	0.00	100.00	
ズガルター郡	人	7,850	9	0	15	60,311	1,205	9	1	0	0	0	0	69,400	
	%	11.31	0.01	0.00	0.02	86.90	1.74	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	
クーラ郡	人	6,737	1,037	2	301	11,060	37,401	94	36	0	42	603	0	57,313	
	%	11.75	1.81	0.00	0.53	19.30	65.26	0.16	0.06	0.00	0.07	1.05	0.00	100.00	
ビシャリ郡	人	5	0	0	0	44,588	292	0	0	0	0	0	0	44,885	
	%	0.01	0.00	0.00	0.00	99.34	0.65	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	
バルーン郡	人	3,063	888	0	38	42,250	9,135	1,376	184	119	4	50	0	57,107	
	%	5.36	1.55	0.00	0.07	73.98	16.00	2.41	0.32	0.21	0.01	0.09	0.00	100.00	
計	人	851,670	840,308	178,712	26,503	690,368	240,918	152,052	88,589	20,229	16,787	48,614	5,525		

県	選挙区	イスラーム教				キリスト教							その他 (ユダヤ教)	計
		スンナ派	シーア派	ドゥルーズ派	アラウィー派	マロン派	ギリシヤ正教	ギリシヤ・カトリック	アルメニア正教	アルメニア・カトリック	福音派	マイノリティ		
	%	26.95	26.59	5.65	0.84	21.85	7.62	4.81	2.80	0.64	0.53	1.54	0.17	
	人	1,897,193				1,263,082							3,160,275	
	%	60.03				39.97							100.00	

(出所) Elnashra.com[2009]。

表 2 選挙登録者数

県	選挙区	有権者(人)	投票者(人)	投票率(%)	有効票(票)	無効票(票)	白票(票)
ベイルート県	第1区	92,764	37,284	40	36,900	201	183
	第2区	101,787	27,787	27	27,022	450	315
	第3区	252,165	103,243	40	101,547	705	991
レバノン山地県	バアブダー郡	151,590	84,546	55	83,606	526	414
	マトン郡	170,744	96,748	56	95,849	439	460
	シューフ郡	181,949	91,642	50	89,111	1,029	1,502
	アレイ郡	116,181	59,779	51	58,189	577	1,013
	キスラワーン郡	89,228	60,336	67	59,855	266	215
	ジュベイル郡	75,582	不明	65	不明	不明	不明
南部県	サイダー郡	53,859	不明	68	不明	不明	不明
	ザフラーニー郡	92,995	不明	54	不明	不明	不明
	スール郡	153,060	74,941	48	73,228	640	1,073
	ジェズイーン郡	54,188	29,225	53	28,995	117	113
ナバティヤ県	ナバティヤ郡	121,912	不明	49	不明	67	92
	ピント・ジュベイル郡	123,396	52,899	42	51,696	420	783
	マルジャアユーン郡・ハースパイヤー郡	138,844	64,975	46	63,933	536	506
ベカーア県	ザフレ郡	158,005	不明	56	不明	不明	不明
	西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡	122,487	65,237	53	64,571	402	264
	バアルベック郡・ヘルメル郡	255,637	126,038	49	124,393	776	869
北部県	トリポリ郡	196,149	89,886	45	87,821	1,038	1,027
	ミニヤ郡・ディニーヤ郡	97,352	54,916	56	53,985	495	436
	アッカー郡	223,538	120,608	53	119,476	778	354
	ズガルター郡	71,035	34,399	48	34,003	221	175
	ケーラ郡	57,794	27,417	47	27,078	178	161
	ビシャッラー郡	46,422	17,183	37	16,923	126	134
	バトレン郡	58,444	32,914	56	32,668	129	117
計		3,257,107	不明	50	不明	不明	不明

(出所) NNA, June 7, 2009 をもとに筆者作成。

以下第 III 節から第 XXVIII 節では全 26 選挙区での選挙戦を具体的にみる。

III. ベイルート県第 1 区

ベイルート県第1区はアシュラフィーヤ地区、ルマイル地区、サイフィー地区からなる。同選挙区は定数が5で、マロン派に1議席、ギリシャ正教に1議席、ギリシャ・カトリックに1議席、アルメニア正教に1議席、アルメニア・カトリックに1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口91,628人の内訳はスンナ派6,029人、シーア派1,777人、ドゥルーズ派330人、アラウィー派102人、マロン派15,642人、ギリシャ正教23,955人、ギリシャ・カトリック11,849人、アルメニア正教15,059人、アルメニア・カトリック4,837人、福音派2,004人、マイノリティ9,991人、ユダヤ教徒53人である。

キリスト教徒の無党派層の取り込みが勝敗を決するとされるベイルート県第1区では、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は、レバノン・カタール党、レバノン軍団、無所属(旧クルナト・シャフワーン会合)、ムスタクバル潮流が中心となって立候補者調整とリスト作成を行った。

マロン派枠をめぐって、バシール・ジュマイイル(Bashir al-Jumayyil)元大統領の娘でレバノン・カタール党のナディーム・ジュマイイル(Nadim al-Jumayyil)が2008年11月17日に立候補準備の開始を宣言し、2009年3月半ばまでには3月14日勢力のリストに参加することが確定した(*al-Hayat*, November 18, 2008, March 12, 2009)。

ギリシャ正教枠をめぐって、2005年12月に暗殺された日刊紙『ナハール』(*al-Nahar*)編集長でクルナト・シャフワーン会合のジュブラーン・トゥワイニー(Jubran Tuwayni)国民議会議員の娘で、無所属のガッサーン・トゥワイニー(Ghassan Tuwayni)国民議会議員の孫のナーイラ・トゥワイニー(Na'ila Tuwayni)が2009年2月5日、3月14日勢力と「杉の木革命」(Cedar Revolution)を支持する無所属候補者として立候補すると発表し、3月半ばまでには3月14日勢力のリストに参加することが確定した(*al-Hayat*, February 6, 2009, March 12, 2009, Nahamet.com, February 5, 2009)。

ギリシャ・カトリック枠をめぐって、ムスタクバル潮流が推薦する無所属(ムスタクバル・ブロック)のミシェル・フィアウン(Mishal Fir'awn)前国民議会担当国家大臣の立候補とリスト参加が2009年3月半ばまでに決まった(*al-Hayat*, March 12, 2009)。

アルメニア正教枠とアルメニア・カトリック枠は、3月8日勢力のターシュナーク党とムスタクバル潮流、レバノン・カタール党との選挙同盟のための折衝と、レバノン軍団による強引な立候補者擁立の動きによって、立候補者調整が難航した。

3月8日勢力のターシュナーク党との折衝は、ベイルート県第1区、同第2区、ベカーア県ザフレ郡においてはムスタクバル潮流が、レバノン山地県マトン郡ではレバノン・カタール党と同党との選挙同盟を決定した旧3月8日勢力で無所属のミシェル・ムッル(Mishal al-Murr)前国民議会副議長が担当した(*al-Hayat*, March 9, 2009、[「IV. ベイルート県第2区」](#)、[「VII. レバノン山地県マトン郡」](#)、[「XIX. ベカーア県ザフレ郡」](#)を参照)。

折衝の最中の2009年3月29日、ターシュナーク党は以下5人の立候補者からなるアルメニア議員ブロック(Kutla al-Nuwab al-Arman)を発表し、この5人を3月14日勢力のリストに加えることを選挙同盟の条件とした(*al-Hayat*, March 30, 2009, Nahamet.com, March 29, 2009)——無所属のワリージュ・サーブーンジャーヤン(Warij Sabunjiyan、ベイルート県第1区、アルメニア正教)、無所属のカリークワール・カールースト(Karikwar Kalust、ベイルート県第1区、アルメニア・カトリック)、無所属のアルティユール・ナザリヤン(Artiyur Nazariyan、ベイルート県第2区、アルメニア正教)、ターシュナーク党のアグーブ・バクラドゥーニヤン(Aghub Baqraduniyan)国民議会議員(マトン郡、アルメニア正教)、ターシュナーク党のジョルジュ・カッサルジー(Jurj Qassarji、ザフレ郡、アルメニア正教)³。しかしこの要求に対して、ムスタクバル潮流代表のサード・ハリリー(Sa'd al-Hariri)国民議会議員は、「ベイルート県第1区、マトン郡、ザフレ郡での3月14日勢力への全面協力の代償として、[ターシュナーク党に]4議席を与える」(Nahamet.com, April 1, 2009)との立場を示し、ターシュナーク党に譲歩を迫った。両者の折衝は最終的に着地点を見出せずに決裂し、4月1日、ターシュ

³ ターシュナーク党はこの5人のうち、ジョルジュ・カッサルジー以外の4人の擁立を2009年3月半ばまでに決定していた(*al-Hayat*, March 22, 2009)。

ナーク党はサアド・ハリリー国民議会議員の提案を正式に拒否し (*al-Hayat*, April 2, 2009, Nahamet.com, April 1, 2009)、アルメニア議員ブロックを3月8日勢力の立候補者として擁立することを決定した⁴。

ターシュナーク党との折衝の決裂により、アルメニア正教枠とアルメニア・カトリック枠は、ムスタクバル潮流と、同潮流に与するラムガヴァーン党、アルメニア社会民主ハンチャク党によって立候補者選定が順調に進むかに思えた。だが今度はレバノン軍団の強引な立候補者擁立で調整作業は再び難航した。

2009年4月4日、レバノン軍団のサミール・ジャアジャア (Samir Ja'ja') 執行委員会議長は、選挙綱領「杉の木革命2」を発表し (内容は「[XXVII. 北部県ビシャッレ郡](#)」を参照)、以下のメンバーを擁立するとの意思を明らかにした——ストリーダー・タウク (Sutrida Tawq) 国民議会議員 (北部県ブシヤッレ郡、マロン派)、エリー・カイルーズ (Ili Kayruz) 国民議会議員 (北部県ブシヤッレ郡、マロン派)、ジョルジュ・アドワーン (Juj 'Adwan) 国民議会議員 (レバノン山地県シューフ郡、マロン派)、エディー・アビー・ラムウ (Idi Abi al-Lama)、レバノン山地県マトン郡、マロン派)、リシャール・クユーマジヤーン (Rishar Quyumajyan、ベイルート県第1区、アルメニア・カトリック)、ロベール・フーリー (Rubir al-Khuri、南部県ザフラーニー郡、マロン派)、ミシェル・サッルム (Mishal Sallum、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、マロン派) (*al-Hayat*, April 5, 2009, April 7, 2009, April 20, 2009, Nahamet.com, April 4, 2009)。このうちベイルート県第1区アルメニア・カトリック枠のリシャール・クユーマジヤーンの処遇が火種となったのである。

3月14日勢力の他の組織・メンバー、とりわけアルメニア教徒は、リシャール・クユーマジヤーンの擁立にこぞって反対した。ムスタクバル潮流とミシェル・フィルアウン前国民議会担当国家大臣はアルメニア正教枠でラムガヴァーン党のジャン・オガーサービヤーン前行政改革担当国家大臣を擁立する一方、アルメニア・カトリック枠からムスタクバル潮流のセルジュ・トルサルキースヤーン (Sirj Tursarkisyan) 国民議会議員を擁立すべきと主張した (*al-Hayat*, April 9, 2009, April 12, 2009, April 20, 2009)⁵。また2009年4月19日、3月14日勢力内のアルメニア教徒は、レバノン軍団がリシャール・クユーマジヤーンの擁立を取り下げなければ、選挙をボイコットするとの意思を示した (*al-Hayat*, April 20, 2009)。さらに2009年5月3日、アルメニア社会民主ハンチャク党、ラムガヴァーン党、自由アルメニア・レバノン人運動および無所属のアルメニア教徒国民議会議員が会合を開き、ベイルート県第1区でのセルジュ・トルサルキースヤーン国民議会議員の擁立、ベカーア県ザフレ郡での無所属のナーリーク・アブラーハミアーン (Narik Abrahamiyan、アルメニア正教) の擁立を改めて主張し、レバノン軍団に譲歩を迫った (*al-Hayat*, May 4, 2009、「[XIX. ベカーア県ザフレ郡](#)」を参照)。

アルメニア正教枠とアルメニア・カトリック枠をめぐる対立は、ムスタクバル潮流代表のサアド・ハリリー国民議会議員とレバノン軍団のサミール・ジャアジャア執行委員会議長の度重なる会談で打開がめざされた (*al-Hayat*, April 27, 2009, May 7, 2009, May 10, 2009, May 15, 2009, Nahamet.com, May 7, 2009)。これらの会談においてサミール・ジャアジャア執行委員会議長は、①サアド・ハリリー国民議会議員がレバノン山地県シューフ郡での無所属のガッターズ・フーリー (Ghattas al-Khuri) 前国民議会議員の立候補辞退を条件とするリシャール・クユーマジヤーンの立候補辞退 (*al-Hayat*, April 27, 2009、「[VIII. レバノン山地県シューフ郡](#)」を参照)、②これが不可能な場合、リシャール・クユーマジヤーンの立候補辞退の代償として、アッカー郡から無所属のワフビー・カーティシャー (Wahbi Qatisha、ギリシャ正教) の擁立を認める、といった要求を行った (*al-Hayat*, May 11, 2009)。こうした強気の姿勢の背景には、3月14日勢力内における最大のキリスト教組織の地位をめざしてレバノン・カタール党と主導権争いをするレバノン軍団が、ベイルート県第1区において最大のキリスト教徒支持者を擁しているがゆえ、レバノン・カタール党がマロン派枠においてナディーム・ジュマイイルの擁立を認められるなら、レバノン軍団も同選挙区において1人の立候補者を擁立する権利があるとの自認があった (*al-Hayat*, April 27, 2009)。

だがレバノン軍団の要求はムスタクバル潮流によって受け入れることはなく、レバノン軍団はレバノン山地県バアブダー郡、同マトン郡、同シューフ郡、同アレイ郡、同キスラワーン郡、ベカーア県ザフレ郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤーン郡、同バアルベック郡・ヘルメル郡、北部県クーラ郡、同バトルーン郡における立候補者調整が完了す

⁴ ターシュナーク党の声明に対して、ムスタクバル潮流はターシュナーク党が中立を守るとの前言を撤回したと批判した (*al-Hayat*, April 2, 2009)。

⁵ ラムガヴァーン党は当初ハゴブ・カサルジヤーン (Haghub Qasarjiyan) 国民議会議員の擁立をめざしたが、ミシェル・フィルアウン前国民議会担当国家大臣の反対を受け、この要求を取り下げた (*al-Hayat*, April 9, 2009, April 12, 2009)。

る過程で議歩し、2009年5月21日、サミール・ジャアジャア執行委員会議長はサアド・ハリリー国民議会議員に対して「個別の利益でなく全体の利益を尊重する」との理由でリシャール・クューマジヤーンの立候補を取り下げる旨伝えた(*al-Hayat*, May 22, 2009, *Nahamet.com*, May 21, 2009)。これによりアルメニア正教枠はラームガヴァーン党のジャン・オガーサービヤーン前行政改革担当国家大臣、アルメニア・カトリック枠はムスタクバル潮流のセルジュ・トルサルキースヤーン国民議会議員(アルメニア・カトリック)を擁立することで確定した。

2009年5月27日、3月14日勢力は3月14日リスト(La'iha 14 Adhar)を発表した。同リストはレバノン・カタリーブ党のナディーム・ジュマイル(マロン派)、無所属のナーイラ・トゥワイニー(ギリシャ正教)、無所属(ムスタクバル潮流推薦)のミシェル・フィアウン前国民議会担当国家大臣(ギリシャ・カトリック)、ラームガヴァーン党のジャン・オガーサービヤーン前行政改革担当国家大臣(アルメニア正教)、ムスタクバル潮流のセルジュ・トルサルキースヤーン国民議会議員(アルメニア・カトリック)から構成された(*al-Hayat*, May 28, 2009)。なおこれに先立ち3月14日勢力は、3月14日にベイルートのBIEL(Beirut International Exhibition and Leisure)センターで第2回大会を開催し、執行部調整役のファリス・スアード(Faris Su'ayd)前国民議会議員が選挙綱領を発表した。同綱領は、①国連安保理決議第1701号の完全実施を通じた対イスラエル防衛、②ターイフ合意とドーハ合意の尊重、③シリアとの対立の解消、国境画定、失踪者問題の解決、④国際社会との協調、⑤アラブの団結への貢献、⑥パレスチナ国家の建設(二民族二国家)と公正かつ包括的平和の実現、⑦パレスチナ人の帰化への反対、⑧民主主義の擁護、暴力反対、⑨レバノン特別法廷支持、⑩経済危機の回避、⑪開発政策の推進、⑫社会改革の実施、⑬女性参加、⑭離散家族問題の解消、⑮環境対策を骨子とした(*al-Hayat*, March 15, 2009, *Nahamet*, March 14, 2009)。また投票日2週間前の5月26日(ベイルート県第1区のリスト発表の前日)、ベイルートのル・プリストル・ホテルで総会を開き、①自決権を有する統合国家としてのレバノンの樹立、②国防と領土解放を担う唯一の武装集団としての国軍の樹立、③外国による内政干渉の排除、④レバノン特別法廷の支持、⑤ターイフ合意の遵守、⑥(暴力でなく)「自由な声」を通じたレバノンの救済、などを骨子とする、などを骨子とする誓約文にメンバーが署名した(*Nahamet.com*, May 26, 2009)。

2.3月8日勢力

3月8日勢力は、自由国民潮流の主導のもと、シリア民族社会党と3月14日勢力との選挙同盟を断念したターシュナーク党が立候補者の調整とリスト作成を行った。

マロン派枠をめぐって、2009年3月半ばまでにシリア民族社会党のマスウード・アシュカル(Mas'ud al-Ashqar)の擁立が決まった(*al-Hayat*, March 12, 2009)。シリア民族社会党は4月5日に党首のアスアド・ハルダーン(As'ad Hardan)元労働大臣が発表したレバノン山地県マトン郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、北部県アッカー郡、同北部県クーラ郡の5人の立候補者と合わせて6人の立候補者を擁立した(*Nahamet*, April 5, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009, 「[VII. レバノン山地県マトン郡](#)」、「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」、「[XXI. ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡](#)」、「[XXIV. 北部県アッカー郡](#)」、「[XXVI. 北部県クーラ郡](#)」を参照)。

ギリシャ正教枠をめぐって、自由国民潮流とシリア民族社会党が折衝を行い、前者がナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡のギリシャ正教枠を後者のアスアド・ハルダーン元労働大臣に譲る代償として、ベイルート県第1区のギリシャ正教枠を確保した。そして2009年3月16日、自由国民潮流代表のミシェル・アウン(Mishal 'Awn)元国軍司令官が記者会見で「ベイルートの真の精神を代表する候補者が不在」⁶であると述べ、イサーム・アブー・ジャムラ('Isam Abu Jamra)副首相の擁立を発表した(*al-Hayat*, March 12, 2009, March 17, 2009, *Nahamet.com*, March 16, 2009, 「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)⁷。

ギリシャ・カトリック枠をめぐって、2009年3月半ばまでに自由国民潮流経済委員会担当官のニコラー・サフナーウィー(Niqula Sahnawi)の擁立が確定した(*al-Hayat*, March 12, 2009)。

⁶ この記者会見でミシェル・アウン元国軍司令官は、ナーイラ・トゥワイニーを「来るべき段階への備えがない」と批判し、立候補を辞退するよう求めた。これにより、3月8日勢力から立候補していた無所属のギリシャ正教徒、ミシェル・トゥワイニー(Mishal Tuwayni)、ミシェル・サースイーン(Mishal Sasin)、ジョルジュ・ラーギブ・ハッダード(Juj Raghieb Haddad)が立候補を辞退した(*al-Hayat*, March 12, 2009)。

アルメニア正教枠とアルメニア・カトリック枠をめぐって、リスト作成を主導した自由国民潮流は、ターシュナーク党が3月14日勢力との選挙同盟を模索している間、立候補者選定を猶予した(*al-Hayat*, March 22, 2009)。だが前述の通り、2009年4月1日にターシュナーク党が3月14日勢力との選挙同盟を断念し、3月8日勢力との同盟——自由国民潮流との全国での選挙同盟とベカーア県ザフレ郡でのイリヤース・スカーフ(Iliyas al-Sukaf)農業大臣との同盟——を決定すると(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 9, 2009, *Nahamet.com*, April 1, 2009)、自由国民潮流は、ターシュナーク党が発表したアルメニア議員ブロックの立候補者をリストに加える方向で最終調整を行った。その結果、アルメニア正教枠から無所属のワリージュ・サーブーンジャーンを、アルメニア・カトリック枠からは無所属のカリークワール・カールーストを擁立することが決まった。

2009年4月1日、自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官は変化改革リスト(La' iha al-Taghyir wa al-Islah)を発表した。同リストはシリア民族社会党のマスワード・アシュカル(マロン派)、イサーム・アブー・ジャムラ(ギリシャ正教)、ニコラー・サフナーウィー(ギリシャ・カトリック)、無所属(ターシュナーク党推薦)のワリージュ・サーブーンジャーン(アルメニア正教)、無所属(ターシュナーク党推薦)のカリークワール・カールースト(アルメニア・カトリック)から構成された(*Nahamet*, April 1, 2009、なお変化改革リストの選挙綱領に関しては「[X. レバノン山地県キスラワーン郡](#)」を参照)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者92,764人中37,284人が投票を行った。うち有効票は36,900票、無効票は201票、白票は183票、投票率は40%であった。当選者は3月14日リスト5人、レバノン・カタール党のナディーム・ジュマイイル(マロン派)、無所属のナーイラ・トゥワニー(ギリシャ正教)、無所属(ムスタクバル潮流推薦)のミシェル・フィリアウン前国民議会担当国家大臣(ギリシャ・カトリック)、ラームガヴァーン党のジャーノ・オガーサービヤーン前行政改革担当国家大臣(アルメニア正教)、ムスタクバル潮流のセルジュ・トルサルキースヤーン国民議会議員(アルメニア・カトリック)で、得票数はそれぞれ19,340票、19,985票、19,742票、19,317票、19,281票だった。敗北した変化改革リストの5人、シリア民族社会党のマスワード・アシュカル(マロン派)、イサーム・アブー・ジャムラ(ギリシャ正教)、ニコラー・サフナーウィー(ギリシャ・カトリック)、無所属(ターシュナーク党推薦)のワリージュ・サーブーンジャーン(アルメニア正教)、無所属(ターシュナーク党推薦)のカリークワール・カールースト(アルメニア・カトリック)の得票数はそれぞれ17,209票、16,421票、16,730票、16,778票、16,817票だった。

IV. ベイルート県第2区

ベイルート県第2区はバーシューラ地区、ムダウワル地区、マルファア地区からなる。同選挙区は定数が4で、スンナ派に1議席、シーア派に1議席、アルメニア正教に2議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口98,868人の内訳はスンナ派29,291人、シーア派24,780人、ドゥルーズ派123人、アラウィー派43人、マロン派3,640人、ギリシャ正教2,484人、ギリシャ・カトリック1,887人、アルメニア正教26,757人、アルメニア・カトリック3,578人、福音派2,285人、マイノリティ3,528人、ユダヤ教472人である。

ベイルート県第2区における選挙戦はスンナ派、シーア派、アルメニア正教(およびアルメニア・カトリック)の有権者の投票行動が勝敗を決するとされる。だが第18期国民議会選挙では、スンナ派に支持者を擁するムスタクバル潮流と、シーア派に支持者を擁するアマル運動、ヒズブッラーがドーハ合意の原則に従うとの名目で選挙同盟を結び、スンナ派の1議席とアルメニア正教の1議席を3月14日勢力に、シーア派の1議席とアルメニア正教の1議席を3月8日勢力に配分することで調整が図られた。この配分は2009年3月末にムスタクバル潮流とヒズブッラーによって大枠合意され⁸、その後、3月8日勢力内のシーア派立候補者の変更を受けて、ムスタクバル潮流代表のサアド・ハリリー国民

⁸ ベイルート県第2区における「談合」に関して、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長は2009年3月下旬、サイダー郡のスンナ派枠の配分と合わせて調整を試みた。だがこの動きは、サイダー郡でパセーヤ・ハリリー教育・高等教育大臣とフアード・スィニューラ首相の擁立を決定

議会議員とアマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長が折衝を継続し、5月13日に正式合意に至った(Nahamet.com, May 13, 2009)。これにより無所属の(ないしは両勢力が擁立を見送った)立候補者は勝機を逃し、その多くが立候補辞退を余儀なくされた(*al-Hayat*, March 12, 2009, March 21, 2009, March 31, 2009, Nahamet.com, April 15, 2009, April 21, 2009, *al-Safir*, April 15, 2009, April 21, 2009)。

1. 3月14日勢力、3月8日勢力の選挙同盟

3月14日勢力に配分されたスンナ派枠をめぐって、ムスタクバル潮流とレバノン・イスラーム集団が立候補調整を行った。ムスタクバル潮流とレバノン・イスラーム集団は、後者が立候補者の擁立を決定したベイルート県第3区、南部県サイダー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡北部県トリポリ郡、同ミニヤ・ディンニヤ郡、同アッカール郡において選挙同盟がめざされたが(「[V. ベイルート県第3区](#)」、「[XII. 南部県サイダー郡](#)」、「[XX. ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡](#)」、「[XXII. 北部県トリポリ郡](#)」、「[XXIII. 北部県ミニヤ郡・ディンニヤ郡](#)」、「[XXIV. 北部県アッカール郡](#)」を参照)、ベイルート県第2区のスンナ派枠は、ベイルート県第3区との関連で調整が進められた。2009年4月初め、レバノン・イスラーム集団は、ムスタクバル潮流がフアード・スィニューラ(Fu'ad al-Sinyura)首相のベイルート県第3区からの立候補を決定した場合、ベイルート県第2区ないしはベカーア県西ベカーア・ラーシャイヤ郡のスンナ派から1人を擁立し、3月14日勢力のリストに加えるよう求めた(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 8, 2009, April 9, 2009, Nahamet.com, April 7, 2009)。しかし4月7日、フアード・スィニューラ首相が南部県サイダー郡からの立候補を決断したことで、レバノン・イスラーム集団はこの要求を取り下げた。そしてムスタクバル潮流は、1989年から1998年にかけてラフィーク・ハリリー(Rafiq al-Hariri)元首相の政治顧問を務め、当初ベイルート県第3区からの擁立を検討されていたヌハード・マシュヌーク(Nuhad al-Mashnuq)を3月14日勢力の統一候補として擁立することを決定した(「[V. ベイルート県第3区](#)」を参照)。

一方、3月8日勢力からは無所属(ベイルート決定リスト)のアドナーン・アラクジー('Adnan 'Araji)前国民議会議員が立候補していた。3月14日勢力との選挙同盟のための折衝が進められるなか、彼は立候補を辞退することで、3月14日勢力が擁立するヌハード・マシュヌークを支援するかに思えた。だが3月8日勢力に議席が割り当てられたシーア派枠において、3月14日勢力のアッバース・ヤーギー('Abbas Yaghi)が立候補を辞退しなかったことに対抗するかたちで、彼は選挙活動を継続した(*al-Hayat*, April 24, 2009, April 25, 2009)。事態を憂慮したサアド・ハリリー国民議会議員は2009年4月24日、ナビーフ・ビッリー国民議会議長と急遽会談し、ヌハード・マシュヌークへの協力を要請した(Nahamet.com, April 25, 2009, *al-Safir*, April 24, 2009, April 25, 2009)。しかしアドナーン・アラクジー前国民議会議員の立候補辞退は順調には進まず、そのことが3月8日勢力は「ドーハ合意を履行しようとしなさい」(*al-Liwa'*, June 1, 2009, Nahamet.com, June 1, 2009)という3月14日勢力の批判を助長した。これに対し、ヒズブッラーは2009年6月初め、①ヌハード・マシュヌークへの支持の撤回、②ヌハード・マシュヌーク、アドナーン・アラクジーのいずれにも投票しない、との立場を示し、対抗しようとしたが(*al-Hayat*, June 5, 2009)、最終的にはヌハード・マシュヌークを支持する方向で決着した(Nahamet.com, May 13, 2009を参照)。

3月8日勢力に配分されたシーア派枠をめぐって、ヒズブッラー、アマル運動、自由国民潮流は当初、ヒズブッラーの立候補者を擁立する方向で調整を進めた。そして2009年4月1日、ヒズブッラーのハサン・ナスルッラー(Hasan Nasr Allah)書記長は、レバノン山地県バアブダー郡、南部県スール郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡の立候補者とともに、ベイルート県第2区からアミン・シッリー(Amin Shirri)を立候補させると発表した(*al-Hayat*, April 2, 2009, April 8, 2009, Nahamet.com, April 1, 2009, 「[XVI. ナバティーヤ県ナバティーヤ郡](#)」を参照)。しかしレバノン山地県バアブダー郡のシーア派枠をめぐるヒズブッラー、アマル運動、自由国民潮流の折衝の過程で、ヒズブッラーはこの枠をアマル運動に譲渡し、同運動のハーニー・クバイスィー(Hani

したムスタクバル潮流によって拒否された(Nahamet.com, March 24, 2009)。その結果、ムスタクバル潮流とアマル運動、ヒズブッラーの「談合」はベイルート県第2区に限定された。

Qubaysi)⁹が3月8日勢力の統一候補となった(*al-Hayat*, April 23, 2009, Nahamet.com, April 23, 2009、「[VI. レバノン山地県バアブダー郡](#)」を参照)。これを受け5月10日、ナビーフ・ビッリー国民議会議長は抵抗開発解放リスト(La' iha al-Muqawama wa al-Tanmiya wa al-Tahrir)を発表し、ベイルート県第2区、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、同ジェッツィーン郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡、同バルベック郡・ヘルメル郡におけるアマル運動、ヒズブッラー、アラブ社会主義バース党、シリア民族社会党、無所属の立候補者を発表し、ベイルート県第2区の立候補者としてアマル運動のハーニー・クバイスィーを公認した(*al-Hayat*, May 11, 2009, Nahamet.com, May 10, 2009、「[XIII. 南部県ザフラーニー郡](#)」を参照)。

一方、3月14日勢力からは無所属のアッバース・ヤーギーが立候補していた(*al-Hayat*, April 24, 2009)。3月8日勢力との選挙同盟のための折衝が進められるなか、彼は立候補の辞退を余儀なくされたが、その対応の遅さ(2009年5月11日に立候補を辞退、*al-Hayat*, May 13, 2009)が、前述の通りアドナーン・アラクジー前国民議会議員の立候補辞退を遅れさせた。

3月14日勢力と3月8日勢力がそれぞれ1人の立候補者を擁立することになったアルメニア正教徒をめぐって、3月14日勢力内では、アルメニア社会民主ハンチャク党のセブーフ・カールバーキヤーン(Sibuh Qalbakiyan)がムスタクバル潮流との折衝を経て、統一候補となった(*al-Hayat*, April 6, 2009, May 28, 2009)。一方、3月8日勢力内ではターシュナーク党が立候補者を選定した。ターシュナーク党は当初、ベイルート県第1区、ベイルート第2区、ベカーア県ザフレ郡においてムスタクバル潮流と選挙同盟を結ぼうとしたが、2009年4月1日に交渉が決裂すると、アルメニア議員ブロックの立候補者を3月8日勢力の統一候補として推し([III. ベイルート県第1区](#))を参照)、ベイルート県第2区では無所属のアルティユール・ナザリヤーンを擁立した。なお3月14日勢力と3月8日勢力の選挙同盟により、アルメニア社会民主ハンチャク党のセブーフ・カールバーキヤーンと無所属(ターシュナーク党推薦)のアルティユール・ナザリヤーン以外のアルメニア正教徒の立候補者は敗北が確実となり、全員が立候補を辞退し、2名の無当選投票が決まった。

2009年5月13日に正式合意に達した3月14日勢力と3月8日勢力の選挙同盟のもとで立候補した4人、すなわちムスタクバル潮流のヌハード・マシュヌーク(スンナ派)、アマル運動のハーニー・クバイスィー(シーア派)、アルメニア社会民主ハンチャク党のセブーフ・カールバーキヤーン、無所属(ターシュナーク党推薦)のアルティユール・ナザリヤーンのうち、3月14日勢力のヌハード・マシュヌークとセブーフ・カールバーキヤーンはムスタクバル・リスト(La' iha al-Mustabqal)の名で、3月8日勢力のハーニー・クバイスィーとアルティユール・ナザリヤーンは無所属で選挙を戦った。

2. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者101,787人中27,787人が投票を行った。うち有効票は27,022票、無効票は450票、白票は315票、投票率は27%であった。当選者はムスタクバル・リストの2名、ムスタクバル潮流のヌハード・マシュヌーク(スンナ派)、アルメニア社会民主ハンチャク党のセブーフ・カールバーキヤーン(アルメニア正教)と、3月8日勢力の2人、アマル運動のハーニー・クバイスィー(シーア派)、無所属(ターシュナーク党推薦)のアルティユール・ナザリヤーン(アルメニア正教)だった。うちアルメニア正教徒の2人は無当選投票を果たし、ヌハード・マシュヌークとハーニー・クバイスィーの得票数はそれぞれ16,583票、15,126票だった。

V. ベイルート県第3区

⁹ ハーニー・クバイスィーは、レバノン山地県バアブダー郡、南部県ザフラーニー郡、同ジェッツィーン郡などでの3月8日勢力(とりわけアマル運動、自由国民潮流、ヒズブッラー)の候補者調整の過程で、ベイルート県第2区のシーア派枠がヒズブッラーからアマル運動に割り当てられる可能性を想定して、予防的に立候補していた(*al-Hayat*, April 8, 2009)。

ベイルート県第3区はベイルート岬地区、ミーナー・フスン地区、ダール・ムライサ地区、マズラア地区、ムサイトバ地区、ズカーク・ブラート地区からなる。同選挙区は定数が10で、スンナ派に5議席、シーア派に1議席、ドゥルーズ派に1議席、ギリシャ正教に1議席、福音派に1議席、マイノリティに1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口244,966人の内訳はスンナ派157,590人、シーア派33,645人、ドゥルーズ派4,798人、アラウィー派73人、マロン派5,518人、ギリシャ正教16,289人、ギリシャ・カトリック5,187人、アルメニア正教4,928人、アルメニア・カトリック1,208人、福音派2,594人、マイノリティ8,287人、ユダヤ教4,849人である。

ベイルート県第3区における選挙戦は圧倒的多数を占めるスンナ派有権者の投票行動が勝敗を決するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は、ベイルート県第3区を地盤地域とするムスタクバル潮流代表のサアド・ハリリー国民議会議員の主導のもと(*al-Hayat*, March 12, 2009)、立候補者選定とリスト作成が進められた。

最大の争点となったのはスンナ派枠の立候補者選定だった。サアド・ハリリー国民議会議員はベイルート県第3区での全議席確保を確実にするため、ムスタクバル潮流メンバー以外のスンナ派有力指導者・組織、具体的には無所属のタマーム・サラーム(Tamam Salam)文化大臣、レバノン・イスラーム集団との選挙同盟を模索した。このうち前者は早い段階でリスト参加が決まったが、後者との折衝は、他の選挙区における立候補者調整と連動してなされたために難航した。

2009年2月初めに選挙活動を本格化させたレバノン・イスラーム集団は、ベイルート県第3区、南部県サイダー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡で北部県トリポリ郡、同ミニヤ・ディンニーヤ郡、同アッカー郡での議席獲得をめざし(*al-Hayat*, February 3, 2009, Nahamet.com, February 2, 2009)、3月末までにイマード・フート('Imad al-Hut、ベイルート県第3区)、アリー・シャイフ・アンマール('Ali al-Shaykh 'Ammar)政治局長(南部県サイダー郡)、サーミー・ハティーブ(Sami al-Khatib、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡)、ラーミー・ディルガーム(Rami Dirgham、北部県トリポリ郡)、アスアド・ハルムーシュ(As'ad Harmush、同ミニヤ郡・ディンニーヤ郡)、ムハンマド・ハウシャル(Muhammad Hawshar、同アッカー郡)の6人を擁立することを決定した(Nahamet.com, March 30, 2009, April 9, 2009、[「XII. 南部県サイダー郡」](#)、[「XX. ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡」](#)、[「XXII. 北部県トリポリ郡」](#)、[「XXIII. 北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡」](#)、[「XXIV. 北部県アッカー郡」](#))。そして3月14日勢力のリストへの立候補者の参加を認めさせるべく、ムスタクバル潮流と折衝を行った。両者の折衝は、ムスタクバル潮流のフアード・スィニューラ首相の動静によって左右された。フアード・スィニューラ首相は当初、立候補の意思を明示せず、ベイルート県第3区と南部県サイダー郡のいずれからの立候補を検討していたが、これに対してレバノン・イスラーム集団はムスタクバル潮流に以下のような要求を行った——①フアード・スィニューラ首相が立候補を断念する場合、ないしは南部サイダー郡から立候補する場合、レバノン・イスラーム集団はベイルート県第3区のスンナ派枠から1人を擁立し、3月14日勢力のリストに参加する、②フアード・スィニューラ首相がベイルート県第3区から立候補する場合、レバノン・イスラーム集団はベイルート県第2区ないしはベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡のスンナ派枠から1人を擁立し、3月14日勢力のリストに参加する(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 8, 2009, April 9, 2009, Nahamet.com, April 7, 2009、[「IV. ベイルート県第2区」](#)、[「XX. ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡」](#)を参照)。これに対して、サアド・ハリリー国民議会議員はフアード・スィニューラ首相が立候補する選挙区が確定するまで回答を保留するとの態度をとった。

その後、2009年4月7日にフアード・スィニューラ首相が南部県サイダー郡からの立候補を決断すると、ムスタクバル潮流とレバノン・イスラーム集団は、ベイルート県第3区¹⁰、北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡、同アッカー郡のスンナ派枠において立候補者調整を行い、選挙同盟の結成をめざした。折衝において、レバノン・イスラーム集団はフアード・スィニューラ首相のために南部県サイダー郡のアリー・シャイフ・アンマール政治局長の立候補を辞退させることの

¹⁰ サアド・ハリリー国民議会議員は一時、ベイルート県第3区において、ヌハード・マシュヌークを擁立することを一時検討した。だが立候補期間終了直前、ヌハード・マシュヌークをベイルート県第2区に鞍替えさせ、ベイルート県第3区のスンナ派枠の人選をイスラーム・イスラーム集団との折衝のために猶予した(Elnashra.com, April 8, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009, April 9, 2009、[「IV. ベイルート県第2区」](#)を参照)。

代償として、バイルート県第3区、北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡、同アッカー郡のいずれかの立候補者を3月14日勢力のリストに参加させるよう求めた(*al-Akhbar*, April 3, 2009, *Nahamet.com*, March 24, 2009, April 3, 2009)。これに対して、サアド・ハリリー国民議会議員は、①バイルート県第3区でのイマード・フートの立候補と3月14日勢力のリストへの参加を認め、②レバノン・イスラーム集団に次期内閣での閣僚ポストを与える代わりに、他の選挙区の立候補者のリスト参加を断念するよう求めた(*al-Akhbar*, April 22, 2009, *Nahamet.com*, April 22, 2009)。この要求にレバノン・イスラーム集団は反発し、イマード・フートに加えて、北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡のアスアド・ハルム・シムも3月14日勢力のリストに加えるよう求めた(*al-Hayat*, April 20, 2009, April 24, 2009)。しかしサアド・ハリリー国民議会議員はこれを拒否し、4月21日、イスラーム集団政治局は「[レバノン・イスラーム集団の候補者]2人を擁立することで合意したが…ムスタクバル潮流との対話を達成するための可能なすべての手段を尽くした」と述べ、折衝が失敗に終わったことを明らかにした(*al-Hayat*, April 22, 2009)¹¹。

しかしムスタクバル潮流とレバノン・イスラーム集団はその後も接触を続け、バイルート県第3区と南部サイダー郡の2選挙区のみで論点を集中させて合意をめざした¹²。この折衝でのもっとも重きが置かれたのは、南部サイダー郡から立候補している3月8日勢力の指導者の1人、ナセル人民機構書記長のウサーマ・サアド(Usama Sa' d)国民議会議員にいかに対抗するか、という点だった。これに関して、レバノン・イスラーム集団はムスタクバル潮流との合意の是非にかかわらずウサーマ・サアド国民議会議員と同盟しないとの態度を示し(*al-Safir*, April 24, 2009, *Nahamet.com*, April 25, 2009)、その代償としてムスタクバル潮流にバイルート県第3区での譲歩を求めた(*al-Nahar*, April 28, 2009, *Nahamet.com*, April 27, 2009, April 28, 2009, *al-Safir*, April 28, 2009)。数度にわたる会談ののち、2009年5月6日、サアド・ハリリー国民議会議員とレバノン・イスラーム集団使節団は以下の通り合意したことを発表した——①ムスタクバル潮流はバイルート県第3区でレバノン・イスラーム集団のイマード・フートを3月14日勢力のリストに含める、②その代償としてイスラーム・イスラーム集団は南部県サイダー郡のアリー・シャイフ・アンマール政治局長の立候補を辞退し、フアード・スィニューラ首相とバヒヤ・ハリリー(Bahiya al-Hariri)教育・高等教育大臣の選挙活動を支持する(*al-Hayat*, May 7, 2009, May 11, 2009, *Nahamet.com*, May 6, 2009, May 7, 2009, May 10, 2009, 「[XII. 南部県サイダー郡](#)」を参照)。

これによりスナ派は、ムスタクバル潮流のサアド・ハリリー国民議会議員(スナ派)、無所属のタマーム・サラーム文化大臣(スナ派)、ムスタクバル潮流のムハンマド・カッバーニー(Muhammad Qabbani)国民議会議員(スナ派)、ムスタクバル潮流のアンマール・フーリー('Ammar al-Huri)国民議会議員(スナ派)、レバノン・イスラーム集団のイマード・フート(スナ派)をリストに加えることが決まった。なおムスタクバル潮流とレバノン・イスラーム潮流の合意は、他の選挙区での選挙同盟の是非を定めるものではなかったため、これ以降も両者の折衝は続き、レバノン・イスラーム集団は北部県トリポリ郡、同ミニヤ郡・ディンニーヤ郡での選挙戦継続を確認し、ムスタクバル潮流にリストへの参加を求め続けた(*al-Hayat*, May 10, 2009, 「[XX. ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡](#)」、[XXII. 北部県トリポリ郡](#)」、[XXIII. 北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡](#)」、[XXIV. 北部県アッカー郡](#)」を参照)。

シーア派をめぐって、ムスタクバル潮流のガーズィー・ユースフ(Ghazi Yusuf)国民議会議員の続投とリスト参加が選挙戦の当初から決定されていた。

ドゥルーズ派をめぐって、進歩社会主義党のガーズィー・アリーデー(Ghazi al-'Aridi)公共労働運輸大臣のリスト参加が選挙戦の当初から決定されていた。

ギリシャ正教派をめぐって、ムスタクバル潮流のアーティフ・マジュダラーニー('Atif Majdalani)国民議会議員の続投とリスト参加が選挙戦の当初から決定されていた。

福音派をめぐって、ムスタクバル潮流のバースィム・シャブ(Basim al-Shabb)国民議会議員の続投とリスト参加が選挙戦の当初から決定されていた。

¹¹ レバノン・イスラーム集団のイブラーヒム・ミスリー(Ibrahim al-Misri)副書記長は、「選挙同盟にふさわしいものをムスタクバル潮流が与えなかった」(*al-Safir*, April 22, 2009)ことが決裂の原因だと批判した。

¹² この頃から、ムスタクバル潮流の交渉はサアド・ハリリー国民議会議員だけでなく、フアード・スィニューラ首相によってもなされるようになった(*Nahamet.com*, April 22, 2009, *al-Safir*, April 22, 2009)。

マイノリティ枠をめぐって、ムスタクバル潮流のナビール・ドゥ・フライジュ (Nabil Di Furayj) 国民議会議員の続投とリスト参加が選挙戦の当初から決定されていた。

2009年5月6日、サアド・ハリリー国民議会議員はムスタクバル・リストを発表した。同リストはムスタクバル潮流のサアド・ハリリー国民議会議員(スンナ派)、無所属のタマーム・サラーム文化大臣(スンナ派)、ムスタクバル潮流のムハンマド・カッバーニー (Muhammad Qabbani) 国民議会議員(スンナ派)、ムスタクバル潮流のアンマール・フーリー ('Ammar al-Huri) 国民議会議員(スンナ派)、レバノン・イスラーム集団のイマード・フート(スンナ派)、ムスタクバル潮流のガズイー・ユースフ国民議会議員(シーア派)、進歩社会主義党のガズイー・アリーディー公共労働運輸大臣(ドゥルーズ派)、ムスタクバル潮流のアーティフ・マジュダラーニー国民議会議員(ギリシャ正教)、ムスタクバル潮流のバーシム・シャーupp国民議会議員(福音派)、ムスタクバル潮流のナビール・ドゥ・フライジュ国民議会議員(マイノリティ)から構成された(*al-Hayat*, May 7, 2009, May 8, 2009, Nahamet.com, May 6, 2009, May 7, 2009)。なおサアド・ハリリー国民議会議員が代表を務めるムスタクバル潮流は、ベイルート県第3区を含む各選挙区でのリスト作成の作業と並行して、4月5日に選挙綱領を発表した。同綱領は、ムスタクバル潮流を「レバノンのための国民政党」と位置づけたうえで、①国家を唯一の武器保有者とするを通じた国民の安全確保、②暴力でなく対話による意見の表明、③過激主義、宗派対立の回避と共存・統合の実現、④政党、民兵を介した外国の干渉の排除、⑤農村地域における銀行制度の拡充、⑥教育の充実、⑦民間セクターの奨励、⑧農業、工業の振興を通じた雇用創出、⑨社会制度の充実、⑩パレスチナ人の帰還権の尊重などを骨子とした(*Nahamet*, April 5, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は、人民運動、アマル運動、イスラーム行動戦線、改革進歩連合、労働者連盟、レバノン国民会合、そして無所属の有力者たちが、ムスタクバル・リストの無当選投票を回避すべく選挙戦への参加を敢行した(*al-Hayat*, March 12, 2009)。

立候補者選定はギリシャ正教枠において、人民運動代表のナジャーフ・ワーキーム (Najah Wakim) 元国民議会議員と無所属でレバノン国民連合のビシャラ・ムルヒジュ (Bishara Murhij) 元国家大臣のいずれをリストに参加するかで対立が生じた。3月8日勢力はナジャーフ・ワーキーム元国民議会議員のリスト参加を決定したが、ビシャラ・ムルヒジュ元国家大臣は立候補を辞退せず、無所属で選挙戦に臨んだ(*al-Hayat*, April 13, 2009)。

2009年5月7日、3月8日勢力はベイルート市内でベイルート国民決定リスト (La' iha Qarar Bayrut al-Watani) を発表した。同リストは、無所属のウマル・ガンドゥール ('Umar Ghandur, スンナ派)、無所属のパハーッディーン・イーターニー (Baha' al-Din 'Itani) 元国民議会議員(スンナ派)、イスラーム行動戦線副議長のアブドゥンナーシル・ジャブリー ('Abd al-Nasir Jabri, スンナ派)、人民運動のイブラーヒーム・ハラビー (Ibrahim al-Halabi, スンナ派)、改革進歩連合のハリド・ダーウーク (Khalid al-Da' uq, スンナ派)、アマル運動のラフィーク・ナスルッラー (Rafiq Nasr Allah, シーア派)、無所属のガズイー・ムンズイル (Ghazi al-Mundhir, ドゥルーズ派)、人民運動代表のナジャーフ・ワーキーム元国民議会議員(ギリシャ正教)、無所属のジョルジュ・ハルルーティユス (Jurj Harutiyus, 福音派)、無所属のライモーン・アスマル (Raymun al-Asmar, マイノリティ) から構成された。また発表の席で、パハーッディーン・イーターニー元国民議会議員は選挙綱領を発表し、①国民和解の出発点としての比例代表制に基づく選挙の導入、②若者の国家建設への参加、③債務問題、汚職への対処、④行政改革、⑤経済振興計画の策定、⑥レジスタンス(対イスラエル武装闘争)の支持・支援などを掲げた(*al-Hayat*, May 14, 2009, May 18, 2009, Nahamet.com, May 17, 2009)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者252,165人中103,243人が投票を行った。うち有効票は101,547票、無効票は705票、白票は991票、投票率は40%であった。当選者はムスタクバル・リストの10人、ムスタクバル潮流のサアド・ハリリー国民議会議員(スンナ派)、無所属のタマーム・サラーム文化大臣(スンナ派)、ムスタクバル潮流のムハンマド・カッバーニー国民議会議員(スンナ派)、ムスタクバル潮流のアンマール・フーリー国民議会議員(スンナ派)、レバノ

ン・イスラーム集団のイマード・フート(スンナ派)、ムスタクバル潮流のガズイー・ユースフ国民議会議員(シーア派)、進歩社会主義党のガズイー・アリーディー公共労働運輸大臣(ドゥルーズ派)、ムスタクバル潮流のアーティフ・マジュダラーニー国民議会議員(ギリシャ正教)、ムスタクバル潮流のバースィム・シャープ国民議会議員(福音派)、ムスタクバル潮流のナビール・ドゥ・フライジュ国民議会議員(マイノリティ)で、得票数はそれぞれ 78,382 票、76,925 票、76,448 票、76,201 票、75,954 票、76,410 票、76,792 票、76,133 票、76,510 票、76,431 票だった。敗北したベイルート国民決定リストの 10 人、無所属のウマル・ガンドゥール(スンナ派)、無所属のバハッディーン・イーターニー元国民議会議員(スンナ派)、イスラーム行動戦線副議長のアブドゥンナーシル・ジャブリー(スンナ派)、人民運動のイブラーヒーム・ハラビー(スンナ派)、改革進歩連合のハーリド・ダーウーク(スンナ派)、アマル運動のラフィーク・ナスルッラー(シーア派)、無所属のガズイー・ムンズィル(ドゥルーズ派)、人民運動代表のナジャーフ・ワーキーム元国民議会議員(ギリシャ正教)、無所属のジョルジュ・ハルルーティユース(福音派)、無所属のライモーン・アスマル(マイノリティ)の得票数はそれぞれ 27,703 票、21,507 票、21,103 票、21,050 票、21,100 票、22,177 票、20,860 票、29,921 票、21,041 票、21,362 票だった。また無所属で選挙戦に臨んだビシャーラ・ムルヒジュ元国家大臣の得票数は 1,537 票だった(NNA, June 7, 2009)。

VI. レバノン山地県バアブダー郡

レバノン山地県バアブダー郡は定数が 6 で、シーア派に 2 議席、ドゥルーズ派に 1 議席、マロン派に 3 議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口 147,151 人の内訳はスンナ派 8,282 人、シーア派 33,564 人、ドゥルーズ派 24,770 人、アラウィー派 9 人、マロン派 56,570 人、ギリシャ正教 11,543 人、ギリシャ・カトリック 6,805 人、アルメニア正教 1,282 人、アルメニア・カトリック 438 人、福音派 111 人、マイノリティ 3,777 人である。

バアブダー郡における選挙戦は、シーア派、ドゥルーズ派、マロン派の票が勝敗を決するとされる。第 18 期国民議会選挙においては、3 月 14 日勢力と 3 月 8 日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3 月 14 日勢力

3 月 14 日勢力は第 17 期国民議会において同選挙区の議席を独占した進歩社会主義党が立候補者選定とリスト作成を主導した。進歩社会主義党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣は無所属の政治指導者との政治同盟の維持をめざす一方で、ドゥルーズ枠をめぐる 3 月 8 日勢力に属するレバノン民主党党首のタラール・アルスラーン(Talal Arslan) 青年スポーツ大臣と、マロン派枠をめぐるレバノン・カタールイブ党、国民自由党、レバノン軍団とそれぞれ立候補者調整の折衝を行った。

シーア派枠をめぐる、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は、ムスタクバル潮流のバースィム・サブア(Basim al-Sab') 前内務地方行政大臣と無所属のサラーフ・ハラカ(Salah al-Haraka)の擁立を決定した。

ドゥルーズ派枠をめぐる、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は当初ドーハ合意の原則に従い、レバノン山地県アレイ郡、シューフ郡の立候補者と合わせて、レバノン民主党党首のタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣と立候補者調整を行い、選挙同盟の結成をめざした。だがこの動きは、レバノン民主党以外の 3 月 8 日勢力の組織の抵抗に遭い、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣との選挙同盟をアレイ郡に限定し、アイマン・シュカイル(Ayman Shuqayr) 国民議会議員の擁立を決定した(「VIII. レバノン山地県シューフ郡」、[IX. レバノン山地県アレイ郡](#)を参照)。

マロン派枠をめぐる、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は 2009 年 4 月 6 日、3 月 14 日勢力との同盟関係を維持するため民主会合ブロックの現職議員 3 人、バアブダー郡のアブドゥッラー・ファルハート('Abd Allah Farhat) 元難民大臣、アレイ郡のアントワン・アンドラーウス(Antwan Andraws) 国民議会議員、ファイサル・サーイグ(Faysal al-Sayigh) 国民議会議員の再立候補断念を決断した(うちファイサル・サーイグ国民議会議員はドゥルーズ派、*al-Hayat*, April 6,

2009、Nahamet.com, April 6, 2009、「IX. レバノン山地県アレイ郡」を参照)¹³。このうちマロン派2人の立候補断念は、バアブダー郡、アレイ郡においてキリスト教政党の立候補者擁立を可能とするための措置だった(またファイサル・サーイグ国民議会議員の立候補辞退はアレイ郡でのタラール・アルスラン青年スポーツ大臣との選挙同盟を目的とした、「IX. レバノン山地県アレイ郡」を参照)。ワリード・ジュンブラート元難民大臣による英断を受け、レバノン・カタリーブ党、国民自由党、レバノン軍団が候補者の調整を本格化させた。レバノン・カタリーブ党は党員のガービー・サムアーン(Ghabi Sam'an)の擁立を、国民自由党はイリヤース・アブー・アースイー(Iliyas Abu 'Asi)の擁立をそれぞれ主張した(*al-Hayat*, April 4, 2009)。折衝の結果、国民自由党のイリヤース・アブー・アースイーのリスト参加が決まり(*al-Hayat*, April 5, 2009)、譲歩したレバノン・カタリーブ党とレバノン軍団はベイルート県第1区、レバノン山地県マトン郡、同シェーフ郡、同アレイ郡、同キスラワーン郡、ベカーア県ザフレ郡で候補者の擁立を主張した(「III. ベイルート県第1区」、「VII. レバノン山地県マトン郡」、「VIII. レバノン山地県シェーフ郡」、「IX. レバノン山地県アレイ郡」、「X. レバノン山地県キスラワーン郡」、「XIX. ベカーア県ザフレ郡」などを参照)。なおマロン派枠の2人の立候補者はワリード・ジュンブラート元難民大臣が推薦する無所属(民主会合ブロック)のサラーフ・フナイン(Salah Hunayn)国民議会議員、エドモーン・ガリユース(Idmun Ghariyus)のリスト参加が2月の段階で決定された(Nahamet.com, February 2, 2009)。

2009年5月2日、サラーフ・フナイン国民議会議員は無所属候補の連立リスト、無所属国民決定リスト(La'ihah al-Qarar al-Watani al-Mustaqbil)を発表した。同リストはムスタクバル潮流のバースィム・サブア前内務地方行政大臣(シーア派)、無所属のサラーフ・ハラカ(シーア派)、進歩社会主義党のアイマン・シュカイル国民議会議員(ドゥルーズ派)、無所属(進歩社会主義党推薦)のサラーフ・フナイン国民議会議員(マロン派)、無所属(進歩社会主義党推薦)のエドモーン・ガリユース(マロン派)、国民自由党のイリヤース・アブー・アースイー(マロン派)から構成された。なおこの席上で、サラーフ・フナイン国民議会議員は、①自由、独立、主権の拡充、②国民対話の促進、③国内の政治対立への武器の未使用、④国民議会、立憲制の活性化、⑤ターイフ合意の遵守、⑥イスラエルによる占領地の解放、⑦国連安保理決議第1701号の遵守、⑧パレスチナ人の帰化反対と帰還権の保障などを骨子とする選挙綱領を発表した(*al-Hayat*, May 5, 2009、Nahamet.com, May 2, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は、自由国民潮流が候補者選定とリスト作成を主導した。最大の争点となったのはシーア派枠の人選で、自由国民潮流とアマル運動が対立し、調整が難航した(*al-Hayat*, April 20, 2009、Nahamet.com, April 20, 2009)。

シーア派枠をめぐる、3月8日勢力は2人の立候補者のうちの1人をヒズブッラーのアリー・アンマール('Ali 'Ammar)国民議会議員とすることで合意し、2009年4月1日、ハサン・ナスルッラー書記長が、ベイルート県第2区、南部県スール郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県バルベック郡・ヘルメル郡の立候補者とともにその擁立を正式に発表した(*al-Hayat*, April 1, 2009、「XVI. ナバティーヤ県ナバティーヤ郡」を参照)。しかしもう1人の立候補者を誰にするかについて、アマル運動と自由国民潮流が激しく対立した。アマル運動がタラール・ハートゥーム(Talal Hatum)政治局員の擁立を求めたのに対して(*al-Hayat*, April 1, 2009)、自由国民潮流はラムズイー・カンジュ(Ramzi Kanj)の擁立を主張し、その擁立を見送った場合の代償をアマル運動に求めた(*al-Hayat*, April 7, 2009、*al-Nahar*, April 6, 2009、Nahamet.com, April 6, 2009)。

アマル運動と自由国民潮流の対立はヒズブッラーの仲介のもとで調整が進められたが、立候補者選定は難航した。事態打開のため、ヒズブッラーは2009年4月8日、自らが擁立した候補者の出馬再検討も念頭に、バアブダー郡だけでなく、南部県ジェズィーン郡、ベカーア県バルベック・ヘルメル郡における立候補者を調整するための以下三つの妥協案を提示した——①南部県ジェズィーン郡のキリスト教徒枠(マロン派2議席、ギリシャ・カトリック1議席)に関して、自由国民潮流は2人を擁立するとの要求を撤回し、アマル運動、ヒズブッラー、自由国民潮流が1人ずつ擁立することを認める、②バアブダー郡のシーア派枠に関して、アマル運動はタラール・ハートゥーム政治局員の擁立を

¹³ 2009年5月25日、アブドゥッラー・ファルハート国民議会議員は勝算がないとの理由で正式に立候補を取りやめた(*al-Hayat*, May 27, 2009、Nahamet.com, May 26, 2009)。

断念し、自由国民潮流のラムズィー・カンジュ擁立を認める、③アマル運動はタラール・ハートゥーム政治局員の擁立断念の代償として、ベカーア県バアルベック・ヘルメル郡のシーア派枠でヒズブッラーに割り当てられていた 5 議席(うち 1 人は推薦)のうちの 1 人を人選する(*al-Hayat*, April 9, 2009, Nahamet.com, April 9, 2009、[「XV. 南部県ジェズズィーン郡」](#)、[「XXI. ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡」](#)を参照)。しかしこの案は自由国民潮流によって拒否された。

続いてヒズブッラーは 2009 年 4 月 22 日、南部県ジェズズィーン郡、ベカーア県バアルベック・ヘルメル郡に代えてペイルート県第 2 区とバアブダー郡の立候補者調整を結びつけて、以下のような打開案を提示した——①ペイルート県第 2 区のシーア派枠に関して、ヒズブッラーはアミン・シッリー国民議会議員の立候補を辞退し、アマル運動のハーニー・クバイスィーの擁立を認める、②その代償としてアマル運動はタラール・ハートゥーム政治局員の擁立を断念し、自由国民潮流のラムズィー・カンジュ擁立を認める(*al-Hayat*, April 23, 2009, Nahamet.com, April 23, 2009、[「IV. ペイルート県第 2 区」](#)を参照)。この案はアマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長によって受諾され、バアブダー郡のシーア派枠は、ヒズブッラーのアリー・アンマール国民議会議員と自由国民潮流のラムズィー・カンジュで決着するかに思えた。だが、ラムズィー・カンジュ擁立の是非は、南部県ジェズズィーン郡でのアマル運動と自由国民潮流の候補者調整が終了するまで最終決定が猶予された。そして、ラムズィー・カンジュとともに、ヒズブッラーが推薦する無所属のビラール・ファルハート(Bilal Farhat)、バッサム・ハムダル(Bassam Hamdar)、ファーディー・アッラーマ(Fadi 'Allama)らも「最善の候補を設定するため」との名目でリスト参加の可能性を残された(*al-Hayat*, April 27, 2009)。

その後、バアブダー郡のシーア派枠は、ジェズズィーン郡におけるアマル運動と自由国民潮流の対立を解消するべく、再び議論の俎上に上った。2009 年 5 月 4 日、ヒズブッラーは以下のような妥協案を提示し、対立解消をめざしたのである——①バアブダー郡のシーア派枠に関して、ヒズブッラーはアリー・アンマール国民議会議員の擁立を断念し、自由国民潮流が 2 人のシーア派候補者を擁立することを認める、②この代償として、自由国民潮流はジェズズィーン郡におけるマロン派枠 1 人を放棄し、アマル運動が推薦するサミール・アーザール(Samir 'Azar)国民議会議員のリスト参加を認める(Nahamet.com, May 5, 2009、*al-Safir*, May 5, 2009、[「XV. 南部県ジェズズィーン郡」](#)を参照)。しかしこうした一連の妥協案の提示も空しく、アマル運動と自由国民潮流はジェズズィーン郡でそれぞれ独自のリストを作成することを決定し、3 月 8 日勢力内の立候補者調整は完了した([「XV. 南部県ジェズズィーン郡」](#)を参照)。そして最終決定を猶予されていたバアブダー郡のシーア派枠に関して、5 月 8 日、アマル運動と自由国民潮流はヒズブッラーによる仲介を労うかたちで各々の要求を撤回し、ヒズブッラーのメンバーであるアリー・アンマール国民議会議員と、同党が推薦するビラール・ファルハートの擁立に合意した(*al-Hayat*, May 9, 2009, Nahamet.com, May 8, 2009)。

ドゥルーズ派枠をめぐるのは、前述の通り、レバノン民主党政首のタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣がドーハ合意の原則に従い、3 月 14 日勢力に属する進歩社会主義党のワリード・ジュンブラート元難民大臣との選挙同盟をめざした。「均衡崩壊」の戦いにおいてタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣によりワリード・ジュンブラート元難民大臣との停戦を仲介されたヒズブッラーはこの動きに同調した。だが 3 月 8 日勢力のそれ以外の組織はアレイ郡で 3 月 14 日勢力と選挙同盟を結ぶことに反対した(*al-Nahar*, April 1, 2009, Nahamet.com, April 1, 2009)。そして自由国民潮流は同組織幹部か無所属のウマル・アアワル('Umar al-A'war)、ナディーム・アアワル(Nadim al-A'war)の擁立を主唱する一方、レバノン・タウヒード潮流はヒシャム・アアワル(Hisham al-A'war)を、レバノン民主党はファーディー・アアワル(Fadi al-A'war)の擁立を主張した。自由国民潮流、レバノン・イスラーム潮流、レバノン民主党、そしてシリア民族社会党が折衝を重ねた結果、これらの組織はレバノン民主党のファーディー・アアワルを擁立することに合意した(*al-Hayat*, May 10, 2009, Nahamet.com, May 9, 2009)。

マロン派枠をめぐる、自由国民潮流が 2009 年 1 月から立候補者選定を本格化させた(*al-Hayat*, April 1, 2009)。自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官はヒクマト・ディーブ(Hikmat Faraj Dib)¹⁴、アラーン・アウン(Alan 'Awn)といった自由国民潮流のメンバーの擁立を確定する一方、シュカイブ・クルトゥバーウィー(Shukayb Qurtbawi)弁護士組合前総裁、ナージー・ガーリユース(Naji Ghariyus)、ジョゼフ・アブー・ジャウダ(Juzif Abi Jawda)退役准将といった無所属との折衝を行った(*al-Hayat*, Januray 12, 2009, March 25, 2009, April 1, 2009, April 3, 2009, April 20, 2009, Nahamet.com, April 20, 2009)。また 2008 年 12 月上旬からジョゼフ・フバイカ(Juzif Hubayqa)党首を擁立すべく選挙の

¹⁴ 当初はペイルート県第 3 区からの立候補が検討されていた(*al-Hayat*, April 1, 2009)。

準備を開始していた国民世俗民主党(ワアド党)との立候補者の調整を行った(*al-Hayat*, December 7, 2008)。4月22日、これらの立候補者たちはミシェル・アウン元国軍司令官と会談し、自由国民潮流のヒクマト・ディーブ、アラーン・アウン、無所属のナージー・ガーリユースをリストに参加させることに合意し、シュカイブ・クルトゥバーウィー弁護士組合前総裁、ジョゼフ・アブー・ジャウダ退役准将、ワアド党党首のジョゼフ・フバイカは同日、立候補を辞退した(*al-Hayat*, April 23, 2009)。

2009年5月9日、自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官は変化改革リストを発表した。同リストは、ヒズブツラーのアリー・アンマール国民議会議員(シーア派)、無所属(ヒズブツラー推薦)のビラール・ファルハート(シーア派)、レバノン民主党(ヒズブツラー推薦)のファーディー・アアワル(ドゥルーズ派)、無所属(自由国民潮流推薦)のナージー・ガーリユース(マロン派)、自由国民潮流のヒクマト・ディーブ(マロン派)、自由国民潮流のアラーン・アウン(マロン派)から構成された(*al-Hayat*, May 10, 2009, *Nahamet.com*, May 9, 2009、なお変化改革リストの選挙綱領に関しては「[X. レバノン山地県キスラワーン郡](#)」を参照)。

3. その他

2006年3月の第17期国民議会の補欠選挙で当選し、3月8日勢力の変化改革ブロックに所属していた無所属(変化改革ブロック)のピエール・ダッカーシュ(*Biyar al-Dakkash*)国民議会議員は当初、3月8日勢力のリストへの参加をめざし、自由国民潮流との選挙同盟の継続を模索した(*al-Hayat*, Januray 12, 2009)。だが自由国民潮流が作成を主導するリストへの参加の道を閉ざされ、第3のリストの作成をめざした(*al-Hayat*, March 21, 2009)。彼は2009年5月19日、無所属のサアド・サリーム(*Sa'd Salim*, シーア派)と選挙同盟を結成したが(*al-Hayat*, May 20, 2009, *Nahamet.com*, May 16, 2009, May 19, 2009)、他の立候補者との調整は難航し、5月29日、リスト作成の断念を宣言し(*al-Hayat*, May 30, 2009)、無所属として選挙戦に臨んだ。

4. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者151,590人中84,546人が投票を行った。うち有効票は83,606票、無効票は526票、白票は414票、投票率は55%であった。当選者は、変化改革リストの6人、ヒズブツラーのアリー・アンマール国民議会議員(シーア派)、無所属(ヒズブツラー推薦)のビラール・ファルハート(シーア派)、レバノン民主党(ヒズブツラー推薦)のファーディー・アアワル(ドゥルーズ派)、無所属(自由国民潮流推薦)のナージー・ガーリユース(マロン派)、自由国民潮流のヒクマト・ディーブ(マロン派)、自由国民潮流のアラーン・アウン(マロン派)で、得票数はそれぞれ44,995票、44,181票、45,718票、44,735票、45,386票、45,055票だった。落選した無所属国民決定リストの6人、ムスタクバル潮流のバースィム・サブア前内務地方行政大臣(シーア派)、無所属のサラーフ・ハラカ(シーア派)、進歩社会主義党のアイマン・シュカイル国民議会議員(ドゥルーズ派)、無所属(進歩社会主義党推薦)のサラーフ・フナイン国民議会議員(マロン派)、無所属(進歩社会主義党推薦)のエドモーン・ガリユース(マロン派)、国民自由党のイリヤース・アブー・アースィー(マロン派)の得票数はそれぞれ37,420票、35,561票、36,287票、37,108票、36,548票、35,742票だった。また無所属で選挙戦に臨んだピエール・ダッカーシュ国民議会議員とサアド・サリームの得票数は1,860票、1,704票だった(*NNA*, June 7, 2009)。

VII. レバノン山地県マトン郡

レバノン山地県マトン郡は定数が8で、マロン派に4議席、ギリシャ正教に2議席、ギリシャ・カトリックに1議席、アルメニア正教に1議席が割り当てられている。*Elnashra.com*[2009]によると人口167,076人の内訳はスンナ派2,736人、シーア派4,147人、ドゥルーズ派1,840人、アラウィー派30人、マロン派74,130人、ギリシャ正教23,814人、ギリシャ・カト

リック 15,271 人、アルメニア正教 25,508 人、アルメニア・カトリック 6,889 人、福音派 2,675 人、マイノリティ 10,013 人、ユダヤ教徒 23 人である。

マトン郡における選挙戦は、マロン派の無党派層と、ギリシャ正教およびアルメニア教徒の組織票が勝敗を決するとされる。第 18 期国民議会選挙においては、3 月 14 日勢力と 3 月 8 日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3 月 14 日勢力

3 月 14 日勢力は 2009 年 2 月 1 日に選挙運動の開始を宣言したレバノン・カタール党最高党首のアミン・ジュマイル (Amin al-Jumayyil) 元大統領がリスト作成を主導した (*al-Hayat*, February 2, 2009, *Nahamet.com*, February 1, 2009)。彼はギリシャ正教徒とアルメニア教徒の間で高い集票力を持つ政党・政治指導者と選挙同盟することが選挙戦を勝ち抜くうえで不可欠と判断し、3 月 8 日勢力を離反したミシェル・ムッル前国民議会副議長 (ギリシャ正教) と、前副議長と長年同盟関係にあり 3 月 8 日勢力に残留したターシュナーク党との選挙同盟をめざした。そしてこの同盟を実現することで、3 月 14 日勢力内の立候補者調整を有利に進めようとした。

ミシェル・ムッル前国民議会議長は 2007 年 11 月のエミール・ラフフド (Imil Lahhud) 大統領任期終了に伴う大統領選出問題をめぐってミシェル・アウン前国軍司令官と対立、2008 年 4 月に変化改革ブロックを離反し、無所属に移籍していた (*al-Hayat*, April 8, 2008)。同年 11 月から大統領を支持する中道ブロックの結成を主唱していた彼は (*The Daily Star*, November 4, 2008)、2009 年 2 月 5 日、マトン郡においてアミン・ジュマイル元大統領が率いるレバノン・カタール党と選挙同盟を結び、中道リストを作成すると発表し、2 月 16 日、両者は統一リストを作成することで合意した (*al-Hayat*, February 17, 2009)。

一方、ターシュナーク党は、2009 年 2 月 5 日にミシェル・ムッル前国民議会議長が同盟参加を呼びかけたのに呼応するかたちで (*al-Hayat*, February 6, 2009)¹⁵、2 月 17 日、マトン郡でレバノン・カタール党と選挙同盟のための調整を行うと発表した (*al-Hayat*, February 18, 2009)。ターシュナーク党の 3 月 14 日勢力への接近はマトン郡に限られず、バイルート県第 1 区、バイルート県第 2 区、ベカーア県ザフレ郡に及んだ ([「III. バイルート県第 1 区」](#)、[「IV. バイルート県第 2 区」](#)、[「XIX. ベカーア県ザフレ郡」](#)を参照)。このうちマトン郡での折衝は、3 月 14 日勢力と 3 月 8 日勢力を仲介役を演じることで、党の立候補者とミシェル・ムッル前国民議会副議長の当選を確実にすることにあつたと考えられる。このことは、例えばターシュナーク党のアグーブ・バクラドゥーニヤーン国民議会議員が 3 月末に、3 月 8 日勢力のリスト作成を主導するミシェル・アウン元国軍司令官にギリシャ正教の立候補者の擁立を控えるよう求め、同勢力がミシェル・ムッル前国民議会副議長に対抗する立候補者を擁立してもこの立候補者には投票しないと述べたことなどから察することができる (*al-Hayat*, March 29, 2009)。しかしターシュナーク党は 2009 年 3 月 23 日、ホヴイク・ムフターリヤーン (Hufik Mukhtariyan) 党首がマトン郡におけるレバノン・カタール党との選挙同盟が合意に達することはないと述べ、折衝が頓挫したことを明らかにした (*Nahamet*, March 23, 2009)¹⁶。またこれを受けるかたちで 4 月 1 日、ターシュナーク党はバイルート県第 1 区、バイルート県第 2 区、ベカーア県ザフレ郡におけるムスタクバル潮流との立候補者調整も断念し、3 月 8 日勢力として選挙戦に挑むことを決定した ([「III. バイルート県第 1 区」](#)、[「IV. バイルート県第 2 区」](#)、[「XIX. ベカーア県ザフレ郡」](#)を参照)。

ターシュナーク党との折衝の失敗に対処すべく、レバノン・カタール党最高党首のアミン・ジュマイル元大統領とミシェル・ムッル前国民議会副議長はアルメニア正教徒の立候補者擁立を検討したが、ターシュナーク党との対決回避が得策と判断し、3 月 14 日勢力のアルメニア正教枠に立候補者を擁立することを断念した (*al-Hayat*, April 6, 2009)。

ターシュナーク党の懐柔に失敗したレバノン・カタール党とミシェル・ムッル前国民議会副議長は、2009 年 4 月初め、以下の立候補者からなるリスト案を作成し、3 月 14 日勢力内での調整を本格化させた——レバノン・カタール党のサーミー・ジュマイル (Sami al-Jumayyil) 中央委員会調整役 (アミン・ジュマイル元大統領の次男、4 月 3 日に立

¹⁵ 2008 年 7 月 10 日、ターシュナーク党のアグーブ・バクラドゥーニヤーン国民議会議員は、ミシェル・ムッル前国民議会副議長の 3 月 8 日勢力からの離反にかかわらず、「歴史的同盟関係」を維持すると表明していた (*The Daily Star*, July 11, 2008, *al-Hayat*, July 11, 2008)。

¹⁶ これに対して、2009 年 3 月 23 日、レバノン・カタール党のサーミー・ジュマイル中央委員会調整役はなぜ合意しないのか分からない、と述べた (*Nahamet.com*, March 23, 2009)。

候補を宣言、マロン派)、民主刷新運動議長のナスィーブ・ラフフード(Nasib Lahhud)前国民議会議員、無所属のサルキース・サルキース(Sarkis Sarkis、マロン派)、無所属(レバノン軍団推薦)のイブラーヒーム・ナッジャール(Ibrahim al-Najjar)法務大臣(マロン派)、無所属のミシェル・ムッル前国民議会副議長(4月6日、立候補を宣言、ギリシャ正教)、無所属のイリヤース・ムハイビル(Iliyas Mukhaybir、ギリシャ正教)、レバノン・カタール党のイリヤース・カラマ(Iliyas Karama、ギリシャ・カトリック)(*al-Hayat*, April 4, 2009, April 7, 2009, Nahamet.com, April 3, 2009, April 6, 2009)。しかしこの案をめぐる、ミシェル・ムッル前国民議会副議長との選挙同盟に反対してきた3月14日勢力内のレバノン軍団、民主刷新運動議長のナスィーブ・ラフフード前国民議会議員が反発した¹⁷。

マロン派をめぐる、レバノン軍団が強硬な候補者擁立を断行した。レバノン軍団は一旦、ミシェル・ムッル前国民議会副議長とアミン・ジュマイイル元大統領に対して無所属のイブラーヒーム・ナッジャール法務大臣の擁立することで同意していた(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 7, 2009, April 8, 2009)。だが2009年4月4日、態度を一変させ、イブラーヒーム・ナッジャール法務大臣でなく、レバノン軍団メンバーのエディー・アビー・ラムウを立候補させると発表し(*al-Hayat*, April 9, 2009、「[III. バイルート県第1区](#)」を参照)、3月14日勢力のリストに彼を含めることを強く主張した。アミン・ジュマイイル元大統領とミシェル・ムッル前国民議会副議長はこの要求を拒否できず、4月9日にエディー・アビー・ラムウのリスト参加を認めた(Nahamet.com, April 9, 2009)。なおこの人選は、バイルート県第1区、レバノン山地県バアブダー郡、同シューフ郡、同アレイ郡、同キスラワーン郡、ベカーア県ザフレ郡でのレバノン・カタール党とレバノン軍団の立候補者擁立争いの一環をなしており、3月14日勢力最大のキリスト教組織としての躍進を果たしたいという意思によって裏打ちされていた(「[III. バイルート県第1区](#)」、「[VI. レバノン山地県バアブダー郡](#)」、「[VIII. レバノン山地県シューフ郡](#)」、「[IX. レバノン山地県アレイ郡](#)」、「[X. レバノン山地県キスラワーン郡](#)」、「[XIX. ベカーア県ザフレ郡](#)」などを参照)。

一方、2009年2月13日に3月14日勢力の枠内で立候補すると宣言したナスィーブ・ラフフード前国民議会議員は(*al-Hayat*, February 14, 2009)、ミシェル・ムッル前国民議会副議長とレバノン・カタール党の統一リスト作成合意(2月16日)に同調し、2月17日には同リストへの参加の意思を表明していた(*al-Hayat*, February 18, 2009)。彼のリスト参加は、ミシェル・ムッル前国民議会副議長とレバノン・カタール党の双方にも同意され、確実に思われた(*al-Hayat*, April 9, 2009, Nahamet.com, April 9, 2009)。しかし4月17日、ナスィーブ・ラフフード前国民議会議員は「リスト作成およびその際の基準の決定に参加できないのなら、いかなる選挙リストにも名を連ねない」と述べ、ミシェル・ムッル前国民議会副議長とレバノン・カタール党がリスト作成を主導することに異議を唱え(*al-Hayat*, April 18, 2009, Nahamet.com, April 17, 2009)、4月18日、内務省に正式に立候補辞退を届け出た(*al-Hayat*, April 19, 2009)。ナスィーブ・ラフフード前国民議会議員の立候補辞退を受け、レバノン・カタール党は無所属のエミール・カナアーン(Imil Kana'an)を、ミシェル・ムッル前国民議会副議長は無所属のピエール・アシュカル(Biyir al-Ashqar)のリスト参加をそれぞれ主張したが、後者が譲歩し、エミール・カナアーンのリスト参加が確定した(*al-Hayat*, April 28, 2009, Nahamet.com, April 27, 2009)。ピエール・アシュカルはその後一時、無所属として選挙戦に臨む姿勢を示したが(*al-Hayat*, April 28, 2009)、最終的には3月14日勢力のために立候補を辞退した。

ギリシャ正教枠をめぐる、レバノン軍団がイマード・アッカーウィー('Imad 'Akkawi)のリスト参加を主張したが(*al-Hayat*, April 8, 2009)、ミシェル・ムッル前国民議会副議長、イリヤース・ムハイビルのリスト参加が確定したのを受け、擁立を断念した。

2009年4月27日、立候補者調整を完了したミシェル・ムッル前国民議会副議長とレバノン・カタール党最高党首のアミン・ジュマイイル元大統領はマトン救済リスト(La'iha al-Inqadh al-Matniya)を発表した。同リストは、レバノン・カタール党のサーミー・ジュマイイル中央委員会調整役(マロン派)、無所属のサルキース・サルキース(マロン派)、無所属(レバノン・カタール党推薦)のエミール・カナアーン(マロン派)、レバノン軍団のエディー・アビー・ラムウ(マロン派)、無所属のミシェル・ムッル前国民議会副議長(ギリシャ正教)、無所属のイリヤース・ムハイビル(ギリシャ正教)、レバノン・カタール党のイリヤース・カラマ(ギリシャ・カトリック)からなっていた。またリスト発表に合わせて、レバノン・

¹⁷ 2009年3月15日、ナスィーブ・ラフフード前国民議会議員は、レバノン・カタール党とミシェル・ムッル前国民議会副議長との選挙協力に関して、「ミシェル・ムッル前国民議会副議長との和解は我々が彼に選挙同盟の決定権を与えたことを意味しない」と反発していた(*al-Hayat*, March 16, 2009, Nahamet.com, March 15, 2009)。またレバノン軍団のジョルジュ・アドワーン前国民議会議員も「原則を度外視した正常化」を拒否すると述べた(*al-Hayat*, March 16, 2009, Nahamet.com, March 16, 2009)。

カタール党のサーミー・ジュマイール中央委員会調整役は、①真の独立と主権の実現、②枢軸国(シリア、イラン)の政策からの脱却、③民主主義制度の維持と多数代表制の尊重、④マロン派教会の支持、⑤大統領の支持、⑥治安組織の支持、⑦唯一の国防機関である国軍の支持を骨子とする選挙綱領を発表した(*al-Hayat*, April 28, 2009、*Nahamet.com*, April 27, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は、自由国民潮流が立候補者選定とリスト作成を主導し、シリア民族社会党、無所属の政治指導者と折衝を行った。前述の通り、ターシュナーク党は当初3月14日勢力との選挙同盟を検討していたが、2009年4月初めまでに3月8日勢力への残留を決定し、自由国民潮流とともに選挙戦に臨んだ。

マロン派枠をめぐる、ミシェル・アウン元国軍司令官は2009年初めの段階で自由国民潮流のイブラーヒーム・カナアーン(Ibrahim Kana'an)国民議会議員、サリム・サルハブ(Salim Salhab)国民議会議員、ナビール・ニコラー(Nabil Niquila)国民議会議員の擁立を決定した(*al-Hayat*, January 12, 2009)。これに対して2009年2月16日、シリア民族社会党はガッサーン・アシュカル(Ghassan al-Ashqar)国民議会議員の立候補を決定する一方、党と関係が良好な無所属のエミール・エミール・ラフフード(Imil Imil Lahhud)前国民議会議員(エミール・ラフフード前大統領の長男)を3月8日勢力のリストに加えることを自由国民潮流に求めた(*al-Hayat*, February 17, 2009)。そしてこの要求に呼応するかたちで、エミール・エミール・ラフフード前国民議会議員が立候補の準備を本格化させ、3月24日にシリア民族社会党のガッサーン・アシュカル国民議会議員と同じリストに名を連ねると宣言した(*al-Hayat*, February 17, 2009, March 25, 2009)。しかし自由国民潮流は同日、ガッサーン・アシュカル前国民議会議員のみを擁立を認めることでシリア民族主義党と選挙同盟を結ぶと発表し、エミール・エミール・ラフフード前国民議会議員を拒否した(*al-Hayat*, March 25, 2009)。これにより、リスト参加の可能性を絶たれたエミール・エミール・ラフフード前国民議会議員は4月20日に立候補を取り消し、3月8日勢力を支持すると発表した(*Nahamet.com*, April 20, 2009)。一方、シリア民族社会党は4月5日、党首のアスアド・ハルダーン元労働大臣がナバティヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、北部県アッカー郡、同北部県クーラ郡の4人の立候補者とともに、ガッサーン・アシュカル前国民議会議員のマトン郡からの立候補を正式に発表した(*Nahamet*, April 5, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009)。

ギリシャ正教枠をめぐる、自由国民潮流のガッサーン・ムハイビル(Ghassan Mukhaybir)国民議会議員と無所属で女性歌手ファイルーズ(Fayruz)のプロデューサーの1人イイヤース・ラフバーニー(Ilyas al-Rahbani)の長男ガッサーン・ラフバーニー(Ghassan al-Rahbani)の擁立が確定した。

ギリシャ・カトリック枠をめぐる、自由国民潮流のエドガール・マアルーフ(Idghar Ma'luf)国民議会議員と無所属のミシェル・サマーハ元情報大臣のいずれを擁立するかで調整が難航したが、前者のリスト参加が確定し、後者は立候補を辞退した(*al-Hayat*, January 12, 2009, February 17, 2009)。

アルメニア正教枠は、3月14日勢力との選挙同盟を断念したターシュナーク党が立候補者選定のフリーハンドを得た。ターシュナーク党はアグーブ・バクラードゥーニヤーン国民議会議員に加えて、ナーザーリート・サーブーンジヤーン(Nazarit Sabunjiyan)を控えとして立候補させた(ELNASHRA, April 8, 2009)。2009年4月7日、立候補届出期間が終わり、3月14日勢力がアルメニア正教の立候補者を擁立しないことが確定すると、ターシュナーク党はナーザーリート・サーブーンジヤーンの立候補を取り下げた。これを受け、4月23日、ズィヤード・ノバルード内務地方行政大臣はアグーブ・バクラードゥーニヤーン国民議会議員の無投票当選を発表した(Akhbar al-Sharq, April 23, 2009)。

2009年4月23日、ミシェル・アウン元国民議会議員は、無投票当選したターシュナーク党のアグーブ・バクラードゥーニヤーン国民議会議員を含む3月8日勢力の変化改革リストを発表した。同リストは、自由国民潮流のイブラーヒーム・カナアーン国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のサリム・サルハブ国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のナビール・ニコラー国民議会議員(マロン派)、シリア民族社会党のガッサーン・アシュカル国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のガッサーン・ムハイビル国民議会議員(ギリシャ正教)、無所属のガッサーン・ラフバーニー(ギリシャ正教)、自由国民潮流のエドガール・マアルーフ国民議会議員(ギリシャ・カトリック)、ターシュナーク党のアグーブ・

バクラードゥーニヤーン国民議会議員(アルメニア正教)から構成された(*al-Hayat*, April 24, 2009, Nahamet.com, April 23, 2009、なお変化改革リストの選挙綱領に関しては「[X. レバノン山地県キスラワーン郡](#)」を参照)。

3. その他

2009年2月21日、元レバノン軍団司令官で自由戦線のフアード・アブー・ナーディル(Fu'ad Abu Nasir)総合調整役が立候補の意思を表明した(*al-Hayat*, February 22, 2009)。彼は3月20日、元レバノン軍団幹部のサルマーン・サマーハ(Salman Samaha)らの支援を受け第3のリストを準備していると発表し(*al-Hayat*, March 21, 2009)、工業協会のファデー・アブド(Fadi 'Abbud)、アブドゥッラー・アブー・ハビーブ('Abd Allah Abu Habib)元大使らに立候補と選挙同盟を求めたが(*al-Hayat*, March 25, 2009)、折衝は失敗に終わり、単独・無所属で選挙戦に臨んだ。

4. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者170,744人中96,748人が投票を行った。うち有効票は95,849票、無効票は439票、白票は460票、投票率は56%であった。当選者は、変化改革リストの6人のうち、無当選投票を果たしたターシュナーク党のターシュナーク党のアグーブ・バクラードゥーニヤーン国民議会議員(アルメニア正教)を除く5人、自由国民潮流のイブラーヒーム・カナアーン国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のサリーム・サルハブ国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のナビール・ニコラー国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のガッサーン・ムハイビル国民議会議員(ギリシャ正教)、自由国民潮流のエドガール・マアルーフ国民議会議員(ギリシャ・カトリック)と、マトン救済リストの2人、レバノン・カタール党のサーミー・ジュマイル中央委員会調整役(マロン派)、無所属のミシェル・ムッ前国民議会副議長(ギリシャ正教)で、得票数はそれぞれ49,147票、48,673票、47,844票、46,874票、48,577票、47,688票、48,953票だった。落選した変化改革リストの2人、シリア民族社会党のガッサーン・アシュカル国民議会議員(マロン派)、無所属のガッサーン・ラフバーニー(ギリシャ正教)の得票数はそれぞれ45,759票、46,204票、マトン救済リストの3人、無所属のサルキース・サルキース(マロン派)、無所属(レバノン・カタール党推薦)のエミール・カナアーン(マロン派)、レバノン軍団のエディー・アビー・ラムウ(マロン派)、無所属のイリヤース・ムハイビル(ギリシャ正教)、レバノン・カタール党のイリヤース・カラーマ(ギリシャ・カトリック)の得票数はそれぞれ45,252票、44,602票、44,423票、44,297票、44,543票、無所属のフアード・アブー・ナーディルの得票数は1,997票だった(NNA, June 7, 2009)。

VIII. レバノン山地県シューフ郡

レバノン山地県シューフ郡は定数が8で、スンナ派に2議席、ドゥルーズ派に2議席、マロン派に3議席、ギリシャ・カトリックに1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口173,174人の内訳はスンナ派49,350人、シーア派3,708人、ドゥルーズ派54,080人、マロン派52,816人、ギリシャ正教873人、ギリシャ・カトリック11,458人、アルメニア正教40人、アルメニア・カトリック43人、福音派627人、マイノリティ173人、ユダヤ教徒6人である。

シューフ郡における選挙戦は、ドゥルーズ派住民から圧倒的な支持を受け、他宗派(の政治指導者)を主導する進歩社会主義党が常に優位を保ってきた。第18期国民議会選挙においても、同党の優位のもと、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は、シューフ郡を地盤とする進歩社会主義党が立候補者選定とリスト作成を主導し、ムスタクバル潮流、自由民主党、レバノン軍団と折衝を行った。

スンナ派枠をめぐって、2009年4月4日、進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣が無所属(民主会合ブロック)のムハンマド・ハッジヤール(Muhammad al-Hajjar)国民議会議員と党員のアラーディーン・タッルー(Ala' al-Din Tarru)国民議会議員の擁立を発表した(*al-Hayat*, April 5, 2009)。

ドゥルーズ派枠をめぐって、ワリード・ジュンブラート元難民大臣と、長年にわたる同盟者である無所属(民主会合ブロック)のマルワーン・ハマダ(Marwan Hamada)前通信郵便大臣の立候補が当初から確定していた。

マロン派枠をめぐって、進歩社会主義党が推す無所属(民主会合ブロック)のエリー・アウン(Ili 'Awn)国民議会議員、同じく無所属(民主会合ブロック)のナビール・ブスターニー(Nabil al-Bustani)国民議会議員、レバノン軍団のジョルジュ・アドワーン(Jurj 'Adwan)国民議会議員(「[III. バイルート県第1区](#)」を参照)の現職議員3人と、自由国民党のドゥーリー・シャムウン(Duri Sham'un)党首、ムスタクバル潮流が推す(*The Daily Star*, December 16, 2008)無所属のガッター・ス・フーリー前国民議会議員の合わせて5人がリストへの参加を争った。このなかでもっとも早く立候補の意思を表明したのは自由国民党のドゥーリー・シャムウン党首だった。彼は2008年10月14日、立候補のためにデイル・カマル村長を辞職し、2009年1月初めから選挙運動を開始、2月8日に正式に立候補を宣言した(*The Daily Star*, October 15, 2008, January 12, 2009, *al-Hayat*, October 26, 2008, Nahamet.com, February 9, 2009)。そしてジョルジュ・アドワーン国民議会議員に代わって3月14日勢力のリストに加わることを主張し、レバノン軍団と対立した(*The Daily Star*, December 16, 2008)。事態に対処するため、ワリード・ジュンブラート元難民大臣はまず3月23日、ジョルジュ・アドワーン国民議会議員のリスト参加を決断したうえで(Nahamet.com, March 23, 2009)、4月4日、進歩社会主義党が推薦するナビール・ブスターニー国民議会議員の再立候補を断念し¹⁸、その代わりにドゥーリー・シャムウン党首を擁立するとの譲歩の姿勢を示した(*al-Hayat*, April 5, 2009、なお同様の譲歩に関しては「[V レバノン山地県バアブダー郡](#)」、「[IX. レバノン山地県アレイ郡](#)」を参照)。

しかしこうした動きを逆無とするかのように、ガッター・ス・フーリー前国民議会議員が2009年3月21日に立候補の意思を表明し、3月14日勢力への参加を強く求めた(*al-Hayat*, March 22, 2009)。これに対して、3月30日、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は、サアド・ハリリー国民議会議員に対して電話で「ガッター・ス・フーリー前国民議会議員」がやっていることは、クレイテムの仕業か、外国の仕業か…。彼は自分の店を開こうとしているのか」と述べ不快感を露わにし、サアド・ハリリー国民議会議員がガッター・ス・フーリー前国民議会議員のリスト参加に固執するなら3月14日勢力を脱退すると述べた、と報じられた(Nahamet.com, March 31, 2009, *al-Safir*, March 31, 2009)。この報道内容は進歩社会主義党によって否定されたが、ムスタクバル潮流はワリード・ジュンブラート元難民大臣の意向を踏まえ、ガッター・ス・フーリー前国民議会議員のリスト参加を断念し、同議員に立候補の辞退を求めた(*al-Hayat*, March 30, 2009, *al-Nahar*, April 3, 2009, Nahamet.com, April 3, 2009, *al-Safir*, April 3, 2009)。しかしガッター・ス・フーリー前国民議会議員はこの要求を拒否し、無所属として選挙戦に挑むことを決意した。なおムスタクバル潮流によるガッター・ス・フーリー前国民議会議員の説得の失敗は、バイルート県第1区でのレバノン軍団にリシャール・クューマジヤーンのリスト参加に固執させる一因となった(「[III. バイルート県第1区](#)」を参照)。

ギリシャ・カトリック枠をめぐって、2009年4月4日、ワリード・ジュンブラート元難民大臣が無所属(民主会合ブロック)のニウマ・トゥウマ(Ni'ma Tu'ma)前難民大臣の再立候補を発表した(*al-Hayat*, April 5, 2009, April 6, 2009)。

2009年4月26日、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は3月14日リストを発表した。同リストは、無所属(民主会合ブロック)のムハンマド・ハッジヤール国民議会議員(スンナ派)、進歩社会主義党のアラーディーン・タッルー国民議会議員(スンナ派)、進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣(ドゥルーズ派)、無所属(民主会合ブロック)のマルワーン・ハマダ前通信郵便大臣(ドゥルーズ派)、無所属(民主会合ブロック)のエリー・アウン国民議会議員(マロン派)、レバノン軍団のジョルジュ・アドワーン国民議会議員(マロン派)、自由国民党のドゥーリー・シャムウン党首(マロン派)、無所属(民主会合ブロック)のニウマ・トゥウマ前難民大臣(ギリシャ・カトリック)から構成された(*al-Hayat*, April 27, 2009)。また5月3日、進歩社会主義党結党60周年に合わせて、ワリード・ジュンブラート元難民大臣

¹⁸ ワリード・ジュンブラート元難民大臣は長年にわたって同盟関係にあったブスターニー家からの立候補者を断念した(Nahamet.com, April 1, 2009, *al-Safir*, April 1, 2009)。

はベイルート市内で政治文書を発表し、そのなかで、①3月14日勢力と同盟のもとでの第18期国民議会選挙への参加、②レバノンのアラブ・アイデンティティの防衛、③ターイフ合意の遵守、④レジスタンスの国軍への吸収を通じた国防、⑤国連安保理決議1701号の遵守、⑥ターイフ合意に従ったシリア・レバノン関係の構築、⑦キャンプ外のパレスチナ人の武装解除、⑧パレスチナ人の帰還権と自決権の確認、⑨サービス業、観光業など産業全般の振興、⑩金融、税制改革、⑪組合の活性化、⑫教育改革、⑬行政改革などを掲げた(*al-Hayat*, May 4, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は自由国民潮流が統一リスト作成を主導した。だがレバノン山地県バアブダー郡、アレイ郡と合わせてシューフ郡においてもワリード・ジュンブラート元難民大臣との選挙同盟をめざしていたタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣がスンナ派枠とドゥルーズ派枠で3月14日勢力との全面対決を回避しようとしたことが、立候補者調整を難航させた。

スンナ派枠とドゥルーズ派枠をめぐって、自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官はベイルート県第2区と同様、3月14日勢力と3月8日勢力で議席を分配することをめざした。

スンナ派枠に関して、自由国民潮流は2009年3月末、無所属のザーヒル・ハティーブ(*Zahir al-Khatib*)の擁立を確定した(*al-Hayat*, March 31, 2009)。もう1人の立候補者は擁立せず、3月14日勢力に1議席を与えることでザーヒル・ハティーブの当選を保証させようとした。だが3月14日勢力はこれには応じなかった。

ドゥルーズ派枠に関して、自由国民潮流は2009年4月初め、レバノン・タウヒード潮流との選挙同盟を決定し、同潮流のバハー・アブドゥルハーリク(*Baha' Abd al-Khaliq*)の擁立を進めた(*al-Hayat*, April 3, 2009)。しかしこれに対して、レバノン山地県バアブダー郡、アレイ郡においてドーハ合意の原則に従い、3月14日勢力(とりわけ進歩社会主義党)との対決回避をめざしていたレバノン民主党党首のタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣が異議を唱えた。彼は、両郡において立候補した自身と党員の当選を確実にするため、3月14日リストに名を連ねるドゥルーズ派立候補者2人、すなわち進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣と無所属(民主会合ブロック)のマルワーン・ハマード前通信郵便大臣の当選を妨げるような立候補者の擁立に難色を示した(*al-Hayat*, March 22, 2009、[「VI. レバノン山地県バアブダー郡」](#)、[「IX. レバノン山地県アレイ郡」](#)を参照)。ミシェル・アウン元国軍司令官は当初、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣の意見を踏まえドゥルーズ派枠からの立候補者の擁立を見送ることも検討したが(*al-Hayat*, April 3, 2009)、バハー・アブドゥルハーリク1人の擁立を決定した。なおスンナ派枠と同様、もう1人の立候補者は擁立せず、3月14日勢力に1議席を与えることでバハー・アブドゥルハーリクの当選を保証させようとした。だが3月14日勢力はこれには応じなかった。

マロン派枠をめぐって、自由国民潮流は2009年4月初め、同潮流メンバーのアントワーン・ブスターニー(*Antwan al-Bustani*)、ナスィーフ・カズィー(*Nasif al-Qazzi*)、ミシェル・アウン元国軍司令官の親戚のマリオ・アウン(*Mariyu 'Awn*)社会問題大臣¹⁹の擁立を決定した(*al-Hayat*, April 3, 2009, April 7, 2009, *Nahamet.com*, April 6, 2009)。

ギリシャ・カトリック枠をめぐって、自由国民潮流は2009年4月初め、同潮流メンバーのアブドゥー・ムンズィル('Abdu Mundhir)の擁立を決定した(*al-Hayat*, April 3, 2009, April 7, 2009, *Nahamet.com*, April 6, 2009)。

2009年4月11日、ミシェル・アウン元国軍司令官は変化改革リストを発表した。同リストは、無所属(自由国民潮流推薦)のザーヒル・ハティーブ(スンナ派)、レバノン・タウヒード潮流のバハー・アブドゥルハーリク(ドゥルーズ派)、自由国民潮流のアントワーン・ブスターニー(マロン派)、自由国民潮流のナスィーフ・カズィー(マロン派)、自由国民潮流のマリオ・アウン社会問題大臣(マロン派)、自由国民潮流のアブドゥー・ムンズィル(ギリシャ・カトリック)から構成された。同リストは、スンナ派枠1議席とドゥルーズ派枠1議席を欠いた不完全なものだった(*al-Hayat*, April 12, 2009, *Nahamet.com*, April 11, 2009、なお変化改革リストの選挙綱領に関しては[「X. レバノン山地県キスラワーン郡」](#)を参照)。

¹⁹ マロン派枠に関して、自由国民潮流のナージー・ブスターニー(*Naji al-Bustani*)のリスト参加も検討された(*al-Hayat*, April 3, 2009)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者181,949人中91,642人が投票を行った。うち有効票は89,111票、無効票は1,029票、白票は1,502票、投票率は50%であった。当選者は3月14日リストの8人、無所属(民主会合ブロック)のムハンマド・ハッジャール国民議会議員(スンナ派)、進歩社会主義党のアラッディーン・タッルー国民議会議員(スンナ派)、進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣(ドゥルーズ派)、無所属(民主会合ブロック)のマルワーン・ハマダ前通信郵便大臣(ドゥルーズ派)、自由国民党のドゥーリー・シャムウン党首(マロン派)、無所属(民主会合ブロック)のエリー・アウン国民議会議員(マロン派)、レバノン軍団のジョルジュ・アドワーン国民議会議員(マロン派)、無所属(民主会合ブロック)のニウマ・トゥマ前難民大臣(ギリシャ・カトリック)で、得票数はそれぞれ62,072票、62,045票、62,450票、61,557票、61,936票、60,483票、58,502票、62,578票であった。敗北した変化改革リストの6人、無所属(自由国民潮流推薦)のザーヒル・ハティーブ(スンナ派)、レバノン・タウヒード潮流のバハー・アブドゥルハーリク(ドゥルーズ派)、自由国民潮流のマリオ・アウン社会問題大臣(マロン派)、自由国民潮流のナースィーフ・カズィイー(マロン派)、自由国民潮流のアントワーン・ブスターニー(マロン派)、自由国民潮流のアブドゥー・ムンズィル(ギリシャ・カトリック)の得票数はそれぞれ21,703票、20,933票、22,990票、21,269票、19,873票、20,721票だった。また無所属で選挙戦に望んだガッターズ・フーリー前国民議会議員(マロン派)の得票数は6,928票だった(NNA, June 7, 2009)。

IX. レバノン山地県アレイ郡

レバノン山地県アレイ郡は定数が5で、ドゥルーズ派に2議席、マロン派に2議席、ギリシャ正教に1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口113,987人の内訳はスンナ派1,313人、シーア派3,283人、ドゥルーズ派60,246人、アラウィー派0人、マロン派28,193人、ギリシャ正教15,091人、ギリシャ・カトリック3,400人、アルメニア正教553人、アルメニア・カトリック82人、福音派772人、マイノリティ1,002人、ユダヤ教徒52人である。

アレイ郡における選挙戦は、ドゥルーズ派の組織票が勝敗を決するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。だが同郡を地盤とする2人のドゥルーズ派政治指導者、すなわち3月14日勢力を主導する進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣と、3月8日勢力に属するレバノン民主党党首のタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣は、ドーハ合意後の和解を受けるかたちで直接対立を回避すべく、バアブダー郡、シューフ郡と合わせて選挙同盟の結成を試みた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣が立候補者選定とリスト作成を主導した。リスト作成において、彼は2008年5月の「均衡崩壊」の戦いでアレイ市およびその均衡にロケット弾攻撃を行ったヒズブッラー(およびアマル運動)と軍事的に敗北した進歩社会主義党の停戦を仲介したレバノン民主党党首のタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣に配慮したかたちでドゥルーズ派枠の調整作業を行う一方、キリスト教枠に関しては3月14日勢力のレバノン・カタール党、レバノン軍団と折衝を行った。

ドゥルーズ派枠をめぐって、進歩社会主義党では当初、党員のアクラム・シュハイブ元環境大臣(Akram Shuhayyib)、ファイサル・サーイグ国民議会議員の再出馬が予想されていた。だが、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は2009年3月下旬、ドーハ合意の原則に従い、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣の当選を保證すべく、アレイ郡のドゥルーズ派立候補者数をアクラム・シュハイブ元環境大臣1人とすることを決断し、3月30日、ファイサル・サーイグ国民議会議員に立候補届出を猶予するよう指示し、4月5日、同議員の立候補を断念したと謝意を示した(*al-Hayat*, March 31, 2009, April 6, 2009)。そしてこの決断の代償として、彼はタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣に対して、①3月8日勢力のリスト作成を主導する自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官を説得し、リスト作成において3月8日勢力も立候補者を1人に限定し、アクラム・シュハイブ元環境大臣の当選を保證すること(*al-Hayat*, April 2, 2009,

April 6, 2009)、②バアブダー郡のドゥルーズ派枠からの立候補者も控え、進歩社会主義党のアイマン・シュカイル国民議会議員の当選を保証すること(*al-Nahar*, April 1, 2009, *Nahamet.com*, April 1, 2009)を求めた。この要求に対して、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣(およびヒズブッラー)は前向きな姿勢を示し、アレイ郡のドゥルーズ派枠の配分は後述の通り紆余曲折を経ながらも実現した。だが、3月8日勢力を構成する組織の多くは、バアブダー郡(およびシユーフ郡)のドゥルーズ派枠で妥協することを拒否し、両郡での立候補者擁立を決定した(「[VI. レバノン山地県バアブダー郡](#)」、「[VIII. レバノン山地県シユーフ郡](#)」を参照)。

マロン派枠をめぐるのは、進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣が無所属(民主改革ブロック)のヘンリー・フルウ(Hinri Hulw)元国家大臣、フアード・サアド(Fu'ad al-Sa'd)国民議会議員の再出馬を決定した。

ギリシャ正教枠をめぐるのは、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は当初、無所属(民主会合ブロック)のアントワーン・アンドラーウス(Antwan Andraws)国民議会議員の擁立をめざした。だがこれに対して、レバノン・カタールイブ党とレバノン軍団が異議を唱えた。レバノン・カタールイブ党は最高党首のアミン・ジュマイル元大統領が2009年3月末、レバノン山地県シユーフ郡での党員の立候補を辞退することの代償として、党員のファーディー・ハブル(Fadi al-Habr)の立候補を認めるよう求めた(*al-Hayat*, March 30, 2009, *al-Nahar*, April 3, 2009, *Nahamet.com*, April 3, 2009, *al-Safir*, April 3, 2009, 「[VIII. レバノン山地県シユーフ郡](#)」を参照)。またレバノン軍団のサミール・ジャアジャア執行委員会議長はレバノン・カタールイブ党に対抗するかたちでジハード・マター(Jihad Mata)の擁立を求めた(*al-Hayat*, March 30, 2009)。これらの要求を受け4月5日、ワリード・ジュンブラート元難民大臣は、民主会合ブロックが有してきたレバノン山地県アレイ郡、バアブダー郡の議席に関して、3月14日勢力内での同盟関係維持のため、アレイ郡のアントワーン・アンドラーウス国民議会議員とバアブダー郡のアブドゥッラー・ファルハート元難民大臣の立候補を断念すると発表した(*al-Hayat*, April 6, 2009, *Nahamet.com*, April 6, 2009, 「[VI. レバノン山地県バアブダー郡](#)」を参照)。そしてアントワーン・アンドラーウス国民議会議員に代えてレバノン・カタールイブ党のファーディー・ハブルの立候補への支持を表明した。そしてこれを受け、レバノン・カタールイブ党最高党首のアミン・ジュマイル最高党首が4月21日、以下の通り党の立候補者を改めて発表した。ナディーム・ジュマイル(ベイルート県第1区、マロン派)、サーミー・ジュマイル(レバノン山地県マトン郡、マロン派)、イリヤース・カラーマ(レバノン山地県マトン郡、ギリシャ・カトリック)、ファーディー・ハブル(レバノン山地県アレイ郡、ギリシャ正教)、サジュアーン・カズィー(Saj'an al-Qazzi, レバノン山地県キスラワーン郡、マロン派)、エリー・マールーニー(Ili Maruni)観光大臣(ベカーア県ザフレ郡、マロン派)、サアドゥッラー・アラドゥー(Sa'd Allah 'Aradu, ベカーア県バアルベック・ヘルメル郡、ギリシャ・カトリック)、サミール・サアード(Samir Sa'ada, ベカーア県トリポリ郡、マロン派)(*al-Hayat*, April 22, 2009)。

2009年5月1日、ブハムドゥーン市で3月14日リストが発表された。同リストは、進歩社会主義党のアクラム・シュハイブ元難民大臣(ドゥルーズ派)、無所属(進歩社会主義党推薦)のフアード・サアド国民議会議員(マロン派)、無所属(進歩社会主義党推薦)のヘンリー・フルウ元国家大臣(マロン派)、レバノン・カタールイブ党のファーディー・ハブル(ギリシャ正教)から構成された。同リストは、ドゥルーズ派枠1議席を欠いた不完全なものだった。またこの席上、リストの面々は、レバノン特別法廷を通じたラフィーク・ハリリー元首相暗殺事件など一連の暗殺(未遂)事件の真相究明、国軍以外の組織による武器所有への反対、シリア、イランの影響力排除などを掲げ、3月8日勢力との対決職を明示した(*al-Hayat*, May 2, 2009, *Nahamet.com*, May 1, 2009)。だが同日、ワリード・ジュンブラート元難民大臣はアレイ郡での投票に関して、3月14日勢力のリストとタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣に投票するよう呼びかけた(*Nahamet.com*, May 2, 2009)。

2.3月8日勢力

3月8日勢力は自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官とレバノン民主党党首のタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣が立候補者選定とリスト作成を主導したが、3月14日勢力との対立回避の是非をめぐる、ドゥルーズ派とギリシャ正教派の調整が難航した。

ドゥルーズ枠をめぐって、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣は2009年3月末、進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣と同様、ドーハ合意の原則に従うとの方針を示し、アレイ郡(およびバアブダー郡、シューフ郡)において3月14日勢力との対決を回避するための立候補者調整を行う意思を明示した(Nahamet.com, March 23, 2009)²⁰。これに対して、ミシェル・アウン元国軍司令官はタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣とレバノン・タウヒード潮流代表のスライマーン・サーイグ(Sulayman al-Sayigh)を含めた3月8日勢力の統一リストを作成することで、3月14日勢力のリストとの対決色を明示しようとした(*al-Hayat*, April 3, 2009)。

ミシェル・アウン元国軍司令官の姿勢に対して、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣は、ドゥルーズ派の立候補者を2人擁立して、ワリード・ジュンブラート元難民大臣との協力する可能性を排除することに正当な理由がないと反発するとともに、ミシェル・アウン元国軍司令官の姿勢を支持するレバノン・タウヒード潮流やシリア民族社会党が協調性を欠くと非難した(*al-Hayat*, April 2, 2009)。2009年4月18日、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣はラービヤ市でミシェル・アウン元国軍司令官と共同記者会見を行い、「ミシェル・アウン將軍との同盟は2005年、彼がベイルートに帰還する直前にさかのぼる」と述べ、アレイ郡とバアブダー郡で3月8日勢力として選挙戦を戦うことを確認した(*al-Hayat*, April 16, 2009, April 19, 2009, Nahamet.com, April 18, 2009)。だが、彼は、自身の当選を保証した進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣の要請に応えるべく、ドゥルーズ派枠からの立候補者数を1人に制限することに固執し、ミシェル・アウン元国軍司令官にレバノン・タウヒード潮流のスライマーン・サーイグの立候補を断念するよう求めた。この要求にミシェル・アウン元国軍司令官は、3月14日勢力との談合によってドゥルーズ派の投票率が下がり、3月8日勢力が不利な選挙戦を強いられると改めて反対した(*al-Hayat*, April 27, 2009)。タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣のこの主張は、ヒズブツラーによって後援され(*al-Hayat*, April 27, 2009)、ミシェル・アウン元国軍司令官も最終的には妥協した。

ギリシャ正教枠をめぐって、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣とシリア民族社会党が対立した。ドゥルーズ派枠の立候補者選定においてドーハ合意の原則のもと3月14日勢力との対決を回避しようとしていたタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣は、ギリシャ正教枠においても中立的な立候補者の擁立をめざし、無所属のマルワーン・アブー・ファーディル(Marwan Abu Fadil)を推薦した(*al-Hayat*, April 20, 2009)。これに対して、自由国民潮流とともに3月14日勢力との対決色を明示しようとしていたシリア民族社会党は2009年4月7日、ハリール・ジュブラーイル・ハイルッラー(Khalil Jubrayil Khayr Allah)の立候補を発表し(*al-Hayat*, April 8, 2009)、アレイ郡の立候補者選定をめぐるタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣の決定権がドゥルーズ枠に限定されると主張した(*al-Hayat*, April 20, 2009)。両者の対立はミシェル・アウン元国軍司令官によって仲介され(*al-Hayat*, April 20, 2009)、3月8日勢力は4月18日の共同記者会見で3月8日勢力の一員として選挙戦を戦うことを明言したタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣の決断に応えるかたちでマルワーン・アブー・ファーディルの擁立を決定した²¹。

マロン派をめぐっては、自由国民潮流が立候補者選定を主導し、2009年4月11日、ミシェル・アウン元国民議会議員は、無所属のアントゥーン・ズグビー(Antun al-Zughbi)、スィーザール・アブー・ハリール(Sizar Abu Khalil)の擁立を発表した(*al-Hayat*, April 12, 2009, Nahamet.com, April 11, 2009)。

2009年5月1日、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣が協調改革リスト(La' iha al-Sharaka wa al-Islah)を発表した。同リストは、レバノン民主党党首のタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣(ドゥルーズ派)、無所属(自由国民潮流推薦)のアントゥーン・ズグビー(マロン派)、無所属(自由国民潮流推薦)のスィーザール・アブー・ハリール(マロン派)、無所属(レバノン民主党推薦)のマルワーン・アブー・ファーディル(ギリシャ正教)から構成された。同リストは、ドゥルーズ派枠1議席を欠いた不完全なものだった。またリスト発表の席上、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣は①イスラエルへの抵抗、②ラフィーク・ハリリー元首相暗殺事件の調査をめぐる不正の解明、③レバノン内戦時の難民の補償、④キリスト教徒の役割強化などを骨子とする選挙綱領を発表した(*al-Hayat*, May 2, 2009, Nahamet.com, May 1, 2009)

²⁰ それに先立ち、タラール・アルスラーン青年スポーツ大臣とレバノン・タウヒード潮流代表のウィアーム・ワッハーブ(Wi'am Wahhab)元環境大臣が会見し、選挙後の内閣における元環境大臣の処遇について意見を交換し、ワリード・ジュンブラート元難民大臣との対決回避の理解を求めた(*al-Hayat*, March 22, 2009)。

²¹ ハリール・ジュブラーイル・ハイルッラーは2009年4月22日までに立候補を辞退した。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者116,181人中59,779人が投票を行った。うち有効票は58,189票、無効票は577票、白票は1,013票、投票率は51%であった。当選者は3月14日リストの4人、進歩社会主義党のアクラム・シュハイブ元難民大臣(ドゥルース派)、無所属(進歩社会主義党推薦)のヘンリー・フルウ元国家大臣(マロン派)、無所属(進歩社会主義党推薦)のファード・サアド国民議会議員(マロン派)、レバノン・カタール党のファーディー・ハブル(ギリシャ正教)、および協調改革リストでレバノン民主党政党首のタラール・アルスラーン青年スポーツ大臣で、得票数はそれぞれ36,138票、35,322票、35,126票、33,884票、23,501票であった。敗北した協調改革リストの3人、無所属(自由国民潮流推薦)のアントゥーン・ズグビー(マロン派)、無所属(自由国民潮流推薦)のスイーザール・アブー・ハリール(マロン派)、無所属(レバノン民主党政推薦)のマルワーン・アブー・ファーディル(ギリシャ正教)の得票数はそれぞれ21,595票、21,197票、21,966票だった。(NNA, June 7, 2009)。

X. レバノン山地県キスラワーン郡

レバノン山地県キスラワーン郡は定数が5で、マロン派に5議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口88,337人の内訳はスンナ派165人、シーア派1,379人、ドゥルーズ派3人、アラウィー派9人、マロン派81,161人、ギリシャ正教690人、ギリシャ・カトリック1,283人、アルメニア正教1,448人、アルメニア・カトリック539人、福音派263人、マイノリティ1,397人である。

キスラワーン郡の選挙戦は圧倒的多数を占めるマロン派有権者の投票行動が勝敗を決する。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は、レバノン・カタール党、国民ブロック党、レバノン軍団、民主刷新運動、そして無所属が立候補者選定とリスト作成のための折衝を行った(*al-Hayat*, April 20, 2009, *Nahamet.com*, April 20, 2009)。この折衝において主導権を握ったのは無所属(旧クルナト・シャフワーン会合)のマンスール・ブーン(Mansur al-Bun)前国民議会議員と無所属のファリード・ハイカル・ハーズィン(Farid Haykal al-Khazin)元観光大臣だった。彼らは当初、3月14日勢力、3月8日勢力のいずれにも属さない無所属のマルーン・フルウ(Marun al-Hulw)などと協力し、無所属リストの作成をめざし(*al-Hayat*, April 6, 2009, *al-Safir*, April 7, 2009, *Nahamet.com*, April 7, 2009)、2009年4月10日、無所属リストの筆頭に名を連ねるとの意思を表明した(*Nahamet.com*, April 10, 2009)。そして4月20日、マンスール・ブーン前国民議会議員とファリード・ハイカル・ハーズィン元観光大臣はキスラワーン無所属決定リスト(La' iha al-Qarar al-Kisrawani al-Mustaqill)の名で選挙戦に臨むと発表し、残りの3人の立候補者選定を本格化させた(*Nahamet.com*, April 20, 2008)。

だが立候補者選定において、マンスール・ブーン前国民議会議員とファリード・ハイカル・ハーズィン元観光大臣は3月14日勢力との連立をめざし、レバノン・カタール党、国民ブロック党、レバノン軍団、民主刷新運動との折衝を繰り返した。

このうち2008年12月15日に立候補を宣言していた国民ブロック党のカールロス・イッデ(Karlus Idda)党首は、2009年4月3日、自由国民潮流に対抗して3月14日勢力のリストを作成すべきとの立場を表明していたこともあり(*al-Nahar*, April 4, 2009, *Nahamet.com*, April 4, 2009, *al-Safir*, April 4, 2009)、当初は無所属が主導するキスラワーン無所属決定リストへの参加に難色を示した(*al-Hayat*, December 16, 2008, *Nahamet.com*, May 6, 2009)。しかし彼はほどなく3月14日勢力と無所属の選挙同盟を模索するようになり、3月14日勢力のリストに自身と、マンスール・ブーン前国民議会議員、ファリード・ハイカル・ハーズィン元観光大臣の3人を加えることを求めるようになった(*al-Liwa'*, April 14, 2009, *al-Nahar*, April 14, 2009, *Nahamet.com*, April 14, 2009)。またレバノン・カタール党は4月下旬、党員のサジュアーン・カズィーの擁

立を決定する一方(*al-Hayat*, April 22, 2009)、ユースフ・サラーマ(Yusuf Salama)、ジョゼフ・アブー・シャラフ(Juzif Abu Sharaf、本名ユースフ・アブー・シャラフ[Yusuf Abu Sharaf])といった無所属の擁立を推薦した。だが後二者の擁立には、マンスール・ブーン前国民議会議員、ファリード・ハイカル・ハーズイン元観光大臣が難色を示した(*al-Hayat*, May 11, 2009, Nahamet.com, April 27, 2009, *al-Safir*, April 27, 2009)。さらに、民主刷新運動はカミール・ズィヤーダ(Kamil Ziyada)副議長が2009年4月3日に立候補を発表し、リストへの参加をめざした(*al-Hayat*, April 4, 2009)。

立候補者の調整作業が続くなか、2009年5月7日、3月8日勢力とファーリス・ブワイズ(Faris Buwayz)元環境大臣と選挙同盟をめぐる折衝が後述する通り決裂すると、5月9日、元環境大臣は自身を含む無所属リストが発表されるだろうと述べ、マンスール・ブーン前国民議会議員、ファリード・ハイカル・ハーズイン元観光大臣との選挙同盟結成の意思を表明した(*al-Hayat*, May 10, 2009)。この申し出に対して、マンスール・ブーン前国民議会議員とファリード・ハイカル・ハーズイン元観光大臣は当初、消極的な態度を示した(Nahamet.com, May 9, 2009)。だが5月中旬に入ると、マンスール・ブーン前国民議会議員、ファリード・ハイカル・ハーズイン元観光大臣、ファーリス・ブワイズ元環境大臣、レバノン・カタール党のサジュアーン・カズィー、国民ブロック党のカールロス・イッデ党首が統一リスト作成に向けて最終調整段階に入った(Nahamet.com, May 11, 2009, *al-Safir*, May 11)²²。

しかしこの動き、とりわけファーリス・ブワイズ元環境大臣のリスト入りに対して、今度はレバノン軍団が異議を唱えた(Nahamet.com, May 11, 2009, May 13, 2009, *al-Safir*, May 11)。サミール・ジャアジャア執行委員会議長は「誰も拒否権を持たない」(Nahamet.com, May 15, 2009)と述べ、レバノン軍団が協調的な姿勢をとっていることをアピールしようとした(Nahamet.com, May 11, 2009, May 13, 2009, May 14, 2009)。だがレバノン軍団の消極的な姿勢は、ベイルート県第1区、レバノン山地県バアブダー郡、同マトン郡、同アレイ郡、同シューフ郡、ベカーア県ザフレ郡の立候補者調整をめぐるレバノン・カタール党との対立を優位に進め、3月14日勢力最大のキリスト教組織としての躍進を果たしたいという意思の表れだということは誰の目からも明らかだった(「[III. ベイルート県第1区](#)」、「[VI. レバノン山地県バアブダー郡](#)」、「[VII. レバノン山地県マトン郡](#)」、「[VIII. レバノン山地県シューフ郡](#)」、「[IX. レバノン山地県アレイ郡](#)」、「[XIX. ベカーア県ザフレ郡](#)」などを参照)。

レバノン軍団の異議申し立てによって、国民ブロック党のカールロス・イッデ党首のリスト参加の是非が再検討されるなど、候補者調整の作業は一時紛糾した(*al-Hayat*, May 15, 2009)。だがベカーア県ザフレ郡のリストに自らが推薦する無所属の立候補者2人の参加を認められたレバノン軍団は態度を軟化させ、2009年5月19日までにリストの立候補者が確定した(*al-Hayat*, May 23, 2009, Nahamet.com, May 19, 2009, 「[XIX. ベカーア県ザフレ郡](#)」などを参照)。そしてにはリストの顔ぶれは決定した。

2009年5月27日、マンスール・ブーン前国民議会議員がキスラワーン勝利同盟リスト(La'iha Tahaluf Kisrawan - al-Futuh)を正式に発表された。同リストは無所属(旧クルナト・シャフワーン会合)のマンスール・ブーン前国民議会議員、無所属のファリード・ハイカル・ハーズイン元観光大臣、国民ブロック党のカールロス・イッデ党首、レバノン・カタール党のサジュアーン・カズィー、無所属のファーリス・ブワイズ元環境大臣から構成された。またこの席上でマンスール・ブーン前国民議会議員は、①レバノンにおける唯一の国防組織である国軍の支持、②過去の諸条約を破棄したシリアとの対等な関係の構築、③大統領の支持を骨子とする選挙綱領を発表した(*al-Hayat*, May 28, 2009)。

2.3月8日勢力

3月8日勢力はキスラワーン郡からの立候補したミシェル・アウン元国軍司令官の指導のもと、自由国民潮流が立候補者選定、リスト作成を統括した。

自由国民潮流は2009年1月の段階で、ミシェル・アウン元国軍司令官とファリード・イリヤース・ハーズイン(Farid Ilyas al-Khazin)国民議会議員の続投を、4月初めまでにユースフ・ハリール(Yusuf Khalil)国民議会議員の続投も決定した(*al-Hayat*, Januray 12, 2009, April 3, 2009, April 24, 2009)。またジールベルト・ズワイン(Jirbirt Zuwayn)国民議会議員とニウマトゥラー・アビー・ナスル(Ni'ma Allah Abi Nasr)国民議会議員に関して、自由国民潮流キスラワーン支部長のニウ

²² これを受けカミール・ズィヤーダ民主刷新運動副議長は2009年5月22日に立候補を辞退した(*al-Hayat*, May 23, 2009)。

マーン・ムラード(Ni'man Murad)、無所属のエリー・ズワイン(Ili Zuwayn)、無所属のアントワン・フカイム(Antwan al-Hukayyim)、そして無所属のファリス・ブワイズ元環境大臣との交替の可能性を検討した(*al-Liwa'*, April 28, 2009、*al-Hayat*, April 24, 2009、*Nahamet.com*, April 28, 2009)。このなかで最大の懸案となったのは、ファリス・ブワイズ元環境大臣との選挙同盟の是非であり、一時はニウマトゥラー・アビー・ナスル国民議会議員の再立候補を辞退させ、元環境大臣をリストに参加させる試みがなされているといった報道がなされた(*al-Hayat*, March 25, 2009、April 3, 2009、April 20, 2009、April 24, 2009、April 27, 2009、*Nahamet.com*, April 3, 2009、April 7, 2009、April 20, 2009、*al-Safir*, April 7, 2009)²³。

自由国民潮流とファリス・ブワイズ元環境大臣との折衝はその後決裂し、2009年5月7日、ミシェル・アウン元国軍司令官は第17期国民議会選挙と同じ立候補者からなるリストでキスラワーン郡の選挙戦に挑むと述べ、変化改革リストを発表した。同リストは、自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官、自由国民潮流のユースフ・ハリール国民議会議員、自由国民潮流のジールベルト・ズワイン国民議会議員、自由国民潮流のニウマトゥラー・アビー・ナスル国民議会議員、自由国民潮流のファリード・イリヤース・ハーズイン国民議会議員から構成された(*al-Hayat*, May 8, 2009、*Nahamet.com*, May 7, 2009)。また同日、ミシェル・アウン元国軍司令官は自身の帰国4周年に合わせて、自由国民潮流がベイルート県第1区、レバノン山地県バアブダー郡、同マトン郡、同シェーフ郡、同キスラワーン郡、同ジュベイル郡、南部県ジュズィーン郡、北部県バトレン郡において指導する変化改革リスト(変化改革ブロック)の選挙綱領「ともに変化と改革を実現しよう」を発表した。同綱領では、①労働条件の改善、失業対策、②工業、農業、商業の活性化、③汚職撲滅、④税制改革、⑤教育改革、⑥貧困対策、⑦避難民対策、⑧観光促進、⑨国民統合、⑩司法改革などの実施が約束された(*Leb Journal*, May 8, 2009、*al-Hayat*, May 8, 2009)。

3. その他

キスラワーン郡はレバノン山地県ジュベイル郡([XI. レバノン山地県ジュベイル郡](#)を参照)とともに、ミシェル・スライマーン大統領とズィヤード・バルード(Ziyad Barud)内務地方行政大臣を支持する無所属のキリスト教徒(マロン派)政治指導者の影響力が強く、大統領の動静に注目が寄せられた。

内務地方行政大臣の出身地であるジュマイター村を擁するキスラワーン郡では、ズィヤード・バルード内務地方行政大臣の動静に注目が寄せられた。だがズィヤード・バルード内務地方行政大臣は2009年3月26日、立候補の意思がないことを明らかにし、中立の姿勢を貫いた(*Nahamet.com*, March 26, 2009)。

一方、ミシェル・スライマーン大統領に関しては、無所属のニウマ・ジョルジュ・フラーム(Ni'ma Jurj Fram)の立候補を望んでいるとの報道や、ミシェル・アウン元国軍司令官との折衝を水面下で行い、レバノン山地県バアブダー郡、マトン郡、キスラワーン郡、ジュベイル郡でのキリスト教勢力の均衡をめざしているとの報道がしばしばなされた(*Nahamet.com*, April 3, 2009、*al-Safir*, April 3, 2009)。これらの報道によると、折衝は決裂し、ニウマ・ジョルジュ・フラームの変化改革リストへの参加は実現しなかったという(*Nahamet.com*, April 7, 2009、*al-Safir*, April 7, 2009)。このことを裏付けるかのように、マラダ潮流代表のスライマーン・フランジーヤ(Sulayman Franjiya)元内務地方行政大臣は2009年5月18日のジャディード(al-Jadid)・テレビとのインタビューで、ミシェル・スライマーン大統領が選挙への干渉を試みていたと述べた。元内務地方行政大臣によると、ミシェル・スライマーン大統領は総合情報局長のワフィーク・ジャズィーニー(Wafiq Jazini)准将を数度にわたって派遣し、レバノン山地県マトン郡、キスラワーン郡、ジュベイル郡での議席の分配を求め、その際、准将は3月14日勢力と選挙同盟を結ぶ無所属のマンスール・ブーン前国民議会議員、フランソワ・バースィール、ナーズィム・フーリー(Nazim al-Khuri)前国民議会議員、ミシェル・ムッル国民議会議員の4人、ミシェル・スライマーン大統領が推すニウマ・ジョルジュ・フラームの当選を保証するよう求めた(*Nahamet.com*, May 18, 2009)。

4. 投票結果

²³ しかし、ニウマトゥラー・アビー・ナスル国民議会議員2009年4月3日、こうした報道の内容を否定した(*al-Nahar*, April 4, 2009、*Nahamet.com*, April 4, 2009、*al-Safir*, April 4, 2009)。

2009年6月7日の投票日には、有権者89,228人中60,336人が投票を行った。うち有効票は59,855票、無効票は266票、白票は215票、投票率は67%であった。当選者は変化改革リスト(自由国民潮流メンバー)の5人、ミシェル・アウン元国軍司令官、ユースフ・ハリール国民議会議員、ファリード・イリヤース・ハーズイン国民議会議員、ニウマトウツラー・アビー・ナスル国民議会議員、ジールベルト・ズワイン国民議会議員で、得票数はそれぞれ31,861票、31,313票、31,287票、30,989票、30,444票であった。敗北したキスラワーン勝利同盟リストの5人、無所属(旧クルナト・シャフワーン会合)のマンスール・ブーン前国民議会議員、無所属のファリード・ハイカル・ハーズイン元観光大臣、国民ブロック党のカーロス・イッデ党首、レバノン・カタール党のサジュアーン・カズイー、無所属のファリス・ブワイズ元環境大臣の得票数はそれぞれ29,111票、28,494票、26,418票、26,010票、24,587票、だった。(NNA, June 7, 2009)。

XI. レバノン山地県ジュベイル郡

レバノン山地県ジュベイル郡は定数が3で、シーア派に1議席、マロン派に2議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口73,394人の内訳はスンナ派1,732人、シーア派13,984人、ドゥルーズ派0人、アラウイー派16人、マロン派54,020人、ギリシャ正教2,052人、ギリシャ・カトリック291人、アルメニア正教1,002人、アルメニア・カトリック80人、福音派2人、マイノリティ215人である。

ジュベイル郡の選挙戦では、圧倒的多数を占めるマロン派有権者の投票行動が勝敗を決する。第18期国民議会選挙においては、無所属の政治指導者によるリスト作成が活発に行われ、この動きに3月14日勢力、3月8日勢力がどのように関与するかが争点となった。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力では、執行部調整役で無所属(旧クルナト・シャフワーン会合)のファリス・スアイド前国民議会議員(マロン派)がリスト作成を主導した。2009年3月29日に立候補を宣言した彼は、レバノン山地県キスラワーン郡、マトン郡、ジュベイル郡において無所属の政治指導者との政治同盟を主唱し、2月から積極的な動きを見せていた(*al-Hayat*, February 15, 2009, March 30, 2009, Nahamet.com, March 29, 2009)。具体的には、ナーズィム・フーリー前国民議会議員(マロン派)、フランソワ・バースィール(Franswa Basil, マロン派)、エミール・ヌーフアル(Imil Nufal, マロン派)と協力関係を構築し、そのうちの1人を自身と共に立候補者としてリストに加えようとする一方、マフムード・アウワード(Mahmud 'Awwad, シーア派)の懐柔も試みた(*al-Hayat*, April 9, 2009, April 27, 2009, Nahamet.com, April 6, 2009)。だが後述の通り、無所属の指導者たちとの選挙同盟は実現せず(*al-Hayat*, April 20, 2009, April 29, 2009, Nahamet.com, April 20, 2009, April 29, 2009)、ファリス・スアイド前国民議会議員は3月14日勢力のリスト作成を断念し、単独で選挙戦に臨んだ。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は自由国民潮流がリスト作成を主導した。2009年1月の段階で、自由国民潮流は無所属(変化改革ブロック)のアッバース・ハーシム('Abbas al-Hashim)国民議会議員(シーア派)と自由国民潮流のワリード・フーリー(Walid al-Khuri)国民議会議員(マロン派)の擁立を決定した(*al-Hayat*, Januray 12, 2009, March 25, 2009, April 3, 2009, April 9, 2009, April 20, 2009, Nahamet.com, April 20, 2009)。またマロン派枠のもう1人の立候補者として、4月初めまでにスィームーン・アビー・ラムヤー(Simun Abi Ramya)渉外関係委員会メンバーをシャール・ムザーヤー(Shamil Muzaya)国民議会議員の後任として擁立することを決定した(*al-Hayat*, April 3, 2009, April 9, 2009, April 20, 2009, Nahamet.com, April 3, 2009, April 20, 2009)。そして4月23日、ミシェル・アウン元国軍司令官が、無所属のアッバース・ハーシム国民議会議員(シーア派)、自由国民潮流のワリード・フーリー国民議会議員(マロン派)、スィームーン・アビ

ー・ラムヤー渉外関係委員会メンバー(マロン派)からなる変化改革リストを発表した(*al-Hayat*, April 24, 2009, Nahamet.com, April 23, 2009, なお変化改革リストの選挙綱領に関しては「[X. レバノン山地県キスラワーン郡](#)」を参照)。

3. 無所属

無所属ではナーズィム・フリー前国民議会議員とレバノン帰属潮流がそれぞれ立候補者擁立とリスト作成をめざした。

ナーズィム・フリー前国民議会議員によるリスト作成の動きは、2009年3月28日、前議員が無所属穏健派として立候補すると発表したことをもって始まった(*al-Hayat*, March 29, 2009)。彼はマロン連盟メンバーで銀行連盟議長を務める無所属のフランソワ・バースィール、エミール・ヌーフアル、アリー・アウワード('Ali 'Awwad) 退役准将(シーア派)、ムスタファー・フサイニー(Mustafa 'Ali al-Husayni, シーア派)らとリスト作成をめざす一方(*al-Hayat*, April 20, 2009, Nahamet.com, April 20, 2009)、3月14日勢力との選挙同盟も模索し、ファーリス・スアイト前国民議会議員(マロン派)とも折衝を行った(Nahamet.com, April 6, 2009)。このうち、エミール・ヌーフアルとアリー・アウワード退役准将はファーリス・スアイト前国民議会議員との選挙同盟に慎重な姿勢を示し、そのことが無所属のみによるリスト作成の動きを促した(*al-Hayat*, April 20, 2009, May 6, 2009)。

折衝の結果、2009年5月5日、ナーズィム・フリー前国民議会議員は自身(マロン派)とエミール・ヌーフアル(マロン派)、ムスタファー・フサイニー(シーア派)からなるジュベイル無所属決定リスト(La' iha al-Qaraq al-Jubayli al-Mustaqill)を発表し、①ターイフ合意の遵守、とりわけ大選挙区比例代表制の導入、非中央集権、政治的宗派主義の廃止、元老院の設置、②ミシェル・スライマーン大統領との連携、③レバノン国軍の支持などを掲げた(*al-Hayat*, May 6, 2009, Nahamet.com, May 5, 2009)。しかしこのうちエミール・ヌーフアルは6月4日、3月8日勢力に対抗する勢力に勝利する機会を設けるため、立候補を辞退すると宣言した(*al-Hayat*, June 5, 2009)。

一方、レバノン帰属潮流は2009年4月5日、アフマド・アスアド(Ahmad al-As' ad)議長が、レバノン山地県ジュベイル郡、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、同ビント・ジュベイル郡、ベカーア県バルベック郡・ヘルメル郡の立候補者を発表し、ジュベイル郡においてはリバーフ・アビー・ハイダル(Riyah Abi Haydar)を擁立した(Akhbar al-Sharq, April 6, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009, Nahamet.com, April 5, 2009, 「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)。

なおジュベイル郡はレバノン山地県キスラワーン郡(「[X. レバノン山地県キスラワーン郡](#)」を参照)とともに、ミシェル・スライマーン大統領を支持する無所属のキリスト教徒(マロン派)政治指導者の影響力が強い。とりわけ大統領の出身地であるアムシート村を擁するジュベイル郡では、ミシェル・スライマーン大統領の動静に注目が寄せられた。ミシェル・スライマーン大統領は原則、選挙に対して不干渉の立場をとったが、同郷のナーズィム・フリー前国民議会議員などの立候補には消極的だったとされる(*al-Hayat*, April 9, 2009)。しかしその一方で、3月8日勢力、3月14日勢力の双方と一線を画す中立の無所属に共感を示していたとも考えられ、ジュベイル無所属決定リストの作成段階において、ファーリス・スアイト前国民議会議員が同リストのために立候補を辞退することを期待していたとされる(*al-Akhbar*, May 1, 2009, Nahamet.com, May 1, 2009)。

4. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者75,582人の65%が投票を行った(有効票、無効票、白票は公表されなかった)。当選者は変化改革リストの3人、無所属のアッバース・ハーシム国民議会議員(シーア派)、自由国民潮流のワリード・フリー前国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のスィームーン・アビー・ラムヤー渉外関係委員会メンバー(マロン派)で、得票数はそれぞれ28,332票、28,852票、28,598票であった。敗北した3月14日勢力のファーリス・スアイト前国民議会議員の得票数は20,698票、ジュベイル無所属決定リストの3人のうち最後まで選挙戦を戦ったムスタファー・フサイニー(シーア派)、ナーズィム・フリー前国民議会議員は自身(マロン派)の得票数はそれぞれ20,437票、19,960票、票、レバノン帰属潮流のリバーフ・アビー・ハイダル(シーア派)の得票数は30票だった(NNA, June 7, 2009)。

XII. 南部県サイダー郡

南部県サイダー郡(サイダー市)は定数が2で、スンナ派に2議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口51,549人の内訳はスンナ派43,185人、シーア派4,632人、ドゥルーズ派33人、アラウィー派0人、マロン派1,293人、ギリシャ正教181人、ギリシャ・カトリック1,744人、アルメニア正教158人、アルメニア・カトリック23人、福音派96人、マイノリティ204人である。

第17期国民議会選挙では、3月14日勢力、3月8日勢力がサイダー郡の議席を「談合」により分配し、前者のバヒーヤ・ハリリー教育・高等教育大臣と後者のウサーマ・サアド国民議会議員が議席を獲得した。この2人(およびウサーマ・サアド国民議会議員の父のムスタファー・サアド[Mustafa Sa'd]元国民議会議員とバヒーヤ・ハリリー教育・高等教育大臣)の談合は第2共和制成立以来の選挙において繰り返されてきたが、第18期国民議会選挙では、3月14日勢力が2議席獲得に動き、ウサーマ・サアド国民議員がこれに対抗するという戦いになった。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力のリスト作成はムスタクバル潮流によって主導された。2議席の獲得をめざしたムスタクバル潮流は、2009年3月半ばまでの段階で現職のバヒーヤ・ハリリー教育・高等教育大臣を擁立することを決定していたが(*al-Hayat*, March 16, 2009)、もう1人の立候補者をめぐって、サイダー郡に組織票を持つレバノン・イスラーム集団と調整作業を行った。

ベイルート県第3区、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡、北部県トリポリ郡、同ミニヤ郡・ディンニーヤ郡、同アッカール郡において立候補者の擁立をめざしたレバノン・イスラーム集団はサイダー郡においてアリー・シャイフ・アンマール政治局長を立候補させ、同郡を含む各選挙区においてムスタクバル潮流の協力のもと3月14日勢力のリストに参加しようとした。これに対して、ムスタクバル潮流は、2009年4月7日にフアード・スィニューラ首相がベイルート県第3区ではなく、サイダー郡からの立候補を決意したの受け²⁴、アリー・シャイフ・アンマール政治局長の立候補辞退を求めた(*Akhbar al-Sharq*, April 7, 2009, *al-Hayat*, April 8, 2009, 「[V. ベイルート県第3区](#)」を参照)。

両者の折衝は難航したが、2009年5月6日、ムスタクバル潮流がベイルート県第3区のリストへのレバノン・イスラーム集団のイマード・フート(Imad al-Hut)の参加を認めると、5月15日、レバノン・イスラーム集団はアリー・シャイフ・アンマール政治局長の立候補をとりさげ、バヒーヤ・ハリリー教育・高等教育大臣とフアード・スィニューラ首相の支援に回った(*Nahamet.com*, May 16, 2009, *al-Liwa'*, May 16, 2009, 「[V. ベイルート県第3区](#)」を参照)。

こうして3月14日勢力のリスト、サイダー・ムスタクバル・リスト(La'iha Mustaqbal Sayda)は、バヒーヤ・ハリリー教育・高等教育大臣、フアード・スィニューラ首相というムスタクバル潮流の幹部2人によって構成されることになった(選挙綱領については「[V. ベイルート県第3区](#)」を参照)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は、ムスタクバル潮流の地盤選挙区であるサイダー郡における議席確保が困難だと判断したアマル運動とヒズブッラーが、3月14日勢力(ムスタクバル潮流)に対してベイルート県第2区と合わせて議席を配分することを求め、ナセル人民機構代表のウサーマ・サアド国民議会議員を再選させようとした(「[IV. ベイルート県第2区](#)」を参照)。しかし、ムスタクバル潮流はフアード・スィニューラ首相の擁立を決定する過程でサイダー郡での「談合」を拒否し、議席の配分をベイルート県第2区に限定するとの立場をとった(*al-Hayat*, March 30, 2009, April 4, 2009)。

これを受け、ウサーマ・サアド国民議会議員は、3月14日勢力対3月8日勢力という対立構図を打ち崩すべく、レバノン・イスラーム集団との選挙同盟を模索し、2009年5月1日にはレバノン・イスラーム集団のアリー・シャイフ・アンマール

²⁴ サアド・ハリリー国民議会議員はフアード・スィニューラ首相に対して当初、ベイルート県第3区からの立候補を要請していたが、最終的な判断は首相に一任していた(*Nahamet.com*, April 7, 2008)。

ル政治局長と会談した(*al-Hayat*, May 2, 2009)。だがこの試みは、レバノン・イスラーム集団とムスタクバル潮流とベイルート県第3区とサイダー郡での選挙同盟に合意したことで頓挫し、ウサーマ・サアド国民議会議員は単独で選挙戦に臨んだ(「[V. ベイルート県第3区](#)」を参照)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者53,859人の68%が投票を行った(有効票、無効票、白票は公表されなかった)。当選者はサイダー・ムスタクバル・リストの2名、ムスタクバル潮流のバヒーヤ・ハリリー教育・高等教育大臣とフアード・スィニューラ首相で、得票数はそれぞれ25,460票、23,041票であった。敗北したナセル人民機構代表のウサーマ・サアド国民議会議員は13,512票だった。(NNA, June 7, 2009)。

XIII. 南部県ザフラーニー郡

南部県ザフラーニー郡(サイダー市周辺村)は定数が3で、シーア派に2議席、ギリシャ・カトリックに1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口90,011人の内訳はスナナ派2,292人、シーア派65,038人、ドゥルーズ派42人、アラウィー派0人、マロン派9,924人、ギリシャ正教184人、ギリシャ・カトリック12,129人、アルメニア正教8人、アルメニア・カトリック23人、福音派369人、マイノリティ2人である。

アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長の地盤選挙区であるザフラーニー郡では、3月8日勢力が選挙戦を終始有利に進めた。

1. 3月8日勢力

3月8日勢力はアマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長が立候補者を選定し、リストを作成した。

シーア派枠をめぐって、ナビーフ・ビッリー国民議会議長は2009年3月までに自身とアリー・ウサイラン('Ali 'Usayran)国民議会議員の再立候補を決定した(*al-Hayat*, March 31, 2009)。

ギリシャ・カトリック枠をめぐって、ナビーフ・ビッリー国民議会議長は、長年にわたる盟友である無所属(開発解放ブログ)のミシェル・ムーサー(Mishal Musa)元国家大臣の再立候補をめざした。しかしこの動きは、レバノン山地県バアブダー郡、南部県ジェズィーン郡、そしてザフラーニー郡において立候補者の擁立を強く主張する自由国民潮流のミシェル・アウン元国軍司令官の反発を受けた。すなわち、ミシェル・アウン元国軍司令官は、バアブダー郡のシーア派枠でアマル運動がタラル・ハートゥーム政治局員を擁立させるのであれば、ザフラーニー郡のギリシャ・カトリック枠で自由国民潮流が推すファウズィー・アブー・ファルハート(Fawzi Abu Farhat)退役准将を擁立するか、ジェズィーン郡のマロン枠でナビーフ・ビッリー国民議会議長が推すサミール・アーザール国民議会議員に代えて自由国民潮流のメンバーを擁立するよう求めたのである(*al-Hayat*, April 7, 2009, *al-Safir*, April 7, 2009, 「[VI. レバノン山地県バアブダー郡](#)」、[「XV. 南部県ジェズィーン郡](#)」を参照)。

ナビーフ・ビッリー国民議会議長とミシェル・アウン元国軍司令官の対立は、3月8日勢力(アマル運動、自由国民潮流)が南部県ジェズィーン郡での統一リスト作成を断念する一方、レバノン山地県バアブダー郡のリストをヒズブッラーがとりまとめることで収束し、これを受けナビーフ・ビッリー国民議会議長が2009年5月10日、抵抗開発解放リストを発表した。同リストはベイルート県第2区、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、同ジェズィーン郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシヤイヤ郡、同バルベック郡・ヘルメル郡におけるアマル運動、ヒズブッラー、アラブ社会主義パース党、シリア民族社会党、無所属にからなっており、ザフラーニー郡の立候補者はアマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長(シーア派)、アマル運動のアリー・ウサイラン国民議会議員(シーア派)、無所属(アマル運動推薦)のミシェル・ムーサー元国家大臣(ギリシャ・カトリック)の3人であった。またこの席上でナビーフ・ビッリー国民議会議長は、①司法改革、

②政治的宗派主義の廃止、③シリア、イラン、トルコとの関係強化などを骨子とする政策目標を掲げた (*al-Hayat*, May 11, 2009, Nahamet.com, May 10, 2009)。

2. その他

3月8日勢力の圧倒的な優位のもと、3月14日勢力はリスト作成を断念したが、レバノン帰属潮流が選挙に参加した。2009年4月5日、レバノン帰属潮流のアフマド・アスアド議長は、レバノン山地県ジュベイル郡、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、同ビント・ジュベイル郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡の立候補者を発表し、ザフラーニー郡においてはザイン・ハリファ(Zayn Khalifa) 退役准将を擁立した。だが彼は4月22日までに立候補辞退した (Akhbar al-Sharq, April 6, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009, Nahamet.com, April 5, 2009, 「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)。

また名望家のアスアド家から技師のリヤード・アスアド (Riyad al-As'ad) が反ナビーフ・ビッリー国民議会議長を掲げて無所属で立候補した (*al-Hayat*, March 16, 2009)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者92,995人の54%が投票を行った(有効票、無効票、白票は公表されなかった)。当選者は抵抗開発解放リストの3名、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長(シーア派)、同じくアマル運動のアリー・ウサイラン国民議会議員(シーア派)、無所属(アマル運動推薦)のミシェル・ムーサー元国家大臣(ギリシャ・カトリック)で、得票数はそれぞれ45,315票、43,746票、43,648票であった。敗北した無所属ののリヤード・アスアドは3,574票だった。(NNA, June 7, 2009)。

XIV. 南部県スール郡

南部県スール郡は定数が4で、シーア派に4議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口152,182人の内訳はスンナ派12,211人、シーア派128,546人、ドゥルーズ派0人、アラウィー派0人、マロン派2,249人、ギリシャ正教598人、ギリシャ・カトリック6,549人、アルメニア正教1,055人、アルメニア・カトリック112人、福音派599人、マイリティ263人である。

アマル運動とヒズブッラーの地盤選挙区であるスール郡では、両組織の統一リストに対抗し得る立候補者、リストを欠いたまま (*al-Hayat*, March 21, 2009)、両組織が選挙戦を終始有利に進めた。

1. 3月8日勢力

3月8日勢力は、アマル運動、ヒズブッラーがリスト作成を主導した。アマル運動は当初、レバノン共産党との選挙同盟を模索したが、ヒズブッラーがスール郡においてレバノン共産党の立候補者を擁立することを拒否し (*al-Diyar*, April 3, 2009, Nahamet.com, April 3, 2009)、結局は両組織がそれぞれ2人の立候補者をリストに参加させることで合意した(レバノン共産党との選挙同盟をめぐる折衝に関しては「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)。

これを受け、2009年4月1日、ヒズブッラーのハサン・ナスルッラー書記長が、ベイルート県第2区、レバノン山地県バブダダー郡、南部県スール郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡において立候補する党员11人を発表し、スール郡の立候補者2人、すなわちムハンマド・フナイシュ (Muhammad Funaysh) 労働大臣、ナウワーフ・ムーサウィー (Nawwaf al-Musawi) 渉外関係担当官(青山・末近[2007])の擁立を発表した (*al-Hayat*, April 1, 2009, 「[XVI. ナバティーヤ県ナバテ](#)

[イーヤ郡](#)を参照)。また5月10日、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長が抵抗開発解放リストを発表した。同リストはベイルート県第2区、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、同ジェズイーン郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡、同バアルベック郡・ヘルメル郡におけるアマル運動、ヒズブツラー、アラブ社会主義バアス党、シリア民族社会党、無所属にからなっており、スール郡の立候補者は、アマル運動のアリー・フライス('Ali Khurays)国民議会議員、アブドゥルマジード・サーリフ('Abd al-Majid Salih)国民議会議員の2人と前述のヒズブツラーの立候補者であるムハンマド・フナイシュ労働大臣、ナウワーフ・ムーサウィー渉外関係担当官からなっていた(*al-Hayat*, May 11, 2009、*Nahamet.com*, May 10, 2009、[「XIII. 南部県ザフラーニー郡」](#)を参照)。

2. その他

3月8日勢力の圧倒的な優位のもと、3月14日勢力はリスト作成を断念したが、レバノン帰属潮流が選挙に参加した。レバノン帰属潮流のアフマド・アスアド議長は2009年4月5日、レバノン山地県ジュベイル郡、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、同ビント・ジュベイル郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡の擁立を発表し、スール郡においてはアリー・アミン('Ali al-Amin)を擁立した(*Akhbar al-Sharq*, April 6, 2009、*al-Hayat*, April 6, 2009、*Nahamet.com*, April 5, 2009、[「XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡」](#)を参照)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者153,060人中74,941人が投票を行った。うち有効票は73,228票、無効票は640票、白票は1,073票、投票率は48%であった。当選者は抵抗開発解放リストの4名、アマル運動のアブドゥルマジード・サーリフ国民議会議員、ヒズブツラーのムハンマド・フナイシュ労働大臣、ヒズブツラーのナウワーフ・ムーサウィー渉外関係担当官、アマル運動のアリー・フライス国民議会議員で、得票数はそれぞれ69,362票、69,059票、68,991票、67,754票であった。敗北したレバノン帰属潮流のアリー・アミンは1,946票だった。(NNA, June 7, 2009)。

XV. 南部県ジェズイーン郡

南部県ジェズイーン郡は定数が3で、マロン派に2議席、ギリシャ・カトリックに1議席が割り当てられている。*Elnashra.com*[2009]によると人口53,444人の内訳はスンナ派950人、シーア派10,402人、ドゥルーズ派474人、アラウイー派0人、マロン派33,307人、ギリシャ正教111人、ギリシャ・カトリック8,139人、アルメニア正教22人、アルメニア・カトリック14人、福音派17人、マイノリティ8人である。

ジェズイーン郡の選挙戦は3月8日勢力優位のもとに推移したが、この優位のもと、3月8日勢力内では、候補者選定、リスト作成の調整作業が難航した。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力のリスト作成は無所属のエドモーン・リズク元法務大臣兼情報大臣によって主導された。2009年4月、エドモーン・リズク元法務大臣兼情報大臣はカミール・スィルハール(Kamil Sirhal)らと3月8日勢力に対抗するリストの作成を開始した(*al-Hayat*, April 13, 2009, May 8, 2009)。またこれに先だて3月、アミン・ジュマイイル元大統領はジェズイーン郡の選挙戦へのレバノン・カターイブ党の参加の意思を示していたが(*Nahamet.com*, March 8, 2009)、リストは無所属の立候補者を擁立するかたちで作成された。

最終的に2009年5月22日、エドモーン・リズク元法務大臣兼情報大臣は、自身(マロン派)と無所属のファウズィー・アスマル(Fawzi al-Asmar、マロン派)、アジャージュ・ハッダード('Ajjaj Haddad、ギリシャ・カトリック)からなる独立ジェズィーン・リスト(La'iha Jazzin al-Mustaqilla)を発表し、大統領による政治主導を主唱した(*al-Hayat*, May 24, 2009、*Nahamet.com*, May 23, 2009)。

2.3月8日勢力

3月8日勢力では、第2共和制発足以来一貫して立候補者選定を主導してきたアマル運動と、キリスト教徒に多くの支持者を擁する自由国民潮流が、リスト作成をめぐる鋭く対立し合った。この対立はジェズィーン郡の立候補者調整に限定されず、ベイルート県第2区、レバノン山地県バアブダー郡、南部県ザフラニー郡、ベカーア県ザフレ郡にも影響を及ぼし、ヒズブッラー、イリヤース・スカーフ(Iliyas al-Sukaf)農業大臣を巻き込んだかたちで展開した。

ジェズィーン郡の候補者をめぐっては、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長が第17期国民議会選挙と同様、無所属(開発解放ブロック)のサミール・アーザール(Samir 'Azar)国民議会議員(マロン派)と同じく無所属(開発解放ブロック)のアントワン・フーリー(Antwan Khuri)国民議会議員(ギリシャ・カトリック)の2人を含んだかたちでのリスト作成をめざした。またヒズブッラーも当初、無所属(抵抗への忠誠ブロック)のピエール・スィルハール(Biyar Sirhal)国民議会議員を推薦し、現職議員の再選を企画するナビーフ・ビッリー国民議会議長に同調しようとした(*al-Hayat*, March 16, 2009)。しかし、自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官は、マロン派とギリシャ・カトリックから1人ずつ立候補者を擁立すると主張し、2009年3月半ば、マロン派のズィヤード・アスワド(Ziyad Aswad)の擁立を決定し(*al-Hayat*, March 16, 2009)、4月初めまでにギリシャ・カトリックのイサム・サワヤー('Isam Sawaya)の立候補を推進し、アマル運動とヒズブッラーに対抗した(*al-Liwa* ', April 1, 2009、*Nahamet.com*, April 1, 2009)。

ミシェル・アウン元国軍司令官の要求に対し、ヒズブッラーは自由国民潮流の意向を最大限尊重するかたちでの調整をめざし、アマル運動の説得を行った。これを受け、ナビーフ・ビッリー国民議会議長は、ミシェル・アウン元国軍司令官の要求を認める代償として、①ジェズィーン郡でのサミール・アーザール国民議会議員のリスト参加を認める、②レバノン山地県バアブダー郡のシーア派枠においてヒズブッラーに代わってアマル運動がタラール・ハートゥーム政治局員を擁立するか、ベカーア県ザフレ郡のシーア派枠においてイリヤース・スカーフ農業大臣が推薦する候補者に代えて、アマル運動のアリー・アブドゥッラー('Ali 'Abd Allah)元農業大臣を擁立することを承諾するよう求めた。しかしこのうち、ベカーア県ザフレ郡のシーア派枠をめぐる調整は、イリヤース・スカーフ農業大臣が異議を唱えたことで立ち消えとなった(*al-Hayat*, March 16, 2009、[「VI. レバノン山地県バアブダー郡」](#)、[「XIX. ベカーア県ザフレ郡」](#)を参照)。

事態が硬直化し、選挙戦の展開に悪影響を及ぼすことを懸念したナビーフ・ビッリー国民議会議長は2009年3月末、アマル運動が要求してきた2議席のうちギリシャ・カトリック枠を自由国民潮流に譲歩し、無所属(アマル運動推薦)のサミール・アーザール国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のズィヤード・アスワド(マロン派)とイサム・サワヤー(ギリシャ・カトリック)の3人を統一リストを立候補者にしようとした(*al-Hayat*, March 22, 2009, March 31, 2009、*al-Liwa*, April 1, 2009、*Nahamet.com*, April 1, 2009)。しかしミシェル・アウン元国軍司令官は、この譲歩の姿勢に乗じること、自らの要求をエスカレートさせた。ミシェル・アウン元国軍司令官は4月6日、先のナビーフ・ビッリー国民議会議長の提案に従って、レバノン山地県バアブダー郡のシーア派枠においてアマル運動のタラール・ハートゥーム政治局員の立候補を認める代わりに、①南部県ザフラニー郡のギリシャ・カトリック枠で無所属(アマル運動推薦)のミシェル・ムーサー国民議会議員に代えて自由国民潮流のファウズィー・アブー・ファルハート退役准将を擁立することをナビーフ・ビッリー国民議会議長が受諾する、②この要求が拒否された場合、自由国民潮流はジェズィーン郡での無所属(アマル運動推薦)のサミール・アーザール国民議会議員の擁立を拒否し、③自由国民潮流は同選挙区の立候補者3人全員を擁立する、とのことを求めた(*al-Hayat*, April 7, 2009、*al-Safir*, April 7, 2009、[「VI. レバノン山地県バアブダー郡」](#)、[「XIII. 南部県ザフラニー郡」](#)を参照)。ミシェル・アウン元国軍司令官の強気な姿勢の背景には、シリアが3月8日勢力を構成する政党・政治組織、政治指導者たちを説得し、ミシェル・アウン元国軍司令官の要求に対して、自らを犠牲にしても柔軟に対応するよう説得する用意があるとの立場を示したことがあったとされる(*al-Hayat*, April 3, 2009)。

ミシェル・アウン元国軍司令官とナビーフ・ビッリー国民議会議長の対立が深まるなか、ヒズブッラーは再度仲介を試み、アマル運動がマロン派の立候補者 1 人を、自由国民潮流がマロン派とギリシャ・カトリック派の候補者各 1 人を擁立することで妥協するよう求めたが、この提案は双方によって拒否された (*al-Hayat*, April 7, 2009、*al-Safir*, April 7, 2009)。

ヒズブッラーによる仲介が不調に終わると今度は、ミシェル・アウン元国軍司令官が事態打開に向けた提案を繰り返した。ミシェル・アウン元国軍司令官まず、自由国民潮流がマロン派、ギリシャ・カトリックの立候補者各 1 人を擁立し、もう 1 人のマロン派立候補者を中立的な立候補者にするのを提案した。この提案はサミール・アーザール国民議会議員の立候補を強くもとめるナビーフ・ビッリー国民議会議長によって拒否された (*al-Hayat*, April 7, 2009、*al-Safir*, April 7, 2009)。

次に、ミシェル・アウン元国軍司令官は、ヒズブッラーの提案に応じて、アマル運動によるマロン派立候補者 1 人の擁立と自由国民潮流によるマロン派とギリシャ・カトリック派の候補者各 1 人の擁立を受諾する代償として、レバノン山地県バアブダー郡のシーア派の候補者 1 人、自由国民潮流がラムズィー・カンジュの擁立を認め、ヒズブッラーとアマル運動にこの候補者を放棄するよう求めた。これに対して、ナビーフ・ビッリー国民議会議長は、ヒズブッラーが確保しているベイルート県第 2 区のシーア派の候補者 1 議席か、ベカーア県バアルベック・ヘルメル郡のシーア派の候補者 5 議席 (うち 1 議席はヒズブッラー推薦) のうちの 1 議席をアマル運動が得ることを条件に承諾するとの立場をとった (*al-Hayat*, April 9, 2009)。この提案をめぐるヒズブッラーとアマル運動の間でベイルート県第 2 区とバアブダー郡の調整が進められ、ベイルート県第 2 区シーア派のヒズブッラーからアマル運動への譲渡と、バアブダー郡からのアマル運動のタラール・ハートゥーム政治局員の立候補を取り下げが実現した。しかしアマル運動によるサミール・アーザール国民議会議員の擁立の是非をめぐるナビーフ・ビッリー国民議会議長とミシェル・アウン元国軍司令官の対立は解消せず、ジェズズィーン郡 3 議席 (そしてバアブダー郡のシーア派の候補者) の最終調整は決着を見ないまま再び棚上げとなった (*Nahamet.com*, April 23, 2009、[「IV. ベイルート県第 2 区」](#)、[「VI. レバノン山地県バアブダー郡」](#)、[「XXI. ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡」](#)を参照)。

ジェズズィーン郡の立候補者調整、とりわけ無所属 (アマル運動推薦) のサミール・アーザール国民議会議員の立候補の是非がこれほどまでに争点化したのは、同議員をめぐるナビーフ・ビッリー国民議会議長とミシェル・アウン元国軍司令官の評価が大きく異なっていたからであった。サミール・アーザール国民議会議員の「長年の盟友」であるナビーフ・ビッリー国民議会議長は、同議員がジェズズィーン郡において最大の組織票を持っていると考え、リストからの排除は許されなかった (*al-Hayat*, April 27, 2009)。これに対して、キリスト教徒が多数派を占めるジェズズィーン郡での立候補者選定において自身が主導権を握るべきだと自負していたミシェル・アウン元国軍司令官はこうしたナビーフ・ビッリー国民議会議長の評価が私情を挟んだものとみなし、その執拗な反対ぶりは「個人的な理由」 (*al-Hayat*, April 27, 2009) に基づくと言われる感情的だったとされる。

サミール・アーザール国民議会議員の立候補の是非をめぐる対立が続く中、2009 年 4 月下旬、ヒズブッラーは、同議員に代えて息子のイブラーヒム・アーザール (Ibrahim 'Azar) をリストに参加させることを提案したが、これは具体化することなく廃案となった (*al-Hayat*, April 24, 2009)。こうしたなか、ミシェル・アウン元国民議会議員が、①サミール・アーザール国民議会議員がリスト参加を辞退する、②自由国民潮流がマロン派 1 人、ギリシャ・カトリック 1 人からなるリストを作成する、③サミール・アーザール国民議会議員の無所属での立候補の是非は同議員に一任する、という新提案を行った (*al-Liwa'*, April 25, 2009)。しかしこれもまたナビーフ・ビッリー国民議会議長によって拒否された (*al-Hayat*, April 27, 2009)。

事態を憂慮したヒズブッラーは、最終調整が猶予されていたレバノン山地県バアブダー郡と合わせて候補者の選定を決着させようとした。2009 年 5 月 4 日、①バアブダー郡のシーア派の候補者 1 人、ヒズブッラーがアリー・アンマール国民議会議員の擁立を断念し、自由国民潮流に同候補者を移譲する、②この代償として、自由国民潮流はジェズズィーン郡におけるマロン派の候補者 1 人を放棄し、アマル運動が推薦するサミール・アーザール国民議会議員の出馬を認める、という最後の提案を行った ([「VI. レバノン山地県バアブダー郡」](#)を参照)。

しかしこの提案もミシェル・アウン元国軍司令官によって拒否された。4月27日の段階で「アマル運動と自由国民潮流の候補者一本化が実現しなければ、国民が判断を下す」(*al-Hayat*, April 28, 2009)と述べていたミシェル・アウン元国軍司令官は5月7日、アマル運動とは別のリストを作成するとの意思を明らかにし、同日、自由国民潮流のミシェル・フルウ(マロン派)、ズィヤード・アスワド(マロン派)、イサーム・サワーヤー(ギリシャ・カトリック)からなる変化改革リストを発表した(*al-Hayat*, May 8, 2009, *Nahamet.com*, May 7, 2009、なお変化改革リストの選挙綱領に関しては「[X. レバノン山地県キスラワン郡](#)」を参照)。対するナビーフ・ビッリー国民議会議長も2009年5月7日、「民主的に戦おう」との納得の念を述べ、独自のリスト作成を本格化させた(*al-Hayat*, May 8, 2009, *Nahamet.com*, May 8, 2009)。そして5月16日、サミール・アーザール国民議会議員が、自身と、無所属(抵抗への忠誠ブロック)のピエール・スィルハール国民議会議員の弟で無所属のカミール・スィルハール(マロン派)、無所属のアントワン・フリー(ギリシャ・カトリック)からなる家族リスト(La'iha al-'A'ilat)を発表し、5月10日にナビーフ・ビッリー国民議会が発表した抵抗開発解放リストとの団結を訴えた(*al-Hayat*, May 17, 2009, *Nahamet.com*, May 17, 2009)。

なおジェズィーン郡での統一リスト作成失敗を受け、2009年5月9日、3月8日勢力を指導するヒズブラーのハサン・ナスルッラー書記長、自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長が会談し、①アマル運動と自由国民潮流がそれぞれのリストを作成し「文明的な方法で」選挙戦を行うこと、②この戦いが3月8日勢力の同盟そのものに影響を与えないことを確認した(*al-Hayat*, May 10, 2009, *Nahamet.com*, May 9, 2009)。またこの会談では、国民議会選挙後の戦略をめぐる意見交換がなされたとされ、それによると、ミシェル・アウン元国軍司令官がナビーフ・ビッリー国民議会議長の議長職再選を確認したことを受け、自由古訓民潮流による独自のリスト作成に対するナビーフ・ビッリー国民議会議長の異議申し立てが取り下げられた(*al-Hayat*, May 11, 2009, *al-Nahar*, May 10, 2009, *Nahamet.com*, May 10, 2009)²⁵。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者54,188人中29,225人が投票を行った。うち有効票は28,995票、無効票は117票、白票は113票、投票率は53%であった。当選者は変化改革リストの3人、自由国民潮流のズィヤード・アスワド(マロン派)、ミシェル・フルウ(マロン派)、イサーム・サワーヤー(ギリシャ・カトリック)で、得票数はそれぞれ15,648票、13,285票、14,914票であった。敗北した家族リストの3人、無所属のサミール・アーザール国民議会議員(マロン派)、カミール・スィルハール(マロン派)、アントワン・フリー(ギリシャ・カトリック)の得票数はそれぞれ10,792票、5,403票、5,220票で、3月14日勢力の独立ジェズィーン・リストの3人、無所属のエドモーン・リズク元法務大臣兼情報大臣(マロン派)、ファウズィー・アスマル(マロン派)、アジャージュ・ハッダード(ギリシャ・カトリック)の得票数はそれぞれ7,399票、4,338票、6,498票だった(*NNA*, June 7, 2009)。

XVI. ナバティーヤ県ナバティーヤ郡

ナバティーヤ県ナバティーヤ郡は定数が3で、シーア派に3議席が割り当てられている。*Elnashra.com*[2009]によると人口115,594人の内訳はスンナ派524人、シーア派110,561人、ドゥルーズ派7人、アラウィー派0人、マロン派3,641人、ギリシャ正教55人、ギリシャ・カトリック763人、アルメニア正教0人、アルメニア・カトリック12人、福音派0人、マイリティ31人である。

アマル運動とヒズブラーの地盤選挙区であるナバティーヤ郡では、両組織の統一リストに対抗し得る立候補者、リストを欠いたまま、両組織が選挙戦を終始有利に進めた。

²⁵ ただし2009年5月22日、ヒズブラーのハサン・ナスルッラー書記長が南部解放を記念してテレビ演説を行った際、ジェズィーン郡での統一リストを望んでいたとの所見を明らかにした(*Nahamet.com*, May 22, 2009)。

1. 3月8日勢力

3月8日勢力は、アマル運動、ヒズブッラーがリスト作成を主導し、第17期国民議会選挙と同様、前者が2人、後者が1人の立候補者を擁立することで合意した。

これを受け、2009年4月1日、ヒズブッラーのハサン・ナスルッラー書記長が、ベイルート県第2区、レバノン山地県バアブダー郡、南部県スール郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡において立候補する党员11人を発表し、抵抗への忠誠ブロック(Kutla al-Wafa' li-l-Muqawama)代表のムハンマド・ラアド(Muhammad Ra'd)国民議会議員のナバティーヤ郡からの立候補者を発表した(*al-Hayat*, April 1, 2009)。また4月7日、ムハンマド・ラアド国民議会議員が記者会見を行い、「あなたの投票で抵抗せよ」のスローガンのもとに、①政治的宗派主義の廃止、②協力と合意に基づく政治、③法の支配と制度のもとでの国家建設、④汚職撲滅、⑤構成な代表の可能とする選挙法改正、⑥選挙権年齢の引き下げ、⑦レバノンの国益に準じた抵抗運動、⑧抵抗運動の技術・能力の国防戦略への活用、⑨国民対話と国民統合などを骨子とする政治、経済、司法改革をめざすとしたヒズブッラーの選挙綱領を発表した(*al-Hayat*, April 8, 2009, *Nahamet*, April 7, 2009)。

2009年5月10日、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長が抵抗開発解放リストを発表した。同リストはベイルート県第2区、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、同ジェッズイーン郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡、同バアルベック郡・ヘルメル郡におけるアマル運動、ヒズブッラー、アラブ社会主義バアス党、シリア民族社会党、無所属にからなっており、ナバティーヤ郡の立候補者は、アマル運動のヤースィーン・ジャービル(Yasin Jabir)元公共事業運輸大臣、無所属(開発解放ブロック)のアブドゥルラティーフ・ザイン('Abd al-Latif al-Zayn)国民議会議員の2人と、ヒズブッラーのムハンマド・ラアド国民議会議員からなっていた(*al-Hayat*, April 1, 2009, May 11, 2009, *Nahamet.com*, May 10, 2009, 「[XIII. 南部県ザフラーニー郡](#)」を参照)。

2. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者121,912人の49%が投票を行った(投票者数、有効票は公表されなかった。無効票は67票、白票は92票)。当選者は抵抗開発解放リストの3名、ヒズブッラーのムハンマド・ラアド国民議会議員、アマル運動のヤースィーン・ジャービル元公共事業運輸大臣、無所属(アマル運動推薦)のアブドゥルラティーフ・ザイン国民議会議員で、得票数はそれぞれ62,720票、60,068票、55,250票であった(NNA, June 7, 2009)。

XVII. ナバティーヤ県ビント・ジュベイル郡

ナバティーヤ県ビント・ジュベイル郡は定数が3で、シーア派に3議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口116,999人の内訳はスンナ派25人、シーア派102,452人、ドゥルーズ派0人、アラウィー派0人、マロン派11,630人、ギリシャ正教0人、ギリシャ・カトリック2,876人、アルメニア正教0人、アルメニア・カトリック16人、福音派0人、マイノリティ0人である。

アマル運動とヒズブッラーの地盤選挙区であるナバティーヤ郡では、両組織の統一リストに対抗し得る立候補者、リストを欠いたまま、両組織が選挙戦を終始有利に進めた。

1. 3月8日勢力

3月8日勢力は、アマル運動、ヒズブッラーがリスト作成を主導し、第17期国民議会選挙と同様、前者が2人、後者が1人の立候補者を擁立することで合意した。

これを受け、2009年4月1日、ヒズブッラーのハサン・ナスルッラー書記長が、ベイルート県第2区、レバノン山地県バアブダー郡、南部県スール郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡において立候補する党员 11人を発表し、ハサン・ファドルッラー (Hasan Fadl Allah) 国民議会議員のビント・ジュベイル郡からの擁立を発表した (*al-Hayat*, April 1, 2009)。また5月10日、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長が抵抗開発解放リストを発表した。同リストはベイルート県第2区、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、同ジェズズイーン郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡、同バアルベック郡・ヘルメル郡におけるアマル運動、ヒズブッラー、アラブ社会主義バアス党、シリア民族社会党、無所属にからなっており、ビント・ジュベイル郡の立候補者は、アマル運動のアイユブ・フマイイド (Ayyub Humayyid) 前電力資源大臣、アリー・バズズィー (Ali Bazzi) 国民議会議員の2人と、ヒズブッラーのハサン・ファドルッラー国民議会議員からなっていた (*al-Hayat*, April 1, 2009, May 11, 2009, Nahamet.com, May 10, 2009, 「[XIII. 南部県ザフラーニー郡](#)」を参照)。

2. その他

3月8日勢力の圧倒的な優位のもと、3月14日勢力はリスト作成を断念したが、レバノン帰属潮流が選挙に参加した。レバノン帰属潮流のアフマド・アスアド議長は2009年4月5日、レバノン山地県ジュベイル郡、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、同ビント・ジュベイル郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡の立候補者を発表し、ビント・ジュベイル郡においてはアリー・マフナー、アフマド・ハワージャの2人を擁立した (Akhbar al-Sharq, April 6, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009, Nahamet.com, April 5, 2009, 「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者 123,396人中 52,899人が投票を行った。うち有効票は 51,696票、無効票は 420票、白票は 783票、投票率は 42%であった。当選者は抵抗開発解放リストの3名、ヒズブッラーのハサン・ファドルッラー国民議会議員、アマル運動のアイユブ・フマイイド前電力資源大臣、アリー・バズズィー国民議会議員で、得票数はそれぞれ 49,852票、48,775票、49,220票であった。敗北したレバノン帰属潮流のアリー・マフナーは 616票、アフマド・ハワージャは 554票だった (NNA, June 7, 2009)。

XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡

南部県ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡は定数が5で、スンナ派に1議席、シーア派に2議席、ドゥルーズ派に1議席、ギリシャ正教に1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口 133,360人の内訳はスンナ派 22,187人、シーア派 74,943人、ドゥルーズ派 13,707人、アラウィー派 0人、マロン派 5,989人、ギリシャ正教 10,571人、ギリシャ・カトリック 3,572人、アルメニア正教 68人、アルメニア・カトリック 18人、福音派 1,273人、マイノリティ 1,032人である。

マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡の選挙戦は、3月14日勢力と3月8日勢力の二局対立を度外視したかたちで展開し、シーア派住民の圧倒的支持を受ける3月8日勢力のアマル運動(ヒズブッラー)、ギリシャ正教徒に支持者を擁し同じく3月8日勢力に参加するシリア民族社会党、そしてドゥルーズ派に支持者を擁する3月14日勢力の進歩社会主義党の間の選挙同盟や、無所属との選挙同盟の是非が争点となった。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は無所属のムニーフ・ハティーブ (Munif al-Khatib、スンナ派)が、民主左派運動のアドナーン・アブード ('Adnan 'Abbud、シーア派)、そして無所属のレバノン帰属潮流のイリヤース・アブー・リズク (Iliyas Abu Rizq) 労働総連合前総裁(ギリシヤ正教)と選挙同盟を結び、リストを作成しようとした (*al-Hayat*, June 6, 2009)。

これに対して2009年3月末にアンワル・ハリール元情報大臣・難民大臣(ドゥルーズ派)を支持することでアマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長と合意していた進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣は、後述する通り、3月14日勢力が統一リストを作成することに消極的な態度を示し、ベイルート県第2区と同様、3月8日勢力との候補者調整をめざした(「[IV. ベイルート県第2区](#)」を参照)。そして3月14日勢力の3人、すなわち無所属のムニーフ・ハティーブ、レバノン帰属潮流のイリヤース・アブー・リズク労働総連合前総裁、民主左派運動のアドナーン・アブードと、3月8日勢力の2人、すなわちアマル運動のアリー・ハサン・ハリール元農業大臣(シーア派)、無所属(アマル運動推薦)のアンワル・ハリール元情報大臣・難民大臣の擁立を支持した (*al-Hayat*, June 6, 2009)。

しかしワリード・ジュンブラート元難民大臣の案は、レバノン帰属潮流(そして3月8日勢力のアラブ社会主義バアス党、シリア民族社会党)によって受け入れられることはなかった (*al-Hayat*, June 6, 2009)。その後、3月14日勢力はワリード・ジュンブラート元難民大臣が支持を表明したアンワル・ハリール元情報大臣・難民大臣の対立候補を擁立しないかたちで立候補者の調整を続けたが²⁶、折衝は難航し (*al-Hayat*, June 6, 2009)、リストを作成に挫折し、ムニーフ・ハティーブ、アドナーン・アブード(そしてイリヤース・アブー・リズク労働総連合前総裁)は単独での立候補を余儀なくされた。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力はアマル運動がリスト作成を主導し、3月8日勢力のヒズブッラー、シリア民族社会党、アラブ社会主義バアス党だけでなく、3月14日勢力の進歩社会主義党や無所属のレバノン共産党とも選挙同盟を結成しようとする試みがなされた。

スンナ派枠をめぐる、アラブ社会主義バアス党のカーシム・ハシム (Qasim Hashim) 国民議会議員の再立候補が当初から有力だった (*al-Hayat*, April 13, 2009)。

シーア派枠をめぐる、アマル運動は2008年10月、レバノン共産党との選挙同盟の結成を模索し、同党と断交状態にあるヒズブッラーを説得した (*al-Hayat*, October 24, 2008)。そして三組織は、南部県スール郡、ベカーア県ザフレ郡、同西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡、北部県クーラ郡で立候補者の調整を試みた (*al-Diyar*, April 3, 2009, Naharnet.com, April 3, 2009, 「[XIV. 南部県スール郡](#)」、「[XIX. ベカーア県ザフレ郡](#)」、「[XX. ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡](#)」、「[XXVI. 北部県クーラ郡](#)」を参照)。これにより2009年3月末には、①マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡からの立候補を予定していたレバノン共産党のサアドッラー・マズラアーニー (Sa'd Allah Mazra'ani) 書記長のスール郡への鞍替え、②レバノン共産党の他の選挙区での候補者擁立見送り、③レバノン共産党への選挙後の閣僚ポストの確保、で合意に達するかに見えた (*al-Hayat*, March 22, 2009, March 31, 2009)。だが三者は最終合意にいたらず、アマル運動とヒズブッラーは、レバノン共産党との選挙同盟を断念し、従来通り各1人を立候補させることとなった。

これを受け、2009年4月1日、ヒズブッラーのハサン・ナスルッラー書記長が、ベイルート県第2区、レバノン山地県バアブダー郡、南部県スール郡、ナバティヤ県ナバティヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡において立候補する党员11人を発表し、マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡では、党務への専念を求めるムハンマド・マフムード・ハイダル (Muhammad Mahmud Haydar) 国民議会議員の後任として、党研究文書相談センター (*al-Markaz al-Istishari li-l-Dirasat al-Tawthiq*) のアリー・ファイヤード ('Ali Fayyad) 所長 (*al-Hayat*, April 2, 2009) を擁立した (*al-Hayat*, April 1, 2009, 「[XVI. ナバティヤ県ナバティヤ郡](#)」を参照)²⁷。一方、アマル運動では、4月半ばまでにアリー・ハサン・ハリール (Ali Hasan Khalil) 元農業大臣の立候補が確定した (*al-Hayat*, April 13, 2009)。

²⁶ ムスタクバル潮流もまた3月14日勢力がドゥルーズ派の候補を擁立することを望まなかった (*al-Hayat*, June 6, 2009)。

²⁷ ナズィーフ・マンズール (Nazih Mansur) 前国民議会議員擁立の動きもあった (*al-Hayat*, March 25, 2009)。

ドゥルーズ枠をめぐる、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長は、3月14日勢力を主導する進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣との選挙同盟をめざし、無所属(開発解放ブロック)のアンワル・ハリール(Anwar al-Khalil)元情報大臣・難民大臣の立候補への支持を同難民大臣からとりつけることに成功した(*al-Hayat*, March 21, 2009)。これを受けるかたちでワリード・ジュンブラート元難民大臣は、3月28日付『ディヤール』紙のインタビューに対し、「西ベカーア[郡・ラーシャイヤー郡]で[ナビーフ・]ビッリー国民議会議長に挑戦するいかなる候補も支持しない」、「アンワル・ハリール[元情報大臣・難民大臣]の立候補はコンセンサス」と述べ、アマル運動との良好な関係をアピールした(*al-Diyar*, March 28, 2008)。なお進歩社会主義党のガズイー・アリーディー(Gazi al-'Aridi)公共労働運輸大臣によると、アマル運動との選挙同盟をめぐる折衝では、アンワル・ハリール元情報大臣・難民大臣の立候補への支持とともに、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡のドゥルーズ枠をめぐる統一候補者を擁立しないことで合意した(*al-Hayat*, April 18, 2009、[「XX. ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡」](#)を参照)。

ギリシャ正教枠をめぐるのは、シリア民族社会党と自由国民潮流がそれぞれ立候補者の擁立を主張し対立した。2008年12月半ば、シリア民族社会党党首のアスアド・ハルダーン元労働大臣の再立候補を主張したのに対し、自由国民潮流がイサーム・アブー・ジャムラ副首相の立候補を求めたのである(*The Daily Star*, December 16, 2008)。両者の対立は2009年3月半ば、自由国民潮流がシリア民族社会党にマルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡のギリシャ正教枠を譲歩する代償として、バイルート県第1区のギリシャ正教枠を確保し、同枠からイサーム・アブー・ジャムラ副首相を立候補させることで決着した(*al-Hayat*, March 12, 2009、[「III. バイルート県第1区」](#)を参照)。そして4月5日、アスアド・ハルダーン元労働大臣が、レバノン山地県マトン郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、北部県アッカー郡、同北部県クーラ郡の立候補者とともに、自身の立候補を正式に発表した(*Nahamet*, April 5, 2009、*al-Hayat*, April 6, 2009)。しかしこの動きに関して、『ディヤール』紙編集長で立候補を予定していたシャルル・アイユブ(Sharl Ayyub)は、シリアによる干渉の結果だと述べた。彼によると、シリアがアスアド・ハルダーン元労働大臣のマルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡からの立候補への異議申し立てを「レッド・ライン」に抵触する主張とみなし、自由国民潮流のイサーム・アブー・ジャムラ副首相の選挙区をバイルート県第1区に変更するよう強く求めたことで、自由国民潮流がシリア民族社会党に譲歩したというのである(*Akhbar al-Sharq*, April 22, 2009, April 28, 2009)。

2009年5月10日、ビーフ・ビッリー国民議会議長が、バイルート県第2区、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、同ジェズイーニ郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡、同バアルベック郡・ヘルメル郡におけるアマル運動、ヒズブッラー、アラブ社会主義バース党、シリア民族社会党、無所属にからなる抵抗開発解放リストを正式に発表し、マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡からは以下の立候補者が名を連ねた。アラブ社会主義バース党のカーシム・ハーシム国民議会議員(スンナ派)、アマル運動のアリー・ハサン・ハリール元農業大臣(シーア派)、ヒズブッラーのアリー・ファイヤード党研究文書相談センター(シーア派)、無所属(アマル運動推薦)のアンワル・ハリール元情報大臣・難民大臣(ドゥルーズ派)、シリア民族社会党党首のアスアド・ハルダーン元労働大臣(ギリシャ正教)(*al-Hayat*, May 11, 2009、*Nahamet.com*, May 10, 2009、[「XIII. 南部県ザフラーニー郡」](#)を参照)。

3. その他

3月14日勢力、3月8日勢力のいずれにも属さない無所属の組織のなかでは、レバノン共産党とレバノン帰属潮流が選挙戦に参加した。

イリヤース・アブー・リズク労働総連合前総裁を通じて3月14日勢力との選挙同盟を模索したレバノン帰属潮流は、アフマド・アスアド議長(シーア派)がマルファフ・ラマダーン(Marhaf Ramadan、シーア派)とともに各選挙区における立候補者の調整とリスト作成を行った(*al-Hayat*, June 6, 2009)。そしてアフマド・アスアド議長が2009年5月5日、「イランの計画を挫折させるため、ヒズブッラーに挑戦する」(*Akhbar al-Sharq*, April 6, 2009)と述べ、レバノン山地県ジュベイル郡、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、同ビント・ジュベイル郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡における以下の立候補者を発表した——リバーフ・アビー・ハイダル(レバノン

山地県ジュベイル郡、シーア派)、ザイン・ハリーフア(南部県ザフラーニー郡、シーア派)、アリー・アミン(同スール郡、シーア派)、アフマド・アスアド議長(ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、シーア派)、マルファフ・ラマダーン(マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、シーア派)、イリヤース・アブー・リズク(マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ギリシャ正教)、アリー・マフナー('Ali Mahna、同ビント・ジュベイル郡、シーア派)、アフマド・ハワージャ(Ahmad Khawaja、同ビント・ジュベイル郡、シーア派)、リファト・ミスリー(Rif'at al-Misri、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、シーア派)、ハンマド・ハリール・ハイダル(Muhammad Khalil Haydar、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、シーア派)、ビルハイル・シャーヒー(Bilkhayr Shahin、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、シーア派)、ムハンマド・スブヒー・ヤーギー(Muhammad Subhi Yaghi、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、シーア派)、リヤード・ズアイティル(Riyad Zu'aytir、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、シーア派)、ムファッダール・ウルルーワ(Mufaddal 'Uluwa、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、シーア派)(*al-Hayat*, April 6, 2009、*Nahamet.com*, April 5, 2009)。

しかしレバノン帰属潮流と3月14日勢力の選挙同盟はアマル運動との関係を重視する進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣の消極的な態度により頓挫し、レバノン帰属潮流はリスト作成に失敗し、メンバーは無所属での立候補を余儀なくされた(*al-Hayat*, April 6, April 13, 2009)。

なお、3月8日勢力に対する対決姿勢を明示したレバノン帰属潮流の選挙活動は、2009年5月1日にアフマド・アスアド議長が乗った車列がマルジャアユーン郡で1日に2度襲撃される事件が発生するなど、困難を伴った(*al-Hayat*, May 2, 2009、*Nahamet.com*, May 2, 2009)。

一方、3月8日勢力のアマル運動、ヒズブツラーとの折衝に決裂したレバノン共産党のサアドツラー・マズラアーニー書記長は単独で立候補した(*al-Hayat*, June 6, 2009)。

4. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者138,844人中64,975人が投票を行った。うち有効票は63,933票、無効票は536票、白票は506票、投票率は46%であった。当選者は抵抗開発解放リストの5人、アラブ社会主義バアス党のカーシム・ハシム国民議会議員(スナ派)、アマル運動のアリー・ハサン・ハリール元農業大臣(シーア派)、ヒズブツラーのアリー・ファイヤード党研究文書相談センター(シーア派)、無所属(アマル運動推薦)のアンワル・ハリール元情報大臣・難民大臣(ドゥルーズ派)、シリア民族社会党党首のアスアド・ハルダーン元労働大臣(ギリシャ正教)で、得票数はそれぞれ46,460票、48,064票、46,674票、50,837票、46,690票であった。敗北した3月14日勢力の立候補者、すなわち無所属のムニーフ・ハティーブ、民主左派運動のアドナーン・アップードは13,418票、11,327票だった。無所属のレバノン帰属潮流のアフマド・カーミル・アスアド議長、マルファフ・ラマダーン、イリヤース・アブー・リズク労働総連合前総裁は、10,694票、805票、13,107票、レバノン共産党のサアドツラー・マズラアーニー書記長は3,353票だった。(NNA, June 7, 2009)。

XIX. ベカーア県ザフレ郡

ベカーア県ザフレ郡は定数が7で、スナ派に1議席、シーア派に1議席、マロン派に1議席、ギリシャ正教に1議席、ギリシャ・カトリックに2議席、アルメニア正教に1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口146,704人の内訳はスナ派37,525人、シーア派21,500人、ドゥルーズ派740人、アラウィー派6人、マロン派24,319人、ギリシャ正教14,960人、ギリシャ・カトリック29,436人、アルメニア正教8,362人、アルメニア・カトリック1,794人、福音派1,334人、マイノリティ6,700人、ユダヤ教徒28である。

ザフレ郡における選挙戦は、スンナ派、シーア派、マロン派、ギリシャ正教、ギリシャ・カトリック、アルメニア正教の有権者の投票行動が勝敗を決するとされる。第 18 期国民議会選挙においては、無所属のギリシャ・カトリック政治指導者どうしの対立に 3 月 14 日勢力と 3 月 8 日勢力の二極対立が投影されたかたちで展開した。

1. 3 月 14 日勢力

3 月 14 日勢力は、無所属(ムスタクバル・ブロック)のニコラー・ファットゥーシュ(Niqula Fattush)元観光大臣がリストのとりまとめを行い(Nahamet.com, May 16, 2009)、ムスタクバル潮流代表のサアド・ハリリー国民議会議員がイスラーム教徒の立候補者の人選を主導し、レバノン軍団とレバノン・カタール党がキリスト教徒の立候補者の人選に影響力を行使した。このうちキリスト教徒の議席に関して、2009 年 3 月 6 日、ザフレ郡選出の現職国民議会議員でレバノン・カタール党のエリー・マールーニー観光大臣がレバノン軍団とレバノン・カタール党の完全な協調のもとにリストを作成し、選挙戦に臨むと述べたが(Nahamet.com, March 6, 2009)、両組織の調整は難航した。その背景には、ムスタクバル潮流のサアド・ハリリー国民議会議員が両組織のコンセンサスを楽観視し、仲介を控えたことなどがあげられる(*al-Hayat*, April 20, 2009)。

スンナ派枠をめぐっては、2009 年 4 月初めまでの段階で、無所属(変化改革ブロック/人民ブロック)のアースィム・アッラージー('Asim 'Arraji)国民議会議員が無所属(ムスタクバル潮流推薦)で立候補することが決定した(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 9, 2009)。アースィム・アッラージー国民議会議員は第 17 期国民議会においては変化改革ブロックを構成する人民ブロックの一員として活動してきた人物であり、3 月 14 日勢力のリストに参加することで、これまでの政治姿勢を転換することになった。

シーア派枠をめぐって、サアド・ハリリー国民議会議員は無所属のウカーブ・サクル('Uqab Saqr)の擁立をめざしつつ、より有力な政治指導者のリスト入りの可能性を模索した。ウカーブ・サクルを擁立するにあたって、サアド・ハリリー国民議会議員は 2009 年 4 月末までにガズィー・マイス(Ghazi al-Mays)、ムハンマド・マフムード(Muhammad Mahmud)といった無所属の立候補者と会談し、立候補の辞退を要請した(*al-Hayat*, April 28, 2009)。だが 5 月に入ると、サアド・ハリリー国民議会議員は 3 月 8 日勢力の人民ブロックのメンバーだった無所属のムフスィン・ダッルール(Muhsin Dallul)元国防大臣との政治同盟をめざし、元大臣と会談を重ねた。会談においてサアド・ハリリー国民議会議員は、ムフスィン・ダッルール元国防大臣との選挙同盟が実現した場合、ウカーブ・サクルの立候補を辞退させ、元大臣をリストに参加させると約束した(*al-Hayat*, April 20, 2009, May 11, 2009, Nahamet.com, May 11, 2009, *al-Safir*, May 11, 2009)。だが親 3 月 8 日勢力の指導者のリスト参加に対して、レバノン軍団とレバノン・カタール党が異議を唱え(Nahamet.com, May 13, 2009)、最終的にはサアド・ハリリー国民議会議員とムフスィン・ダッルール元国防大臣の交渉は決裂し(*al-Hayat*, May 15, 2009, Nahamet.com, May 13, 2009)、ウカーブ・サクルのリスト参加が確定した(Nahamet.com, May 14, 2009)。

交渉の決裂を受け、ムフスィン・ダッルール元国防大臣は 3 月 14 日勢力、3 月 8 日勢力のいずれにも属さない第 3 勢力のリストを作る意思を示したが(Nahamet.com, May 13, 2009, May 14, 2009)、2009 年 5 月 26 日、「支配階級がレバノンを闘争の場とした」(Nahamet.com, May 26, 2009)との現状批判を行い、立候補を辞退した(*al-Hayat*, May 27, 2009)。

マロン派枠をめぐっては、レバノン・カタール党とレバノン軍団による北部県トリポリ郡、バトルーン郡などでのリスト作成作業と並行して(「[XXII. 北部県トリポリ郡](#)」、「[XXVIII. 北部県バトルーン郡](#)」を参照)、立候補者の人選が進められ、2009 年 4 月初めまでに、前者のエリー・マールーニー観光大臣のリスト参加が確定した(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 9, 2009)。そして 4 月 21 日、レバノン・カタール党最高党首のアミン・ジュマイイル元大統領がバイルート県第 1 区、北部県マトン郡、同アレイ郡、同キスラワーン郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、北部県トリポリ郡の立候補者とともに、エリー・マールーニー観光大臣の擁立を改めて発表した(*al-Hayat*, April 22, 2009、「[IX. レバノン山地県アレイ郡](#)」を参照)。

ギリシャ正教枠をめぐっては、2009 年 4 月初めまでにザフレ市の名望家のマールーフ家からの擁立が確定し、レバノン軍団が無所属のジョゼフ・マールーフ(Juzif Ma'luf)の擁立をめざした(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 9, 2009)。この

動きはレバノン・カタール党やザフレ郡のキリスト教名望家によって反対されたが(*al-Hayat*, April 20, 2009)、レバノン軍団の要求は認められた。

ギリシャ・カトリック枠をめぐっては、2009年4月初めまでに無所属のニコラー・ファットゥーシュ元観光大臣がムスタクバル潮流の推薦のもとに立候補し、ザフレ郡のリスト作成を統括した(*al-Hayat*, March 17, 2009, April 6, 2009, April 9, 2009)。一方、第2の立候補者については、レバノン軍団が推薦する無所属のトニー・アブー・ハーティル(Tuni Abu Kha'ir)と同じく無所属で3月8日勢力との同盟も念頭に置いて選挙戦を展開してきたマージダ・バリディー・リズク(Majida Baridi Rizq)などの名が上がり(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 9, 2009, April 24, 2009, March 17, 2009)、前者のリスト参加が決まった。

アルメニア正教枠をめぐっては、2009年2月にレバノン・カタール党がターシュナーク党と同盟関係にあるミシェール・ムッル(Mishal al-Murr)国民議会議員とのレバノン山地県マトン郡で選挙同盟の結成に合意したことを受け(「[VII. レバノン山地県マトン郡](#)」を参照)、ザフレ郡でも、ベイルート県第1区、ベイルート県第2区とともに、ターシュナーク党の立候補者のリストへの参加が模索された。マトン郡での協力をめぐるターシュナーク党との折衝がレバノン・カタール党が主に担当したのに対し、ザフレ郡、ベイルート県第1区、ベイルート県第2区をめぐる折衝は、ムスタクバル潮流代表のサアド・ハリリー国民議会議員が行った。

ターシュナーク党との調整が行われている間、3月14日勢力は各選挙区におけるアルメニア正教、アルメニア・カトリックの候補者の人選を猶予した。だが2009年4月1日、ターシュナーク党との交渉が決裂すると、レバノン軍団が無所属のシャニト・ジャンジャンニヤーン(Shanit Janjaniyan)の擁立に動いた。これに対し5月3日、アルメニア社会民主ハンチャク党、ラムガファーン党、自由アルメニア・レバノン人運動、無所属のアルメニア教徒国民議会議員がベイルート県第1区でのセルジュ・トルサルキースヤーン(Sirj Tursarkisyan)国民議会議員(アルメニア・カトリック)とザフレ郡での無所属のナーリーク・アブラーハミアーンの擁立を求める声明を発表し、レバノン軍団の動きに対抗した(「[III. ベイルート県第1区](#)」を参照)。最終的には、ザフレ郡の立候補者擁立に影響力を行使していたレバノン軍団の主張が認められ、シャニト・ジャンジャンニヤーンのリスト参加が決まった。

2009年5月17日、ニコラー・ファットゥーシュ元観光大臣がザフレ市内で心のザフレ・リスト(La' iha Zahla bi-al-Qalb)を発表した。同リストは、レバノン・カタール党、ムスタクバル潮流、レバノン軍団、ザフレ総合連合(al-Tajammu' al-Zahli al-'Amm)、国民自由党、進歩社会主義党、民主会合(al-Liqa' al-Dimuqrati)、自由革命(al-Thuwwar al-Ahrar)運動の連立リストで、レバノン・カタール党のエリー・マールーニー観光大臣(マロン派)、無所属(レバノン軍団推薦)のアントワン・アブー・ハーティル(ギリシャ・カトリック)、ジョルジュ・マールーフ(ギリシャ正教)、シャニト・ジャンジャンニヤーン(アルメニア正教)、無所属(ムスタクバル潮流推薦)のアースィム・アッラージー国民議会議員(スンナ派)アクアブ・サクル(シーア派)、ニコラー・ファットゥーシュ元観光大臣(ギリシャ・カトリック)からなっていた。また会見の席上で、エリー・マールーニー元観光大臣はリストを公正する組織の選挙綱領の実現、とりわけ「国家の主権と独立の回復」をめざすと述べた(*al-Hayat*, May 18, 2009, Nahamet.com, May 17, 2009)。

2.3月8日勢力

3月8日勢力は、2009年3月28日、アマル運動書記長のナビーフ・ビッリー国民議会議長とヒズブッラーのハサン・ナスルッラー書記長の会談で無所属(人民ブロック代表)のイリヤース・スカーフ農業大臣の支援を合意したことを受け(Nahamet.com, March 28, 2009)、同農業大臣がリスト作成を主導した(Nahamet.com, May 11, 2009)。彼はザフレ郡(および西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡)で全方位的な選挙同盟の結成をめざし、アマル運動、ヒズブッラー、自由国民潮流²⁸、ターシュナーク党だけでなく、ムスタクバル潮流とも折衝を行った(*al-Hayat*, March 17, 2009)。

スンナ派枠をめぐって、イリヤース・スカーフ農業大臣は、ムスタクバル潮流の支持者(スンナ派)を分断することをねらった立候補者選定を行うことを決定し(*al-Hayat*, April 27, 2009)、第17期国民議会において人民ブロックのメンバーと

²⁸ ただしイリヤース・スカーフ農業大臣の支持者は、第17期国民議会において同大臣が変化改革ブロックに組み込まれたことを快く思っておらず、自由国民潮流に追随するような選挙同盟の結成を望まなかった(*al-Hayat*, March 17, 2009)。

して同盟関係にあった無所属のアースィム・アッラージー国民議会議員との選挙同盟を断念した(これを受け、アースィム・アッラージー国民議会議員は前述の通り、3月14日勢力との選挙同盟を行った、*al-Hayat*, March 22, 2009, March 30, 2009)。しかし他の宗派の候補者が2009年5月半ばまでに決まるなか(Nahamet.com, May 15, 2009)、スンナ派の立候補者確定は延々として進まなかった。イリヤース・スカーフ農業大臣は5月末、イサーム・アッラージー('Isam 'Arraji)のリスト参加を一時めざしたが(Nahamet.com, May 27, 2009)、最終的には無所属のリダー・マイルス(Rida al-Mays)の擁立を決定した。

シーア派枠をめぐるには、イリヤース・スカーフ農業大臣が推す無所属(人民ブロック)のハサン・ヤアクーブ(Hasan Ya'qub)国民議会議員の他に、無所属(人民ブロック)のムフスィン・ダッルール元国防大臣、アマル運動のアリー・アブドゥッラー元農業大臣、無所属のハティム・タリブ(Hatim Talib)などがリスト参加の候補者として浮上した(*al-Hayat*, March 17, 2009, March 25, 2009, March 31, 2009)。イリヤース・スカーフ農業大臣は、3月14日勢力がムフスィン・ダッルール元国防大臣との選挙同盟を模索し、シーア派有権者の動員力を高めようとするに対抗して、一時アマル運動のアリー・アブドゥッラー元農業大臣のリスト参加を検討し、シーア派有権者の票を確保しようとした(*al-Hayat*, May 19, 2009)。だがイリヤース・スカーフ農業大臣は南部県ジェズイーヌ郡でのアマル運動と自由国民潮流の対立を解消するために、ザフレ郡のシーア派枠がアマル運動のアリー・アブドゥッラー元農業大臣に割り当てられることに反発し、旧来からの同盟者であるハサン・ヤアクーブ国民議会議員を擁立した(*al-Hayat*, March 16, 2009、[「XV. 南部県ジェズイーヌ郡」](#)を参照)。なお前述の通り、ムフスィン・ダッルール元国防大臣は3月14日勢力との折衝が失敗に終わると、イリヤース・スカーフ農業大臣と接近し、選挙同盟を行うような動きを見せた(Nahamet.com, May 30, 2009)。

マロン枠をめぐるには、2009年3月半ばまでに、ミシェル・アウン元国軍司令官の親戚で自由国民潮流のサリーム・アウン(Salim 'Awn)国民議会議員を擁立することが決定した(*al-Hayat*, April 6, 2009, March 17, 2009)。

ギリシャ正教枠をめぐるには、自由国民潮流のカミール・マアルーフ(Kamil Ma'luf)国民議会議員とサリーム・マアルーフ(Salim Ma'luf)の擁立が検討され、2009年3月半ばまでに、前者の擁立とリスト参加が決定した(*al-Hayat*, March 17, 2009)。

ギリシャ・カトリック枠をめぐるには、イリヤース・スカーフ農業大臣は自身に加えて、おじで無所属のナージー・スカーフ(Naji Sukaf)、無所属のフアード・トゥルク(Fu'ad al-Turk)元大使、そして無所属のマーキダー・バリディー・リズク(Makida Baridi Rizq)などの擁立を検討し、フアード・トゥルク元大使をリストに参加させることを決定した(*al-Hayat*, March 17, 2009, March 21, 2009, May 19, 2009, Nahamet.com, May 15, 2009)。

アルメニア正教枠をめぐるには、ターシュナーク党が立候補者の人選において主導権を握った。2009年3月29日、ターシュナーク党は、アルメニア議員ブロックを発表し、3月半ばから立候補が濃厚となっていたザフレ郡においてジョルジュ・カッサルジーを擁立することを発表した(*al-Hayat*, March 17, 2009, March 30, 2009, Nahamet.com, March 29, 2009、[「III. バイルート県第1区」](#)を参照)。ターシュナーク党はバイルート県第1区でムスタクバル潮流と選挙同盟を結ぶことを念頭にサアド・ハリリー国民議会議員と折衝を行っていた。だが、4月1日に交渉が決裂すると、同党は、全選挙区で自由国民潮流と選挙同盟を結ぶとともに、ザフレ郡ではイリヤース・スカーフ農業大臣との選挙同盟を決定した(Nahamet.com, April 1, 2009, *al-Hayat*, April 2, 2009, April 6, 2009, April 9, 2009、[「III. バイルート県第1区」](#)を参照)。ザフレ郡のリストのとりまとめを行っていたイリヤース・スカーフ農業大臣は、ジョルジュ・カッサルジー以外の立候補者の擁立をめざしたが実現せず、ジョルジュ・カッサルジーの立候補とリスト参加が確定した(*al-Hayat*, April 27, 2009)。

最終的に2009年5月27日、イリヤース・スカーフ農業大臣はザフレ市で人民ブロック・リスト(La'iha al-Kutla al-Sha'biya)を発表した。同リストは無所属のリダー・マイルス(スンナ派)、無所属のハサン・ヤアクーブ国民議会議員(シーア派)、自由国民潮流のサリーム・アウン国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のカミール・マアルーフ国民議会議員(ギリシャ正教)、無所属(人民ブロック代表)のイリヤース・スカーフ農業大臣(ギリシャ・カトリック)、無所属のフアード・トゥルク元大使(ギリシャ・カトリック)、ターシュナーク党のジョルジュ・カッサルジー(アルメニア正教)から構成された。またリスト発表に合わせて、フアード・トゥルク元大使は、①コンセンサスに基づく民主主義の強化、②一元主義、トロイカの拒否、③ターイフ合意の遵守、④イスラエルによる占領地の解放、⑤パレスチナ人の帰化反対、⑥外国人への不動産売

却禁止、⑦シリアとの関係改善、⑧汚職、搾取の廃止などからなる選挙綱領を読み上げた(Nahamet.com, May 27, 2009) (al-Hayat, May 28, 2009)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者158,005人の56%が投票を行った(有効票、無効票、白票は公表されなかった)。当選者は心のザフレ・リストの7名、無所属(ムスタクバル潮流推薦)のアースイム・アッラージー国民議会議員(スナ派)、無所属(ムスタクバル潮流推薦)のアクアブ・サクル(シーア派)、レバノン・カタール党のエリー・マールーニー観光大臣(マロン派)、無所属(レバノン軍団推薦)のジョルジュ・マアルーフ(ギリシャ正教)、無所属(レバノン軍団推薦)のアントワン・アブー・ハーティル(ギリシャ・カトリック)、無所属(ムスタクバル潮流推薦)のニコラー・ファットゥーシユ観光大臣(ギリシャ・カトリック)、無所属(レバノン軍団推薦)のシャーニト・ジャンジャンニヤーン(アルメニア正教)で、得票数はそれぞれ48,464票、49,238票、49,328票、48,288票、48,019票、27,709票、48,527票であった。敗北した人民ブロック・リストの7名、無所属のリダー・マイル(スナ派)、無所属のハサン・ヤアクブ国民議会議員(シーア派)、自由国民潮流のサリーム・アウン国民議会議員(マロン派)、自由国民潮流のカミール・マアルーフ国民議会議員(ギリシャ正教)、無所属(人民ブロック代表)のイリヤース・スカーフ農業大臣(ギリシャ・カトリック)、無所属のフアード・トゥルク元大使(ギリシャ・カトリック)、ターシュナーク党のジョルジュ・カッサルジー(アルメニア正教)は得票数がそれぞれ40,046票、40,463票、41,064票、41,643票、42,975票、40,459票、41,512票だった(NNA, June 7, 2009)。

XX. ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡

ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡は定数が6で、スナ派に2議席、シーア派に1議席、ドゥルーズ派に1議席、マロン派に1議席、ギリシャ正教に1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口119,531人の内訳はスナ派56,012人、シーア派16,090人、ドゥルーズ派17,507人、アラウィー派0人、マロン派9,409人、ギリシャ正教9,754人、ギリシャ・カトリック9,909人、アルメニア正教38人、アルメニア・カトリック31人、福音派403人、マイノリティ378人である。

西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡における選挙戦は、スナ派、シーア派、ドゥルーズ派の有権者の投票行動が勝敗を決するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められたが、その一方でこの二局対立を度外視した(ないしは選挙後の政界再編を念頭に置いた)選挙同盟の結成が試みられた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力はムスタクバル潮流のサアド・ハリリー国民議会議員がリスト作成を主導する一方、進歩社会主義党が3月8日勢力のアマル運動(そしてヒズブッラー)との直接対決を回避しようと試み、第17期国民議会選挙の「四者同盟」を彷彿とさせるような選挙同盟の結成を模索した。

スナ派枠をめぐって、サアド・ハリリー国民議会議員は、ムスタクバル潮流のジャマール・ジャッラーフ(Jamal Jarrah)国民議会議員、無所属のズィヤード・カーディリー(Ziyad al-Qadiri)、同じく無所属(ムスタクバル・ブロック)のアフマド・ファットゥーフ(Ahmad Fattuh)国民議会議員らの擁立をめざした。またバイルート県第3区、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡、北部県トリポリ郡、同ミニヤ郡・ディンニーヤ郡、同アッカール郡において立候補者の擁立をめざしたレバノン・イスラーム集団は西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡においてサーミー・ハティーブを立候補させ、同郡を含む各選挙区においてムスタクバル潮流の協力のもと3月14日勢力のリストに参加しようとした(al-Hayat, April 6, 2009, April 9, 2009, 「[V. バイルート県第3区](#)」を参照)。立候補者の調整は、2009年3月末にムスタクバル潮流がアフマド・ファットゥーフ国民議会議員の擁立を断念し(al-Hayat, March 30, 2009)、またムスタクバル潮流とレバノン・イスラーム集団の折衝がバイルート県第3区、南部県サイダー郡以外で不調に終わったことで決着し、ムスタクバル潮流のジャ

マール・ジャッラーフ国民議会議員と無所属のズィヤード・カーディリーのリスト参加で決着した。なおリスト参加を果たせなかったアフマド・ファットゥーフ国民議会議員は2009年4月17日、立候補辞退を宣言し、3月14日勢力の一員として選挙戦を応援した(*al-Hayat*, April 18, 2009)。他方、レバノン・イスラーム集団のサーミー・ハディーブは無所属として選挙戦を戦った。

シーア派枠をめぐるのは、当初3月8日勢力のアマル運動(およびヒズブッラー)が持つ組織票にいかに対処するかという観点から、①3月8日勢力のリストに名を連ねるアマル運動の立候補者の当選を保證するために立候補者の擁立を控え、アマル運動の支持者の懐柔を図る、②アマル運動を離反したマフムード・アブー・ハムダーン(Mahmud Abu Hamdan)元住宅大臣を擁立し、アマル運動の組織票の分断を図るといふ案が検討された(*al-Hayat*, March 20, 2009)。だが2009年4月半ばまでに、民主左派運動のアミン・ワフビー(Amin Wahbi)、無所属のサーリー・リーシューニー(Sami Khalil al-Rishuni)のいずれかを擁立するという方向で調整が進められ(*al-Hayat*, April 13, 2009, *al-Hayat*, April 20, 2009)、前者のリスト参加が決定された。しかしこの間も進歩社会主義党党首のワリード・ジュンブラート元難民大臣は、例えば、「西ベカーア[・ラーシャイヤ軍]でナビーフ・ビッリー[国民議会議長]に挑戦するいかなる立候補者も支持しない」(*al-Diyar*, March 28, 2008)と述べ、アマル運動との良好な関係をアピールしようとした(*al-Hayat*, April 6, 2009, Nahamet.com, March 28, 2009)。

ドゥルーズ派枠をめぐるのは、2009年3月下旬の段階で進歩国民戦線のワイル・アブー・ファーウール(Wa'il Abu Fa'ur)国民議会議員の擁立が確定し(*al-Hayat*, March 20, 2009)、2009年4月7日、ワリード・ジュンブラート元難民大臣によって正式に立候補が発表された(*al-Hayat*, April 8, 2009, April 9, 2009, April 13, 2009, April 20, Nahamet.com, April 7, 2009)。

マロン派枠をめぐるのは、レバノン軍団がロベール・ガーニム(Rubir Ghanim)国民議会議員に代わって立候補者を擁立しようとした(*al-Hayat*, March 20, 2009)。だが2009年4月初め、ムスタクバル潮流が推薦するロベール・ガーニム国民議会議員の再立候補が決定された(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 9, 2009, April 13, 2009, April 20, 2009)。

ギリシャ正教枠をめぐるのは、進歩社会主義党のアントワン・サアド(Antwan Sa'd)国民議会議員の再立候補が2009年3月の段階で確定し(*al-Hayat*, March 20, 2009, April 6, 2009)。4月7日、ワリード・ワリード・ジュンブラート元難民大臣によって正式に立候補が発表された(*al-Hayat*, April 8, 2009, April 9, 2009, April 20, 2009, Nahamet.com, April 7, 2009)。

2009年4月20日、サアド・ハリリー国民議会議員は、ジャッブ・ジャニーンの集会で尊厳リスト(La'ihā al-Karama)を発表した。同リストはムスタクバル潮流のジャマール・ジャッラーフ国民議会議員(スンナ派)、無所属(親ムスタクバル潮流推薦)のズィヤード・カーディリー(スンナ派)とロベール・ガーニム国民議会議員(マロン派)、民主左派運動のアミン・ワフビー(シーア派)、進歩社会主義党のワイル・アブー・ファーウール国民議会議員(ドゥルーズ派)とアントワン・サアド国民議会議員(ギリシャ正教)によって構成された。またリスト発表と合わせて、サアド・ハリリー国民議会議員は演説を行い、主権、自由、独立の実現などを掲げ、「レバノン第1」というスローガンのもとで投票を呼びかけた(*al-Hayat*, April 21, 2009, Nahamet.com, April 20, 2008)。

2.3月8日勢力

3月8日勢力はアラブ社会主義連合書記長のアブドゥッラヒーム・ムラード('Abd al-Rahman Murad)元国防大臣がリスト作成を主導する一方、アマル運動がレバノン共産党との選挙同盟を模索した。

スンナ派枠をめぐるのは、2009年3月末までにアブドゥッラヒーム・ムラード元国防大臣とムハンマド・カルアーウィー(Muhammad al-Qar'awi)の擁立が確定した(*al-Hayat*, March 20, 2009)。なお南部県・ナバティーヤ県でのアマル運動とレバノン共産党との選挙同盟(「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)が模索されるなかで、レバノン共産党のファールーク・ダフルージュ(Faruq Dahruj)前書記長の立候補も一時検討されたが、両者の選挙同盟は実現せず、ファールーク・ダフルージュのリスト参加も見送られた(*al-Hayat*, March 30, 2009)。

シーア派枠をめぐっては、2009年3月下旬までに、アマル運動のナースィル・ナスルッラー (Nasir Nasr Allah) 国民議会議員の擁立が内定した (*al-Hayat*, March 20, 2009, April 1, 2009)。だが南部県ジェズズィーン郡でのアマル運動と自由国民潮流の立候補者調整が難航するなか(「[XV. 南部県ジェズズィーン郡](#)」を参照)、正式な立候補発表は2009年5月10日まで先延ばしとなった。同日、ナビーフ・ビッリー国民議会議長は、抵抗開発解放リストを発表し、ベイルート県第2区、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、同ジェズズィーン郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、同バアルベック郡・ヘルメル郡におけるアマル運動、ヒズブッラー、アラブ社会主義バース党、シリア民族社会党、無所属の立候補者とともに、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡でのナースィル・ナスルッラー国民議会議員の擁立を正式に発表した (*al-Hayat*, May 11, 2009, Nahamet.com, May 10, 2009、「[XII 南部県ザフラーニー郡](#)」を発表)。

ドゥルーズ枠をめぐって、アマル運動は当初、南部県ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡のドゥルーズ枠と合わせて、3月14日勢力の進歩社会主義党と選挙同盟のための折衝を行い、統一候補の擁立をめざした。アマル運動と進歩社会主義党の折衝の結果、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡では前者が擁立したアンワル・ハリール元情報大臣・難民大臣を後者が支援することが決まったが、西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡では、統一候補の擁立には至らず (*al-Hayat*, April 18, 2009、「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)、2009年3月下旬までに、アラブ・レバノン闘争運動 (Haraka al-Nidal al-Lubnani al-'Arabi) 代表のファイサル・ダーウド (Faysal Dawud) 前国民議会議員の擁立が確定した (*al-Hayat*, March 20, 2009)。

マロン派枠をめぐっては、2009年3月下旬までに、自由国民潮流のヘンリー・シャディード (Hinri Shadid) 元国民議会議員の擁立が確定した (*al-Hayat*, March 20, 2009)。だがシーア派枠と同様、南部県ジェズズィーン郡でのアマル運動と自由国民潮流の立候補者調整が難航するなか(「[XV. 南部県ジェズズィーン郡](#)」を参照)、正式な立候補発表は2009年5月まで先送りにされた。

ギリシャ正教枠をめぐっては、2009年3月下旬までに無所属のエリー・ファルズリー (Ili al-Farzli) 元情報大臣の擁立が確定した (*al-Hayat*, March 20, 2009)。なおスナ派枠同様、南部県・ナバティーヤ県でのアマル運動とレバノン共産党との選挙同盟(「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)が模索されるなかで、レバノン共産党員の立候補も一時検討された。だが、自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官は、西ベカーア・ラーシャイヤー郡および北部県クーラ郡、バトルーン郡での同党との選挙同盟が3月8日勢力に不利に作用するとして反対し、アマル運動の試みは挫折した (*al-Hayat*, April 3, 2009)。

2009年6月1日、西ベカーア郡にヤーラ村で、ベカーア原則リスト (La' iha al-Marja' iya al-Biqā' iya) が発表された。同リストは、アラブ社会主義連合書記長のアブドゥッラフマーン・ムラード元国防大臣 (スナ派)、アマル運動のナースィル・ナスルッラー国民議会議員 (シーア派)、アラブ・レバノン闘争運動代表のファイサル・ダーウド前国民議会議員 (ドゥルーズ派)、自由国民潮流のヘンリー・シャディード元国民議会議員 (マロン派)、無所属のムハンマド・カルアーウィー (スナ派) とエリー・ファルズリー元情報大臣 (ギリシャ正教) からなっていた。またリスト代表のアブドゥッラフマーン・ムラード元国防大臣はリスト発表と合わせて、①法治国家の建設、公正の実現、司法の独立、②制度的国家の建設、③宗派主義的国家から国民国家への移行、④地方分権、⑤バランスのとれた開発計画の実行、⑥ターイフ合意の遵守などを訴えた (*al-Mustabqal*, June 2, 2009)。

3. その他

3月14日勢力、3月8日勢力以外の無所属の組織としては、レバノン共産党が選挙戦に挑んだ。

レバノン共産党は当初、アマル運動と南部県、ナバティーヤ県そして西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡での選挙同盟を模索し、西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡では、ファールーク・ダフルージュ前書記長を3月8日勢力のリストに参加させようとした (*al-Hayat*, March 20, 2009, March 30, 2009)。

アマル運動との選挙同盟をめざす折衝が決裂すると、レバノン共産党は、独自のリスト作成をめざしたが、実現せず、最終的にはファールーク・ダフルージュ前書記長が単独で立候補した。

4. 投票結果

西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡の選挙戦ではシリアが3月8日勢力の立候補者を支援しているとの批判が、3月14日勢力のメンバーなどによってなされた。例えば、レバノン・カタリーブ党のエリー・マールーニー (Ili Maruni) 観光大臣は、シリア人民議会のアブドゥルアズィーズ・トラード ('Abd al-'Aziz Turad) 議員が3月8日勢力を支援する活動を行い、内政干渉していると非難した (Akhbar al-Sharq, May 24, 2009)。

こうしたシリアの干渉の有無はともかく、2009年6月7日の投票日には、有権者122,487人中65,237人が投票を行った。うち有効票は64,571票、無効票は402票、白票は264票、投票率は53%であった。当選者は尊厳リストの6名、ムスタクバル潮流のジャマール・ジャッラーフ国民議会議員 (スンナ派)、無所属 (親ムスタクバル潮流推薦) のズィヤード・カーディリー (スンナ派)、民主左派運動のアミン・ワフビー (シーア派)、進歩社会主義党のワイル・アブー・ファール国民議会議員 (ドゥルーズ派)、無所属 (親ムスタクバル潮流推薦) のロベール・ガーニム国民議会議員 (マロン派)、進歩社会主義党のアントワーン・サアド国民議会議員 (ギリシャ正教)、得票数はそれぞれ 33,389 票、34,886 票、34,424 票、35,053 票、35,329 票、33,718 票であった。敗北した立候補者のうち、ベカーア原則リストのアブドゥッラーフマーン・ムラード元国防大臣 (スンナ派) は 29,095 票、ムハンマド・カルアーウィー (スンナ派) は 27,538 票、ナーシル・ナスルッラー国民議会議員 (シーア派) は 25,457 票、ファイサル・ダーウド前国民議会議員 (ドゥルーズ派) は 28,026 票、ヘンリー・シャディード元国民議会議員 (マロン派) は 27,415 票、エリー・ファルズリー元情報大臣 (ギリシャ正教) は 29,344 票、レバノン・イスラーム集団のサーミー・ハティーブは 7 票、レバノン共産党のファールーク・ダフルージュ前書記長は 1,797 票だった (NNA, June 7, 2009)。

XXI. ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡

ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡は定数が10で、スンナ派に2議席、シーア派に6議席、マロン派に1議席、ギリシャ・カトリックに1議席が割り当てられている。Elnashra.com [2009]によると人口250,870人の内訳はスンナ派32,282人、シーア派180,735人、ドゥルーズ派0人、アラウィー派95人、マロン派19,949人、ギリシャ正教2,096人、ギリシャ・カトリック15,461人、アルメニア正教136人、アルメニア・カトリック4人、福音派51人、マイノリティ61人である。

バアルベック郡・ヘルメル郡における選挙戦はシーア派の有権者の投票行動が勝敗を左右するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められたが、シーア派住民から圧倒的な支持を受けるヒズブッラーとアマル運動が指導する3月8日勢力が終始優勢を保った。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は、3月8日勢力に対するシーア派住民の圧倒的な支持を前にリストを作成することができず、レバノン軍団とレバノン・カタリーブ党がそれぞれギリシャ・カトリックの立候補者擁立を試みることとなった。2009年4月4日、レバノン軍団のサミール・ジャアジャア執行委員会議長がベイルート県第1区、南部県ザフラーニー郡、レバノン山地県シューフ郡、同マトン郡、北部県ビシャッリー郡同クーラ郡の立候補者とともに、ミシェル・サッルム (Mishal Sallum) の擁立を発表した (*al-Hayat*, April 5, 2009, April 7, 2009, April 20, 2009, Nahamet.com, April 4, 2009, 「[III. ベイルート県第1区](#)」などを参照)。また4月21日、レバノン・カタリーブ党最高党首のアミン・ジュマイイル元大統領がベイルート県第1区、北部県マトン郡、同アレイ郡、同キスラワーン郡、ベカーア県ザフレ郡、北部県トリポリ郡の立候補者とともに、サアドゥッラー・アラドゥーの擁立を発表した (*al-Hayat*, April 22, 2009, 「[IX. レバノン山地県アレイ郡](#)」を参照)。このうちサアドゥッラー・アラドゥーは、4月22日に立候補を辞退し (*al-Hayat*, April 23, 2009)、ミシェル・サッルムのみがバアルベック郡・ヘルメル郡で選挙戦を戦った。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は、ヒズブッラーの主導もとに立候補者調整とリスト作成が行われた。

スンナ派枠をめぐって、ヒズブッラーは2009年3月下旬までにイスラーム行動戦線元党首のカーミル・リファイー（Kamil al-Rifa'i）国民議会議員の擁立を決定し、また3月末までに現職で無所属（抵抗への忠誠ブロック）のイスマール・スッカリーヤ（Isma'il Sukkariya）国民議会議員に代えて、ワリード・スッカリーヤ（al-Walid Sukkariya）退役准将を擁立することを決した（*al-Hayat*, March 25, 2009, March 30, 2009, March 31, 2009）。

シーア派枠6議席は、ヒズブッラーに4議席、アマル運動に1議席、そしてヒズブッラーが推薦する立候補者に1議席が配分され、立候補者の調整が進められた。

このうち、ヒズブッラーについては、現職のフサイン・ハーッジ・ハサン（Husayn al-Hajj Hasan）国民議会議員、アリー・ミクダード（'Ali al-Miqdad）国民議会議員、ナウワール・サーヒリー（Nawwal al-Sahili）国民議会議員の3人の再立候補が早い段階で決まっていた。また残る1人については、ムハンマド・ヤーギー（Muhammad Yaghi）前国民議会議員、アンマール・ムーサウィー（'Ammar al-Musawi）前国民議会議員、フサイン・ムーサウィー（Husayn al-Musawi）などからの選定が検討された（*al-Hayat*, April 1, 2009）。最終的には2009年4月1日、ハサン・ナスルッラー書記長がベイルート県第2区、レバノン山地県バアブダー郡、南部県スール郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡の立候補者7人とともに、フサイン・ハーッジ・ハサン国民議会議員、アリー・ミクダード国民議会議員、ナウワール・サーヒリー国民議会議員、フサイン・ムーサウィーの4人を擁立すると発表した（*al-Hayat*, April 2, 2009, Nahamet.com, April 1, 2009、[XVI. ナバティーヤ県ナバティーヤ郡](#)を参照）。

アマル運動は2009年4月半ばまでに、割り当てられた1議席からガーズィー・ズアイティル（Ghazi Zu'aytir）元社会問題大臣を再立候補することを決定した（*al-Hayat*, April 13, 2009, Nahamet.com, April 23, 2009）。そして5月10日、レバノン山地県ジェズズィーン郡での自由国民潮流との候補者調整の決着に合わせて、ナビーフ・ビッリー国民議会議長が抵抗開発解放リストを発表し、ベイルート県第2区、レバノン山地県ジェズズィーン郡、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、ナバティーヤ県ナバティーヤ郡、同ビント・ジュベイル郡、同マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡の立候補者とともに、バアルベック郡・ヘルメル郡での彼の擁立を正式に発表した（*al-Hayat*, May 11, 2009, Nahamet.com, May 10, 2009、[XIII. 南部県ザフラーニー郡](#)を参照）。

ヒズブッラー推薦の立候補者選定は、無所属のフサイン・フサイニー（Husayn al-Husayni）前国民議会議長の擁立の是非が最大の争点となった（*al-Liwa'*, April 9, 2009, Nahamet.com, April 10, 2009）。ヒズブッラーは当初、3月8日勢力との選挙同盟の是非を決していなかったフサイン・フサイニー前国民議会議長に対して、無所属として立候補する場合には3月8日勢力のシーア派立候補者を6人でなく5人とする事で当選を保障するとの立場を示し、懐柔を試みた（*al-Hayat*, March 30, 2009, March 31, 2009）。これに対して、フサイン・フサイニー前国民議会議員は、自身とギリシャ・カトリックのアルベール・マンズール（Albir Mansur）のリストへの参加を条件として提示し、ヒズブッラーに譲歩を迫った（*al-Diyar*, April 11, 2009, Nahamet.com, April 11, 2009）。

こうしたなか、ヒズブッラーとアラブ社会主義バアス党の折衝が進展を見せた。アラブ社会主義バアス党は2009年4月初めまで、前レバノン地域指導部書記長のアースィム・カーンスーフ（'Asim Qansuh）元労働大臣とレバノン地域指導部書記長のファーイズ・シュクル（Fayiz Shukr）の2人の擁立をめざし、ヒズブッラーと折衝していた（*al-Diyar*, April 11, 2009、*al-Hayat*, March 30, 2009, April 1, 2009, April 8, 2009, Nahamet.com, April 11, 2009）²⁹。だが、ヒズブッラーとフサイン・フサイニー前国民議会議長の折衝が難航するなかで、アラブ社会主義バアス党が態度を軟化させ、4月8日に立候補者をアースィム・カーンスーフ元労働大臣に一本化することを決定すると、4月10日、ヒズブッラーはフサイン・フサイニー前国民議会議長との選挙同盟を断念し、アースィム・カーンスーフ元労働大臣を推薦する方針へと転換した（*al-Diyar*, April 11, 2009, Nahamet.com, April 11, 2009）。

²⁹ またアラブ社会主義バアス党は、ファーイズ・シュクルが当選した場合、内務地方行政大臣に就任させるようヒズブッラーに求めた（*al-Hayat*, March 30, 2009, April 8, 2009）。

ヒズブッラー推薦の立候補者の枠は、レバノン山地県バアブダー郡でのアマル運動、自由国民潮流、そしてヒズブッラーの立候補者調整の行方次第でアマル運動に譲渡される余地を残していたが (*al-Akhbar*, April 11, 2009、*Nahamet.com*, April 11, 2009、[「VI. レバノン山地県バアブダー郡」](#)を参照)、2009年4月14日、アマル運動とヒズブッラーは、アースィフ・カーンスーフ元労働大臣をリストに加えることで合意し (*al-Liwa'*, April 15, 2009、*Nahamet.com*, April 15, 2009)、またヒズブッラーは同日、フサイン・フサイニー前国民議会議長をリストに加えないと正式に発表した (*Nahamet.com*, April 15, 2009、*al-Safir*, April 15, 2009)。これを受け4月23日、アースィフ・カーンスーフ元労働大臣が正式にヒズブッラー推薦の立候補者となった (*Nahamet.com*, April 23, 2009)。またフサイン・フサイニー前国民議会議長は、4月22日、「我々の基本方針は…社会や祖国を一個人や一政党に置き換えるという考え方に基づいてはいない…。[その意味で]私の視点は宗派主義的でない」と述べ、立候補を辞退した (*al-Hayat*, April 23, 2009、*Nahamet.com*, April 22, 2009)³⁰。

マロン派枠をめぐっては、アマル運動が推すレバノン・カタール反主流派のナーディル・スッカール (*Nadir Sukkar*) 国民議会議員と、自由国民潮流が推す団結党のエミール・ラフマ (*Imil Lahma*) 党首のいずれを擁立するかで調整が進められた (*al-Hayat*, March 25, 2009)。アマル運動と自由国民潮流の調整は、レバノン山地県バアブダー郡、同ジェズビーン郡などにおける候補者調整が進められるなかで前者が2009年4月下旬までに譲歩した (*al-Hayat*, April 24, 2009、[「VI. レバノン山地県バアブダー郡」](#)、[「XV. 南部県ジェズビーン郡」](#)を参照)、またヒズブッラーも3月末の段階で、団結党との選挙同盟を決定していたため (*al-Hayat*, March 30, 2009, March 31, 2009)、エミール・ラフマ党首のリストへの参加が最終的に確定した (*Nahamet.com*, May 5, 2009、*al-Safir*, May 5, 2009)。

ギリシャ・カトリック枠をめぐっては、シリア民族社会党と自由国民潮流が立候補者調整を行った。シリア民族社会党は2009年4月5日、アスアド・ハルダーン党首が、レバノン山地県マトン郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、北部県アッカー郡、同北部県クーラ郡の立候補者とともに、マルワーン・ファーリス (*Marwan Faris*) 国民議会議員の擁立を正式に発表した (*Nahamet*, April 5, 2009、*al-Hayat*, April 6, 2009、[「XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡」](#)などを参照)。これに対して自由国民潮流は、フサイン・フサイニー前国民議会議長も推すアルベール・マンスールの擁立に固執した (*al-Hayat*, March 31, 2009、*Nahamet.com*, May 5, 2009、*al-Safir*, May 5, 2009)。両者の折衝はヒズブッラーとフサイン・フサイニー前国民議会議長の選挙同盟の結成が断念されるなかで自由国民潮流が譲歩し、マルワーン・ファーリス国民議会議員のリスト参加が確定した。

2009年4月28日、ヒズブッラーのフサイン・ムーサウィーが記者会見でバアルベック・ヘルメル・リスト (*La' ih Ba' lbik al-Hirmil*) を発表した。同リストは、無所属のワリード・スッカリーヤ退役准将 (スンナ派)、イスラーム行動戦線元党首のカーミル・リファーイー (スンナ派)、ヒズブッラーのフサイン・ハーッジ・ハサン国民議会議員 (シーア派)、アリー・ミクダード国民議会議員 (シーア派)、ナウワール・サーヒリー国民議会議員 (シーア派)、フサイン・ムーサウィー (シーア派)、アマル運動のガーズィー・ズアイティル元社会問題大臣 (シーア派)、アラブ社会主義バース党前レバノン地域指導部書記長のアースィム・カーンスーフ元労働大臣 (シーア派)、団結党のエミール・ラフマ党首 (マロン派)、シリア民族社会党のアスアド・ハルダーン国民議会議員 (ギリシャ・カトリック) からなっていた。またこの席上で、フサイン・ムーサウィーは、バランスのとれた開発の実現などを掲げた (*al-Hayat*, April 29, 2009、*al-Mustabal*, June 8, 2009、*Nahamet.com*, April 28, 2009)。

3. その他

3月14日勢力、3月8日勢力以外では、レバノン帰属潮流が立候補者を擁立した。2009年3月6日レバノン帰属潮流メンバーのリファト・ミスリー (シーア派) が、無所属のファーディー・ユニス (*Fadi Yunis*, シーア派) とハーフィズ・カフマズ (*Hafiz Qahmaz*, シーア派) とともにバアルベック・ヘルメル開発国民戦線 (*al-Jabha al-Wataniya li-Inma' Ba' lbik al-Hirmil*) と称する政治同盟を結成し選挙戦に臨む準備を開始した (*al-Hayat*, March 7, 2009)。これに対して、レバノン

³⁰ またアラブ社会主義バース党の立候補者以外にも、ヒズブッラーは無所属のアスアド・ディヤーブ (*As'ad Diyab*) をフサイン・フサイニー前国民議会議長に代えて擁立することを検討していた (*al-Hayat*, April 1, 2009)。

帰属潮流のアフマド・アスアド議長は4月5日、レバノン山地県ジュベイル郡、南部県ザフラーニー郡、同スール郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、同ビント・ジュベイル郡の立候補者とともに、リファト・ミスリー、ムハンマド・ハリール・ハイダル(シア派)、ビルハイル・シャーヒーン(シア派)、ムハンマド・スプヒー・ヤーギー(シア派)、リヤード・ズアイティル(シア派)、ムファッダール・ウルーワ(シア派)の擁立を発表し、無所属の立候補者との調整をめざした(Akhbar al-Sharq, April 6, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009, Nahamet.com, April 5, 2009, 「[XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡](#)」を参照)。

レバノン帰属潮流と無所属の立候補者たちに調整は後者に有利なカタチで進められ、2009年5月17日、無所属のムハンマド・ラーシド・ハマーダ(Muhammad Rashid Hamada, シア派)の主導のもとに無所属を中心とするバアルベック・ヘルメル開発リスト(La'iha Inma' Ba'lbik al-Hirmil)が結成された。同リストは、シア派枠1議席とマロン派枠1議席を欠いた不完全なものだった。すなわち同リストは、レバノン帰属潮流のムハンマド・スプヒー・ヤーギー(シア派)と、無所属のバーシル・フジャイリー(Basil Ahmad al-Hujayri, スンナ派)、ファドルッラー・スルフ(Fadl Allah Sulh, スンナ派)、ムハンマド・ラーシド・ハマーダ(シア派)、ファーディー・ユーンニス(シア派)、ハーフィズ・カフマズ(シア派)、ムハンマド・ハサン・ハーッジ・スライマーン(Muhammad Hasan al-Hajj Sulayman, シア派)、ハリール・ルファール(Khalil Rufayil, ギリシャ・カトリック)から構成された(*al-Hayat*, May 18, 2009)。リスト発表に合わせてムハンマド・ラーシド・ハマーダは「開発、恩赦、地域の略奪からの解放」(14march.org, May 17, 2009)を掲げた。

バアルベック・ヘルメル開発リストへの参加を制限されたレバノン帰属潮流は方針を転換し、2009年5月26日、アフマド・アスアド議長が、ヒズブッラー、アマル運動と対決し続けることが現政府に反対する国民に二つの選択肢を提示し、混乱を招くとの理由でバアルベック郡・ヘルメル郡の選挙戦から撤退すると発表した(*al-Hayat*, May 27, 2009, Nahamet.com, May 26, 2009)。これを受け、5月27日、リファト・ミスリーは立候補辞退を宣言し、3月8日勢力の支持に回った(*al-Hayat*, May 28, 2009)。

4. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者255,637人中126,038人が投票を行った。うち有効票は124,393票、無効票は776票、白票は869票、投票率は49%であった。当選者はバアルベック・ヘルメルリストの10名、イスラーム行動戦線元党首のカーミル・リファイー国民議会議員(スンナ派)、無所属のワリード・スッカリーヤ(スンナ派)、ヒズブッラーのアリー・ミクダード国民議会議員(シア派)、フサイン・ハーッジ・ハサン国民議会議員(シア派)、ナウワール・サーヒリー国民議会議員(シア派)、フサイン・ムーサウィー(シア派)、アマル運動のガーズィー・ズアイティル元社会問題大臣(シア派)、アラブ社会主義バアス党前レバノン地域指導部書記長のアースィム・カーンスーフ元労働大臣、団結党のエミール・ラフマ党首、シリア民族社会党のマルワーン・ファーリス国民議会議員で、得票数はそれぞれ108,678票、108,222票、108,455票、108,062票、108,266票、104,707票、107,212票、102,452票、109,060票、107,974票であった。敗北した立候補者のうち、バアルベック・ヘルメル開発リストのファドルッラー・スルフ(スンナ派)は13,427票、バーシル・フジャイリー(スンナ派)は13,401票、ファーディー・アリー・ユーンニス(シア派)は14,755票、ハーフィズ・カフマズ(シア派)は14,686票、ムハンマド・ラーシド・ハマーダ(シア派)は13,891票、ムハンマド・ハサン・ハーッジ・スライマーン(シア派)は13,620票、ムハンマド・ヤーギー(シア派)は13,207票、ハリール・ルファール(ギリシャ・カトリック)は13,812票だった。また3月14日勢力のレバノン軍団のミシェル・サッラームは496票だった(NNA, June 7, 2009)。

XXII. 北部県トリポリ郡

北部県トリポリ郡(トリポリ市)は定数が8で、スンナ派に5議席、アラウィー派に1議席、マロン派に1議席、ギリシャ正教に1議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口186,721人の内訳はスンナ派148,519人、シア派707人、ドゥルーズ派10人、アラウィー派16,101人、マロン派4,355人、ギリシャ正教12,244人、ギリシャ・カトリック

ク1,023人、アルメニア正教1,898人、アルメニア・カトリック362人、福音派563人、マイノリティ897人、ユダヤ教徒42人である。

トリポリ郡における選挙戦はスンナ派有権者の投票行動が勝敗を左右するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は、自陣営を構成する政党・政治組織、政治指導者に無所属の有力政治指導者を加えた連立リストの作成をめざし、ムスタクバル潮流のサアド・ハリリー国民議会議員、無所属(トリポリ無所属ブロック)のムハンマド・サファディー(Muhammad al-Safadi)経済通商大臣、そして無所属のナジブ・ミーカーティー(Najib Miqati)前首相の三者が立候補者選定を主導した。このうち、3月14日勢力のサアド・ハリリー国民議会議員とムハンマド・サファディー経済通商大臣は2009年3月初めから、レバノン・カタール党を含んだかたちでリスト作成の折衝を本格化させた(*al-Hayat*, March 8, 2009, April 6, 2009)。一方、2009年4月に中道ブロック結成の必要を明言し(Akhbar al-Sharq, April 7, 2009, *al-Hayat*, April 8, 2009)、3月14日勢力と3月8日勢力の双方と一線を画したナジブ・ミーカーティー前首相は4月9日、トリポリ郡、ミニヤ郡・ディンニーヤ郡において4人の推薦者をリストに参加させることをサアド・ハリリー国民議会議員とムハンマド・サファディー経済通商大臣に承諾させ、3月14日勢力と戦略的な選挙同盟を結んだ(*al-Diyar*, April 9, 2009, *al-Hayat*, May 18, 2009, Nahamet.com, April 9, 2009)。

スンナ派枠をめぐって、ミニヤ・ディンニーヤ郡と合わせて、サアド・ハリリー国民議会議員、ナジブ・ミーカーティー前首相、ムハンマド・サファディー経済通商大臣が立候補者調整を主導した(*al-Hayat*, April 8, 2009)。サアド・ハリリー国民議会議員は2009年4月初め、ムスタクバル潮流メンバーのサミール・ジスル(Samir al-Jisr)国民議会議員と無所属(トリポリ無所属ブロック代表)のムハンマド・カッバーラ(Muhammad Kabbara)国民議会議員の推薦を決定するとともに(*al-Hayat*, April 6, 2009)、ムスタファー・アッルーシュ(Mustafa 'Allush)国民議会議員の再立候補を断念し、同議員が占めていた議席をナジブ・ミーカーティー前首相に譲った(*al-Hayat*, April 5, 2009, April 23, 2009)。

これに対して、ナジブ・ミーカーティー前首相は自身だけでなく、アフマド・カラーミー(Ahmad Karami)元国民議会議員の擁立をムスタクバル潮流に求め、折衝の結果、マロン派枠からの立候補者擁立を断念することを条件にこの要求を実現した(Nahamet.com, April 4, 2009, *al-Safir*, April 4, 2009)。

他方、ムハンマド・サファディー経済通商大臣当初、自身のリスト参加に加えて、民主刷新運動のミスバーフ・アフダブ(Misbah al-Ahdab)国民議会議員の擁立を主張し、ムスタクバル潮流が推すムハンマド・カッバーラ国民議会議員とナジブ・ミーカーティー前首相が推すアフマド・カラーミー元国民議会議員のリスト参加に難色を示した(*al-Akhbar*, April 5, 2009, April 6, 2009, April 8, 2009, Nahamet.com, April 6, 2009)。だが、サアド・ハリリー国民議会議員とムハンマド・ミーカーティー前首相の折衝が順調に進むなか、両者との同盟を維持するため、2009年4月6日、ミスバーフ・アフダブ国民議会議員の擁立を断念した(*al-Akhbar*, April 6, 2009, Nahamet.com, April 6, 2009)。またムハンマド・サファディー経済通商大臣は、ミニヤ郡・ディンニーヤ郡での立候補者調整で、自身の同盟者である無所属(トリポリ無所属ブロック)のカーシム・アブドゥルアズィーズ(Qasim 'Abd al-'Aziz)国民議会議員をリストに加えることを強く主張し(*al-Hayat*, April 9, 2009)、それが認められない場合、北部県トリポリ郡でムハンマド・イーサー(Muhammad 'Isa)前外務次官(スンナ派)をリストに参加させるようサアド・ハリリー国民議会議員に求めた。カーシム・アブドゥルアズィーズ国民議会議員のリスト参加は、ムハンマド・サファディー経済通商大臣とムスタクバル潮流の選挙同盟の是非を握る鍵となり、2009年4月初め、サアド・ハリリー国民議会議員は譲歩し、カーシム・アブドゥルアズィーズ国民議会議員がミニヤ郡・ディンニーヤ郡のリストに参加することを承諾した(*al-Diyar*, April 9, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009, Nahamet.com, April 9, 2009)。これを受け、ムハンマド・サファディー経済通商大臣はトリポリ郡におけるムハンマド・イーサー前外務次官の擁立要求を撤回した(「[XXIII. 北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡](#)」を参照)。

こうしてムスタクバル潮流のサミール・ジスル国民議会議員、同潮流が推す無所属のムハンマド・カッバーラ国民議会議員、ナジブ・ミーカーティー前首相と彼の同盟者のアフマド・カラーミー元国民議会議員、そしてムハンマド・サファ

ディー経済通商大臣のリスト参加が確定した。

なお 2009 年 4 月 3 日にムスタクバル潮流とのトリポリ郡での同盟を発表し、リスト参加の意思を示していたミスバーフ・アフダブ国民議会は (*al-Hayat*, April 4, 2009)、リストから排除されて以降も無所属として選挙活動を続けた (*al-Diyar*, April 9, 2009, *al-Hayat*, April 23, 2009, April 27, 2009, Nahamet.com, April 9, 2009)。また 3 月 29 日、北部県トリポリ郡、ミニヤ・ディンニーヤ郡、アッカー郡からラーミー・ディルガーム、アスアド・ハルムーシュ、ムハンマド・ハウシャルをそれぞれ擁立することを決定したレバノン・イスラーム集団は (Nahamet.com, March 30, 2009)、ベイルート県第 3 区と南部県サイダー郡以外でのムスタクバル潮流との選挙同盟が不調に終わった結果、ラーミー・ディルガームを無所属として擁立し、議席の獲得をめざした ([「V. ベイルート県第 3 区」](#)を参照)。

アラウィー派枠をめぐるのは、2009 年 4 月初め、ムスタクバル潮流がメンバーのバドル・ワンヌース (Badr Wannus) 国民議会議員の再出馬を求め、ナジーブ・ミーカーティー前首相、ムハンマド・サファディー経済通商大臣がこれを認めた。 (*al-Hayat*, April 8, 2009, *al-Liwa* ', April 7, 2009, Nahamet.com, April 7, 2009)。

マロン派枠をめぐるのは、2009 年 4 月初めまでに無所属のジャン・ウバイド (Jan 'Ubayd) 元外務在外居住者大臣、フルウ・フルウ (*al-Hulw al-Hulw*)、レバノン・カタール党のサミール・サアーダといった顔ぶれが立候補者として上がった³¹。このうちジャン・ウバイド元外務在外居住者大臣は進歩社会主義党のワリード・ジュンブラート元難民大臣が、フルウ・フルウはムハンマド・サファディー経済通商大臣が推薦し、サミール・サアーダの擁立に反対した (*al-Hayat*, March 30, 2009, April 5, 2009, April 6, 2009 April 8, 2009, *al-Liwa* ', April 7, 2009, Nahamet.com, April 7, 2009, Nahamet.com, April 6, 2009)。またナジーブ・ミーカーティー前首相も、ジャン・ウバイド元外務在外居住者大臣、フルウ・フルウのいずれかの擁立を支持するという立場をとった (*al-Hayat*, April 6, 2009, *al-Liwa* ', April 7, 2009, Nahamet.com, April 4, 2009, April 6, 2009, April 7, 2009, *al-Safir*, April 4, 2009)。

しかし最終的な立候補者選定においては、レバノン・カタール党がムスタクバル潮流の後押しを受けるかたちで主導権を握った。そして 2009 年 4 月 4 日には、ナジーブ・ミーカーティー前首相が、ムスタクバル潮流との折衝でマクラム・ウバイド元外務在外居住者大臣の擁立を断念することに合意し (*al-Hayat*, April 6, 2009, *al-Liwa* ', April 7, 2009, Nahamet.com, April 4, 2009, April 6, 2009, April 7, 2009, *al-Safir*, April 4, 2009)、4 月 6 日には、ワリード・ジュンブラート元難民大臣が、ジャン・ウバイド元外務在外居住者大臣の支持を断念せざるを得ないと謝罪した (*al-Hayat*, April 6, 2009, *al-Liwa* ', April 7, 2009, Nahamet.com, April 6, 2009, April 7, 2009)。こうした譲歩の結果、4 月 21 日、レバノン・カタール党最高党首のアミン・ジュマイイル元大統領がベイルート県第 1 区、北部県マトン郡、同アレイ郡、同キスラワン郡、ベカーア県ザフレ郡、同バルベック郡・ヘルメル郡の立候補者ともに、サミール・サアーダの擁立を改めて発表し (*al-Hayat*, April 22, 2009, [「IX. レバノン山地県アレイ郡」](#)を参照)、そのリスト参加が確定した。

なおジャン・ウバイド元外務在外居住者大臣はリストから排除されても立候補を辞退せず、4 月 15 日、無所属での出馬を決意し、選挙戦に臨んだ (*al-Hayat*, April 16, 2009, May 4, 2009, May 13, 2009)。

ギリシャ正教をめぐるのは 2009 年 4 月初め、ムスタクバル潮流がモーリス・ファーディル (Muris Fadil) 国民議会議員の息子で無所属のロベール・ファーディル (Rubir Muris Fadil) を推薦し、ナジーブ・ミーカーティー前首相の支持のもとに擁立をめざした (Nahamet.com, April 10, 2009, *al-Liwa* ', April 10, 2009)。これに対して、ムハンマド・サファディー経済通商大臣は、トリポリ郡において自身の同盟者が 1 人もリストに参加していないことを不服とし、ロベール・ファーディルに代えて自身が推すファーディー・ガントゥース (Fadi Ghantus) の擁立を求めた (*al-Hayat*, April 8, 2009, *al-Liwa* ', April 7, 2009, April 10, 2009, Nahamet.com, April 7, 2009, April 10, 2009)。

しかしムハンマド・サファディー経済通商大臣のこの要求は、ムスタクバル潮流から強い反発を受けた。北部県クーラ郡からの立候補を決めていたムスタクバル潮流メンバーでギリシャ正教徒のファリード・マカーリー国民議会副議長は、ロベール・ファーディルの擁立がムスタクバル潮流ではなく、3 月 14 日勢力のギリシャ正教を代表する自身の推薦に基

³¹ また民主左派運動のイリヤス・アターッラー (Ilyas 'Ata' Allah) 国民議会議員を北部県トリポリ郡からの立候補をめざしたが、2009 年 5 月 1 日に立候補を辞退した (*al-Hayat*, May 2, 2009)。

づく」と主張して、ムハンマド・サファディー経済通商大臣の要求を却下したのである (*al-Liwa* ', April 7, 2009, Nahamet.com, April 7, 2009, *al-Hayat*, April 8, 2009)。

ファデー・ガントウスのリスト参加を拒否されたムハンマド・サファディー経済通商大臣はその後、無所属のアントワン・ハビーブ (Antwan Habib) の擁立を模索したが (*al-Hayat*, April 18, 2009)、これもムスタクバル潮流とナジーブ・ミーカーティー前首相の反対を受け (*al-Hayat*, April 20, 2009)、最終的には同盟者の擁立を断念した。

2009年4月22日、ナジーブ・ミーカーティー前首相、サアド・ハリリー国民議会議員、ムハンマド・サファディー経済通商大臣がトリポリ市内で共同記者会見を開き、トリポリ団結リスト (La' iha al-Tadamun al-Tarabulsi) を発表した。同リストは、ムスタクバル潮流のサミール・ジスル国民議会議員 (スンナ派)、無所属 (ムスタクバル潮流推薦) のムハンマド・カッバーラ国民議会議員 (スンナ派)、無所属のナジーブ・ミーカーティー前首相 (スンナ派)、無所属 (ナジーブ・ミーカーティー前首相推薦) のアフマド・カラーミー元国民議会議員 (スンナ派)、無所属のムハンマド・サファディー経済通商大臣 (スンナ派)、ムスタクバル潮流のバドル・ワンヌース国民議会議員 (アラウィー派)、レバノン・カタール党のサミール・サアダ (マロン派)、無所属 (ムハンマド・カッバーラ推薦) のロベール・ファーディル (ギリシャ正教) が名を連ねた。またこの記者会見で3名は、①国民の権利と自由を擁護する強力で近代的な主権国家、参加型国家、②ターイフ合意の尊重、③外国の支配への反対、④パレスチナ問題などをめぐるアラブの諸問題への取り組み、などを主唱した (Nahamet.com, April 22, 2009, *al-Hayat*, April 23, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は、アラブ解放党党首のウマル・カラーミー ('Umar Karami) 元首相がリスト作成を主導し、3月14日勢力に対抗しようとした。だが3月14日勢力がナジーブ・ミーカーティー元首相をはじめとする有力な無所属の政治指導者との政治同盟を実現するなか、3月8日勢力は劣勢を強いられた。

2009年4月7日に立候補を発表したウマル・カラーミー元首相 (4月7日、出馬を発表、*al-Hayat*, April 8, 2009) は、アラブ社会主義前衛党のアブドゥルマジード・ラーフィイー ('Abd al-Majid al-Rafi' i) 党首、イスラーム行動戦線のファトヒー・ヤカン (Fathi Yakan)、無所属のムハンマド・アニス・ジスル (Muhammad Anis al-Jisr) らとの選挙同盟をめざし (Nahamet.com, February 9, 2009)、2009年4月に入るとリスト作成を開始した (*al-Hayat*, April 12, 2009, Nahamet.com, April 11, 2009)。アラブ社会主義前衛党のアブドゥルマジード・ラーフィイー、イスラーム行動戦線のビラル・シャバーン (Bilal Sha'ban) 書記長は立候補を断念し (*al-Hayat*, April 8, 2009)、ウマル・カラーミー元首相は5月30日、アラブ解放党のハルドゥーン・シャリーフ (Khalidun al-Sharif) とともに選挙戦を戦うことを発表したものの、リストを作成できなかった (*al-Hayat*, June 1, 2009)。なお3月8日勢力では、このほかにもアラブ民主党のリファト・アリー・イード (Rif'at 'Ali 'Id)、マラダ潮流のラフリー・ディヤブ (Rafli Diyab) がそれぞれアラウィー派枠、ギリシャ正教枠から立候補した。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者196,149人中89,886人が投票を行った。うち有効票は87,821票、無効票は1,038票、白票は1,027票、投票率は45%であった。当選者はトリポリ団結リストの8名、すなわち無所属のムハンマド・サファディー経済通商大臣 (スンナ派)、無所属のナジーブ・ミーカーティー前首相 (スンナ派)、無所属 (ムスタクバル潮流推薦) のムハンマド・カッバーラ国民議会議員 (スンナ派)、ムスタクバル潮流のサミール・ジスル国民議会議員 (スンナ派)、無所属 (ナジーブ・ミーカーティー前首相推薦) のアフマド・カラーミー元国民議会議員 (スンナ派)、ムスタクバル潮流のバドル・ワンヌース国民議会議員 (アラウィー派)、レバノン・カタール党のサミール・サアダ (マロン派)、無所属 (ムハンマド・カッバーラ推薦) のロベール・ファーディル (ギリシャ正教) で、得票数はそれぞれ66,439票、65,076票、55,511票、54,259票、42,987票、55,415票、49,861票、55,884票であった。敗北した立候補者のうち、3月8日勢力のアラブ解放党のウマル・カラーミー元首相 (スンナ派) は30,313票、アラブ解放党のハルドゥーン・シャリーフ (スンナ派) は22,274票、アラブ民主党のリファト・アリー・イード (アラウィー派) は16,172票、マラダ潮流のラフリー・ディヤブ (ギリシャ正教) は22,485票だった。また3月14日勢力のリストから排除された民主刷新運動のミスバーフ・アフダブ国

民議会議員(スンナ派)は 18,474 票、レバノン・イスラーム集団のラーミー・ディルガーム(スンナ派)は 7,663 票、ジャーレン・ウバイド元外務在外居住者大臣は 31,973 票だった(NNA, June 7, 2009)。

XXIII. 北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡

北部県ミニヤ郡・ディンニーヤ郡は定数が 3 で、スンナ派に 3 議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口 98,306 人の内訳はスンナ派 80,356 人、シーア派 28 人、ドゥルーズ派 0 人、アラウィー派 2 人、マロン派 6,293 人、ギリシャ正教 7,820 人、ギリシャ・カトリック 0 人、アルメニア正教 0 人、アルメニア・カトリック 0 人、福音派 0 人、マイリティ 0 人である。

ミニヤ郡・ディンニーヤ郡における選挙戦はスンナ派有権者の投票行動が勝敗を左右するとされる。第 18 期国民議会選挙においては、3 月 14 日勢力と有力な無所属の選挙同盟が結成され、同勢力の圧倒的な優位のもとに進められた。

1. 3 月 14 日勢力

3 月 14 日勢力のリスト作成と立候補者調整は、北部県トリポリ郡と同様、ムスタクバル潮流のサアド・ハリリー国民議会議員、無所属のナジーブ・ミーカーティー前首相、無所属(トリポリ無所属ブロック)のムハンマド・サファディー経済通商大臣の三者によって行われた。

サアド・ハリリー国民議会議員は当初、ムスタクバル潮流のアフマド・ファトファト(Ahmad Fatfat)前青年スポーツ大臣、無所属のハイサム・サマド(Haytham al-Samad)の擁立を検討していた(*al-Hayat*, April 10, 2009, *al-Liwa* ', April 10, 2009, *Nahamet.com*, April 10, 2009)。一方、ナジーブ・ミーカーティー前首相とムハンマド・サファディー経済通商大臣はそれぞれが推薦する立候補者を 1 名ずつリストに参加させることを主張した(*al-Hayat*, April 9, 2009, *Nahamet.com*, April 6, 2009)。このうちムスタクバル潮流のアフマド・ファトファト前青年スポーツ大臣は早い段階からリスト参加が決定しており、またナジーブ・ミーカーティー前首相による立候補者擁立を確実としていたため、三者の折衝は、サアド・ハリリー国民議会議員とムハンマド・サファディー経済通商大臣の立候補者調整と、ナジーブ・ミーカーティー前首相が推薦する立候補者の人選が最大の争点となった。

サアド・ハリリー国民議会議員とムハンマド・サファディー経済通商大臣の立候補者調整において、後者は自身の同盟者である無所属(トリポリ無所属ブロック)のカーシム・アブドゥルアズィーズ国民議会議員をリストに加えることを強く主張し(*al-Hayat*, April 9, 2009)、それが認められない場合、北部県トリポリ郡でムハンマド・イーサー前外務次官(スンナ派)をリストに参加させるようサアド・ハリリー国民議会議員に求めた(「[XXII. 北部県トリポリ郡](#)」を参照)。カーシム・アブドゥルアズィーズ国民議会議員のリスト参加は、ムハンマド・サファディー経済通商大臣とムスタクバル潮流の選挙同盟の是非を握る鍵となり、2009 年 4 月初め、サアド・ハリリー国民議会議員は譲歩し、カーシム・アブドゥルアズィーズ国民議会議員のリスト参加を承諾するとともに、ハイサム・サマドの擁立を断念した(*al-Diyar*, April 9, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009, *Nahamet.com*, April 9, 2009)。リストから排除されたハイサム・サマドは、独自のリストの作成をめざしたものの挫折し、4 月 12 日に無所属で選挙戦に臨む決意を表明したが(*al-Hayat*, April 13, 2009)、最終的には立候補を辞退した。

一方、ナジーブ・ミーカーティー前首相による推薦立候補者の人選において、前首相は当初、無所属のムハンマド・イッズディーン・イルムッディーン(Muhammd 'Izz al-Din 'Ilm al-Din)のリスト参加を提案した(*al-Hayat*, April 6, 2009, April 10, 2009)。だがこの人選にサアド・ハリリー国民議会議員が難色を示し、無所属のハシム・イルムッディーン(Hashim 'Ilm al-Din)国民議会議員のリストを逆提案し、ナジーブ・ミーカーティー前首相が承諾した。これによりリストから排除された 2009 年 5 月 1 日、ムハンマド・イッズディーン・イルムッディーンは無所属として選挙戦に臨むと発表した(*al-Hayat*, May 2, 2009)。

なお、バイルート県第3区、南部県サイダー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡北部県トリポリ郡、同ミニヤ郡・ディンニーヤ郡、同アッカー郡のスナ派をめぐってムスタクバル潮流と立候補者調整のための折衝を行ってきたレバノン・イスラーム集団が2009年3月29日に立候補を発表したアサド・ハルムーシュは、バイルート県第3区、南部県サイダー郡以外での選挙同盟に同集団とムスタクバル潮流が合意に達することができなかったため、無所属として選挙戦に臨んだ(「[V. バイルート県第3区](#)」、「[XXII. 北部県トリポリ郡](#)」を参照)。

2009年4月22日、サアド・ハリリー国民議会議員はムスタクバル・リストを発表した。同リストは、ムスタクバル潮流のアフマド・ファトファト前青年スポーツ大臣、無所属のカーシム・アブドゥルアズィーズ国民議会議員、ハーシム・イルムッディーン国民議会議員からなっていた。またこの席上、サアド・ハリリー国民議会議員は①故ラフィーク・ハリリー元首相への忠誠、②強力な国家の建設、③国民個人のための経済・社会開発政策の推進、④ターイフ合意の尊重などを掲げた(*al-Hayat*, April 23, 2009, Nahamet.com, April 22, 2009, NNA, April 22, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月14日勢力が選挙戦を圧倒的な優位のもとに進めたのに対し、3月8日勢力は統一リストの作成がなされず、ジハード・サマド(Jihad al-Samad)前国民議会議員やイスラーム行動戦線のジャミール・ラアド(Jamil Ra'd)が無所属として立候補したにとどまった(*al-Hayat*, April 23, 2009)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者97,352人中54,916人が投票を行った。うち有効票は53,985票、無効票は495票、白票は436票、投票率は56%であった。当選者はムスタクバル・リストの3名、すなわち無所属のカーシム・アブドゥルアズィーズ国民議会議員、ムスタクバル潮流のアフマド・ファトファト前青年スポーツ大臣、無所属のハーシム・イルムッディーン国民議会議員で、得票数はそれぞれ39,491票、37,667票、36,159票であった。敗北した立候補者のうち、3月8日勢力のジハード・サマド前国民議会議員の得票数は16,136票、イスラーム行動戦線のジャミール・ラアドは1,625票だった。またレバノン・イスラーム集団のアサド・ハルムーシュの得票数は6,034票、無所属のムハンマド・イブズッディーン・イルムッディーンは349票だった(NNA, June 7, 2009)。

XXIV. 北部県アッカー郡

北部県アッカー郡は定数が7で、スナ派に3議席、アラウィー派に1議席、マロン派に1議席、ギリシャ正教に2議席が割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口221,525人の内訳はスナ派141,459人、シーア派2,473人、ドゥルーズ派0人、アラウィー派9,663人、マロン派28,111人、ギリシャ正教37,520人、ギリシャ・カトリック1,541人、アルメニア正教46人、アルメニア・カトリック7人、福音派703人、マイノリティ2人である。

アッカー郡における選挙戦はスナ派有権者の投票行動が勝敗を左右するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力のリスト作成は、ムスタクバル潮流のサアド・ハリリー議員によって主導された。

スナ派をめぐって、サアド・ハリリー議員はムスタクバル潮流のハーリド・ザフラーマン(Khalid Zahraman)、マイーン・マルアビー(Ma'in al-Mar'abi)、そして無所属のハーリド・ダーヒル(Khalid al-Dahir)前国民議会議員の擁立をめ

ざした³²。これに対して、ベイルート県第3区、南部県サイダー郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤ郡北部県トリポリ郡、同ミニヤ郡・ディンニーヤ郡、同アッカー郡のスナ派をめぐってムスタクバル潮流と立候補者調整のための折衝を行ってきたレバノン・イスラーム集団は、ムハンマド・ハウシャルのリスト参加を主張し(Nahamet.com, March 30, 2009, April 9, 2009、「[V. ベイルート県第3区](#)」を参照)、ムスタクバル潮流に譲歩を求めた。これに対して、ムスタクバル潮流は、レバノン・イスラーム集団との選挙同盟の行方次第で、ハーリド・ダーヒル前国民議会議員に代えてムハンマド・ハウシャルをリストに加えるか否かを決定するとの態度を示した(*al-Hayat*, April 6, 2009)。しかし前述の通り、両組織の選挙同盟はベイルート県第3区と南部県サイダー郡以外の選挙区では実現しなかったため、2009年4月9日、ムスタクバル潮流は当初の案通り、ハーリド・ザフラマーン、マイーン・マルアビー、ハーリド・ダーヒル前国民議会議員をリストに参加させることを決定した(*al-Hayat*, April 10, 2009)。これにより、レバノン・イスラーム集団はムハンマド・ハウシャルを無所属で戦わせることになった。

アラウィー派をめぐっては、2009年4月9日、ムスタクバル潮流のハドル・ハビーブ(Khadr Habib)のリスト参加が決まった(*al-Hayat*, April 10, 2009)。

マロン派をめぐっては、2009年4月9日、ムスタクバル潮流のハーディー・フバイシュ(Hadi Hubaysh)国民議会議員のリスト参加が確定した(*al-Hayat*, April 10, 2009)。

ギリシャ正教をめぐっては、無所属での立候補をめざしていたとされる(*al-Hayat*, March 22, 2009)イサーム・ファーリス('Isam Faris)元副首相との選挙同盟が3月14日勢力と3月8日勢力の双方によって模索された。2009年2月初め、3月8日勢力のタラール・マルアビー(Talal al-Mar'abi)元国民議会議員がイサーム・ファーリス元副首相と行った折衝が物別れに終わると(Nahamet.com, February 9, 2009)、3月23日、サアド・ハリリー国民議会議員が元副首相と滞在先のフランスで会談した。しかし両者は選挙同盟の結成をめぐって合意できず、3月24日、イサーム・ファーリス元副首相は2008年選挙法が国民の意思を十分に反映できないとの理由で、立候補しないことを発表した(*al-Hayat*, March 22, March 25, March 30, 2009, Nahamet.com, March 22, March 23, March 24, 2009)。イサーム・ファーリス元副首相との交渉の決裂を受け、サアド・ハリリー国民議会議員はムスタクバル潮流メンバーの擁立の準備を本格化させ、4月9日、リヤード・ラッハール(Riyad Rahhal)とニダール・トゥウマ(Nidal Tu'ma)を3月14日勢力のリストに参加させることを決定した(*al-Hayat*, April 10, 2009)。

2009年4月21日、サアド・ハリリー国民議会議員は遊説先のアッカー市でムスタクバル・リストを発表した。同リストは無所属のハーリド・ダーヒル前国民議会議員(スナ派)、ムスタクバル潮流のハーリド・ザフラマーン(スナ派)、マイーン・マルアビー(スナ派)、ハドル・ハビーブ(アラウィー派)、ハーディー・フバイシュ(マロン派)、リヤード・ラッハール(ギリシャ正教)、ニダール・トゥウマ(ギリシャ正教)から構成された。またリスト発表と合わせて、サアド・ハリリー国民議会議員は演説し、①自由、主権、独立の実現、②レバノン特別法廷を通じた公正の実現、③故ラフィーク・ハリリー元首相への忠誠などを掲げた(*al-Hayat*, April 22, 2009, Nahamet.com, April 21, 2009)。

2.3月8日勢力

3月8日勢力のリストは自由国民潮流の主導のもとで無所属の政治家たちの選挙同盟が進められた。

スナ派をめぐって、2009年4月の段階で、無所属のタラール・マルアビー元国民議会議員、ムハンマド・ヤヒーヤ(Muhammad Yahya)前国民議会議員、サウード・ユースフ(Sa'ud al-Yusuf)、アッカー人民連合代表のワジーフ・バアリーニー(Wajih al-Ba'rini)前国民議会議員、シリア民族社会党のマフムード・ハサン(Mahmud al-Hasan、「[XVIII. ナバティヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤ郡](#)」を参照)がリストへの参加をめざした。自由国民潮流のミシェル・アウン元国軍司令官はこのなかのタラール・マルアビー元国民議会議員を軸とするかたちでリストを作成し、3月14日勢力のリストに対抗させようとした(*al-Hayat*, March 21, 2009)。これに対して、タラール・マルアビー元国民議会議員は当初、イサーム・ファーリス元副首相に接触することでリスト作成を目指す動きを示した。だが、立候補者調整に失敗し

³² このほか、ムスタクバル潮流のムスタファー・ハーシム(Mustafa Hashim)国民議会議員、無所属のムハンマド・アブドゥッラー・スライマーン(Muhammad 'Abd Allah Sulayman)が出馬をめざしたが、リスト参加が見込めず立候補を断念した(*al-Hayat*, April 7, 2009, May 8, 2009, Nahamet.com, April 22, 2009)。

た彼は 5 月 11 日、宗派主義的政治のもとでリストから排除されたと述べ、立候補を辞退した (*al-Hayat*, May 12, 2009、*Nahamet.com*, May 11, 2009)。またシリア民族社会党のマフムード・ハサンも 4 月 22 日、立候補者調整の過程で立候補辞退を決定した (*al-Hayat*, April 23, 2009)。こうして、アッカール人民連合のワジーフ・バアリーニー前国民議会議員、無所属のムハンマド・ヤヒーヤ前国民議会議員、サウード・ユースフのリスト参加が確定した。

アラウィー派枠をめぐるのは、無所属のアブドゥッラフマーン・アブドゥッラフマーン ('Abd al-Rahman 'Abd al-Rahman) 前国民議会議員を支持する声もあったが、2009 年 2 月初めまでに、無所属(ムスタクバル・ブロッグ造反)のムスタファー・フサイン (Mustafa Husayn) 国民議会議員をリストに参加させることで 3 月 8 日勢力内のコンセンサスが形成された (*Nahamet.com*, February 9, 2009)。

マロン派枠をめぐるのは、無所属のミハーイル・ダーヒル (Mikhail Dahir) 前国民議会議員とジョゼフ・ダーヒル (Juzif Dahir) のいずれをリストに参加させるかが争点となった。自由国民潮流のミシェル・アウン元国軍司令官はジョゼフ・ダーヒルの擁立を主張したが (*Nahamet.com*, February 9, 2009)、2009 年 3 月下旬までにミハーイル・ダーヒル前国民議会議員が自由国民潮流を説得し、リスト参加を決めた (*al-Hayat*, March 21, 2009)。

ギリシャ正教枠をめぐるのは、2009 年 2 月初めの段階で、自由国民潮流が推薦する無所属のカリーム・ラーシー (Karim al-Rasi) 前国民議会議員と、ジョゼフ・シャフダー (Juzif Shahda) のリストへの参加が 3 月 8 日勢力内で合意された (*Nahamet.com*, February 9, 2009)。

2009 年 4 月 15 日、上記の立候補者たち、すなわち、アッカール人民連合代表のワジーフ・バアリーニー前国民議会議員 (スンナ派)、無所属のムハンマド・ヤヒーヤ前国民議会議員 (スンナ派)、サウード・ユースフ (スンナ派)、ムスタファー・フサイン国民議会議員 (アラウィー派)、ミハーイル・ダーヒル前国民議会議員 (マロン派)、カリーム・ラーシー前国民議会議員 (ギリシャ正教)、ジョゼフ・シャフダー (ギリシャ正教) が記者会見を開き、アッカール開発リスト (*La' iha Inma' 'Akkar*) の結成を発表した。またこの記者会見でワジーフ・バアリーニー前国民議会議員は、①憲法、諸法律、アラブ諸国および国際社会における諸文書の重視、②女性、在外居住者、若者権利の尊重、③同法諸国との関係の強化、④バランスのとれた成長政策の実施などを訴えた (*al-Hayat*, April 16, 2009、*Leblover.com*, April 15, 2009)。

3. 投票結果

2009 年 6 月 7 日の投票日には、有権者 223,538 人中 120,608 人が投票を行った。うち有効票は 119,476 票、無効票は 778 票、白票は 354 票、投票率は 53%であった。当選者は 3 月 14 日勢力のムスタクバル・リストの 7 名、すなわち無所属のハーリド・ダーヒル前国民議会議員 (スンナ派)、ムスタクバル潮流のハーリド・ザフラマーン (スンナ派)、マイーン・マルアビー (スンナ派)、ハドル・ハビーブ (アラウィー派)、ハーディー・フバイシュ (マロン派)、リヤード・ラッハール (ギリシャ正教)、ニダール・トゥウマ (ギリシャ正教) で、得票数はそれぞれ 73,954 票、72,658 票、71,596 票、76,679 票、78,450 票、78,685 票、78,437 票であった。敗北した 3 月 8 日勢力のアッカール開発リストのワジーフ・バアリーニー前国民議会議員 (スンナ派) の得票数は 42,758 票、無所属のムハンマド・ヤヒーヤ前国民議会議員 (スンナ派) は 38,722 票、サウード・ユースフ (スンナ派) は 31,140 票、ムスタファー・フサイン国民議会議員 (アラウィー派) は 36,691 票、ミハーイル・ダーヒル前国民議会議員 (マロン派) は 37,956 票、カリーム・ラーシー前国民議会議員 (ギリシャ正教) は 36,162 票、ジョゼフ・シャフダー (ギリシャ正教) は 33,582 票だった。なお無所属で選挙戦に臨んだレバノン・イスラーム集団のムハンマド・ハウシャル (スンナ派) の得票数は 3 票だった (NNA, June 7, 2009)。

XXV. 北部県ズガルター郡

北部県ズガルター郡は定数が 3 で、そのすべてがマロン派に割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口 69,400 人の内訳はスンナ派 7,850 人、シーア派 9 人、ドゥルーズ派 0 人、アラウィー派 15 人、マロン派 60,311 人、ギリ

シヤ正教1,205人、ギリシヤ・カトリック9人、アルメニア正教1人、アルメニア・カトリック0人、福音派0人、マイノリティ0人である。

ズガルター郡における選挙戦は圧倒的多数を占めるマロン派有権者の投票行動が勝敗を決するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力は、クルナト・シャフワーン会合の元メンバーたち(無所属)がリスト作成をめぐって事実上分裂状態に陥った。

ズガルター郡でのリスト作成を主導したのは、ルネ・ムアウワド(Rinih Mu'awwad)元大統領の妻で無所属(旧クルナト・シャフワーン会合)のナーイラ・ムアウワド(Na'ila Mu'awwad)国民議会議員だった。2009年2月12日、彼女は出馬辞退の意思を表明するとともに、息子のミシェル・ムアウワド(Mishil Mu'awwad)を後継者に指名した。そしてミシェル・ムアウワドが、無所属(旧クルナト・シャフワーン会合)のジャワード・ブルス(Jawad Bulus)国民議会議員およびユースフ・ドゥワイヒー(Yusuf al-Duwayhi)と選挙同盟を結び、ズガルター郡から出馬すると発表した(Naharnet.com, February 12, 2009)。

これに対して、独立インテリファダにおいて指導的役割を果たした無所属(旧クルナト・シャフワーン会合)のサミール・フランジーヤ(Samir Franjiya)前国民議会議員が反発し、2009年3月21日に出馬を宣言した(*al-Hayat*, March 22, 2009)。サミール・フランジーヤの出馬は、トリポリ郡、ミニヤ郡、ディンニヤ郡のリスト作成をめぐるサアド・ハリリー議員、ナジブ・ミーカーティー前首相、ムハンマド・サファディー経済通商大臣の折衝において、ナジブ・ミーカーティー前首相によって支持された(Naharnet.com, April 4, 2009, *al-Safir*, April 4, 2009)。だがトリポリ郡をめぐる立候補者調整の過程でナジブ・ミーカーティー前首相はサミール・フランジーヤ擁立要求を取り下げた(「[XXII. 北部県トリポリ郡](#)」を参照)。これにより他の立候補者との同盟の可能性を絶たれたサミール・フランジーヤは5月1日、立候補辞退を発表し(*al-Hayat*, May 2, 2009)、ズガルター郡では5月27日、ナーイラ・ムアウワド国民議会議員が思い描いた通り、ミシェル・ムアウワド、ジャワード・ブルス国民議会議員、ユースフ・ドゥワイヒーからなるズガルター修道所リスト(La'iha Zugharta - al-Zawiya)の結成が発表された(*al-Hayat*, May 28, 2009)。同リストは、①「ヒズブッターがレバノン国民に押しつけようとしている宗教国家」への反対、②汚職撲滅、③キリスト教的価値観の維持、④自由、尊厳の尊重、などを掲げて選挙戦に臨んだ(*al-Hayat*, May 28, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力のリストは、ズガルター郡を拠点とするマラダ潮流が作成を主導し、自由国民潮流との調整を通じて完成した。

2009年2月2日、スライマーン・フランジーヤ元内務地方行政大臣がマラダ潮流代表としての当選をめざすとの意思を表明し(Naharnet.com, February 2, 2009)、自身とマラダ潮流のサリーム・カラム(Salim Karam)およびイスタファーン・ドゥワイヒー(Istafan al-Duwayhi)からなるリストの作成を進めていった(*al-Hayat*, February 21, 2009, Naharnet.com, February 9, 2009)。

この動きに対して、自由国民潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官はスライマーン・フランジーヤ元内務地方行政大臣の意思に配慮するとの態度をとりつつも(*al-Hayat*, March 30, 2009)、2009年3月29日に立候補の意思を表明したファーイズ・カラム(Fayiz Karam)退役准将を支持し(*al-Hayat*, March 30, 2009, March 31, 2009)、ズガルター郡において1議席を確保しようとした。

両者の調整作業は、マラダ潮流がバトルーン郡での立候補者擁立を断念する代償として、自由国民潮流がズガルター郡でのファーイズ・カラム退役准将の擁立を見送ることで決着し(「[XXVIII. 北部県バトルーン郡](#)」を参照)、前者が立候補者選定のフリーハンドを得た(*al-Hayat*, March 14, 2009)。そして2009年5月23日、スライマーン・フランジーヤ元内務地方行政大臣、サリーム・カラム、イスタファーン・ドゥワイヒーからなるズガルター修道所意思リスト(La'iha Irada

Zugharta - al-Zawiya)が正式に発足し、①農業振興、②衛生振興、③開発促進、④環境保全などを掲げた (el-Marada, May 23, 2009)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者71,035人中34,399人が投票を行った。うち有効票は34,003票、無効票は221票、白票は175票、投票率は48%であった。当選者はズガルター郡を拠点とするズガルター修道所意思リストの3名、すなわちマラダ潮流代表のスライマーン・フランジーヤ元内務地方行政大臣、同じくマラダ潮流のイスタファーン・ドゥワイヒー、サリーム・カラムで、得票数はそれぞれ19,227票、17,784票、17,173票であった。敗北した3月14日勢力のズガルター修道地リストのミシェル・ムアウワドの得票数は16,251票、ジャワード・ブルースは15,331票、ユースフ・ドゥワイヒーは13,128票だった (NNA, June 7, 2009)。

XXVI. 北部県クーラ郡

北部県クーラ郡は定数が3で、そのすべてがギリシャ正教に割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口57,313人の内訳はスンナ派6,737人、シーア派1,037人、ドゥルーズ派2人、アラウィー派301人、マロン派11,060人、ギリシャ正教37,401人、ギリシャ・カトリック94人、アルメニア正教36人、アルメニア・カトリック0人、福音派42人、マイリティ603人である。

バトルーン郡における選挙戦は圧倒的多数を占めるギリシャ正教徒有権者の投票行動が勝敗を決するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力のリスト作成は、ムスタクバル潮流とレバノン軍団が主導的な役割を担った。ムスタクバル潮流は2009年4月までにファリード・マカーリー (Farid Makari) 国民議会副議長とニコラー・グスン (Niqula Ghusun) 国民議会議員の擁立を決定し (*al-Hayat*, March 13, 2009, April 6, 2009, *al-Hayat*, April 9, 2009)、レバノン軍団は4月4日、サミール・ジャアジャア執行委員会議長が、バイルート県第1区、南部県ザフラーニー郡、レバノン山地県シューフ郡、同マトン郡、ベカーア県バルベック郡・ヘルメル郡、北部県ビシャッリー郡の立候補者とともに、ファリード・ハビーブ (Farid Habib) 国民議会議員の擁立を発表した (*al-Hayat*, April 5, 2009, April 7, 2009, April 20, 2009, Nahamet.com, April 4, 2009、[「III. バイルート県第1区」](#)などを参照)。そして4月11日、ファリード・マカーリー国民議会副議長が、この3人からなるクーラ決定リスト (La' iha al-Qarar al-Kurani) を発表し (*al-Hayat*, April 12, 2009, Nahamet.com, April 11, 2009)、同リストを「杉の木革命によってもたらされた変化の一部」と位置づけるとともに、①主権と独立の回復、②実効支配からの解放、③政治生活の再生、④クーラ郡における教育文化プロジェクトの振興などを骨子とした政見を明らかにした (Nahamet.com, April 11, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力は、第17期国民議会選挙でシリア民族社会党のハンナー・イーターニー (Hanna 'Itani) に対する不十分な支援態勢ゆえに彼を孤立・落選させたことを教訓として、自由国民潮流、シリア民族社会党、マラダ潮流の強固な選挙同盟のもとで、それぞれが立候補者を1人ずつ擁立し、リストを作成した。

自由国民潮流は2009年3月半ばまでに、ジョルジュ・アターッラー (Jurj 'Ata' Allah)、マスアド・ブルース (Mas' ad Bulus) のいずれかを擁立することを決定した (*al-Hayat*, March 13, 2009) (*al-Hayat*, March 25, 2009)。そして4月6日、

同潮流代表のミシェル・アウン元国軍司令官が、レバノン山地県シューフ郡の立候補者とともに、ジョルジュ・アターツラーをクーラ郡で擁立することを発表した (*al-Hayat*, April 7, 2009, *Nahamet.com*, April 6, 2009)。

シリア民族社会党は 2009 年 3 月半ばまでにサリーム・サアーダ (Salim Sa'ada) 国民議会議員の擁立を決定した (*al-Hayat*, March 13, 2009)。これに対し、自由国民潮流は 4 月初めに支持の姿勢を示し (*al-Hayat*, April 3, 2009)、4 月 5 日、アスアド・ハルダーン党首が、レバノン山地県マトン郡、ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、北部県アッカー郡の立候補者とともに、サリーム・サアーダ国民議会議員の擁立を正式に発表した (*Nahamet*, April 5, 2009, *al-Hayat*, April 6, 2009、[「XVIII. ナバティーヤ県マルジャアユーン郡・ハースバイヤー郡」](#)などを参照)。

マラダ潮流は、ファーイズ・グスン (Fayiz Ghusun)、ガービー・ドウライク (Ghabi Durayq)、アブドゥッラー・ザーヒム (Abd Allah al-Zakhim) をいずれかの擁立を検討し、2009 年 3 月半ばにファーイズ・グスンを立候補させることを決定した (*al-Hayat*, March 13, 2009)。

こうして 2009 年 4 月 20 日、自由国民潮流のジョルジュ・アターツラー、シリア民族社会党のサリーム・サアーダ国民議会議員、マラダ潮流のファーイズ・グスンの 3 人は変化リスト (La'iha al-Taghyir) の結成を発表し、①国政への真の参加、②宗派主義的束縛、政治・行政の腐敗、債務の克服、③イスラエルとの闘争を骨子とする政見を明らかにした (*al-Hayat*, April 21, 2009, *Nahamet.com*, April 20, 2009, *el-Marada.net*, April 21, 2009)。

なお、3 月 8 日勢力内では、ギリシャ正教徒からの得票のためにレバノン共産党との選挙同盟を結ぶべきか否かが一時検討された。だが、ミシェル・アウン元国軍司令官は、クーラ郡および北部県バトルーン郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡でのレバノン共産党との協力が 3 月 8 日勢力に不利に作用するとみなし、選挙同盟は実現しなかった (*al-Hayat*, April 3, 2009)。

3. 投票結果

2009 年 6 月 7 日の投票日には、有権者 57,794 人中 27,417 人が投票を行った。うち有効票は 20,078 票、無効票は 178 票、白票は 161 票、投票率は 47%であった。当選者はクーラ決定リストの 3 名、すなわちムスタクバル潮流のファリード・マカーリー国民議会副議長とニコラー・グスン国民議会議員、レバノン軍団のファリード・ハビーブ国民議会議員で、得票数はそれぞれ 14,952 票、13,662 票、13,809 票であった。敗北した変化リストの 3 人の得票数は、自由国民潮流のジョルジュ・アターツラーが 12,154 票、シリア民族社会党のサリーム・サアーダ国民議会議員が 11,980 票、マラダ潮流のファーイズ・グスン前国民議会議員が 12,202 票だった (NNA, June 7, 2009)。

XXVII. 北部県ビシャッリー郡

北部県ビシャッリー郡は定数が 2 で、そのすべてがマロン派に割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口 44,885 人の内訳はスナナ派 5 人、シーア派 0 人、ドゥルーズ派 0 人、アラウィー派 0 人、マロン派 44,588 人、ギリシャ正教 292 人、ギリシャ・カトリック 0 人、アルメニア正教 0 人、アルメニア・カトリック 0 人、福音派 0 人、マイノリティ 0 人である。

ビシャッリー郡における選挙戦は、同郡を拠点とするレバノン軍団の圧倒的な優位のもとに展開した。そのため、そこでの投票は、3 月 14 日勢力と 3 月 8 日勢力の二極対立を反映したものというよりは、レバノン軍団のリストの信任投票といった様相を呈した。

1. 3 月 14 日勢力

レバノン軍団は 2009 年 4 月 4 日、サミール・ジャアジャア執行委員会議長が、バイルート県第 1 区、南部県ザフラーニー郡、レバノン山地県シューフ郡、同マトン郡、ベカーア県バアルベック郡・ヘルメル郡、北部県クーラ郡の立候補者

とともに、妻のストリーダー・タウク国民議会議員とエリー・カイルーズ国民議会議員からなる3月14日リストを発表した。また席上、サミール・ジャアジャア執行委員会議長は「杉の木革命 2」と題した選挙綱領を発表し、①レバノンの完全独立の確保、シャブアー農場からの国境画定、②完全主権の実現とレジスタンスによる武器保有の拒否、③国連安保理決議第1559号、第1680号、第1701号の遵守、④レバノン特別法廷の支持、⑤「枢軸的」地域・国際政策の排除、⑥難民キャンプ外でのパレスチナ人の武装解除、⑦パレスチナ人帰化反対、⑧レバノン・シリア同胞協力協調条約の再興とレバノン・シリア最高会議の廃止、⑨シリアが拘束するレバノン人の問題の解決、⑩ターイフ合意に沿った権力分有、などを掲げた (*al-Hayat*, April 5, 2009, April 7, 2009, April 20, 2009, Nahamet.com, April 4, 2009, 「[III. ベイルート県第1区](#)」などを参照)。

2. 3月8日勢力

レバノン軍団への圧倒的優位を前に、3月8日勢力はリストを作成できず、マラダ潮流が無所属のジュブラーン・ラフマ (Jubran Tawq) 前国民議会議員を支援することどまった (*el-Marada.net*, September 21, 2008)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者46,422人中17,183人が投票を行った。うち有効票は16,923票、無効票は126票、白票は134票、投票率は37%であった。当選者は3月14日勢力リストの2名、すなわちレバノン軍団のストリーダー・タウク国民議会議員とカイルーズ国民議会議員で、得票数はそれぞれ13,066票、12,751票であった。マラダ潮流が支援したジュブラーン・タウクは4,089票、無所属で立候補していたラシード・ラフマ (Rashid Rahma) は1,349票しか獲得できず、レバノン軍団の立候補者の圧勝に終わった (NNA, June 7, 2009)。

XXVIII. 北部県バトルーン郡

北部県バトルーン郡は定数が2で、そのすべてがマロン派に割り当てられている。Elnashra.com[2009]によると人口57,107人の内訳はスンナ派3,063人、シーア派888人、ドゥルーズ派0人、アラウィー派38人、マロン派42,250人、ギリシャ正教9,135人、ギリシャ・カトリック1,376人、アルメニア正教184人、アルメニア・カトリック119人、福音派4人、マイノリティ50人である。

バトルーン郡における選挙戦は圧倒的多数を占めるマロン派有権者の投票行動が勝敗を決するとされる。第18期国民議会選挙においては、3月14日勢力と3月8日勢力の二極対立を軸にリスト作成が進められた。

1. 3月14日勢力

3月14日勢力では、無所属のブトルス・ハルブ (Butrus Harb) 国民議会議員がリスト作成を主導し、レバノン軍団とレバノン・カタリーブ党がリスト参加をめざした。2009年2月に立候補を宣言した彼は (*Nahamet.com*, February 7, 2009)、レバノン軍団のアントワン・ザフラー (Antwan Zahra) 国民議会議員との選挙同盟に難色を示し、レバノン・カタリーブ党のサミール・サアダーないしは無所属のナビール・フカイム (Nabil al-Hukayyim) とのリスト作成か、それが不可能な場合は単独での立候補を検討した (*al-Hayat*, March 30, 2009)。

2009年3月に入り、3月14日勢力がブトルス・ハルブ国民議会議員の立候補支持を決めると、残る1議席をめぐる、レバノン・カタリーブ党とレバノン軍団の対立が激化した (*al-Hayat*, March 14, 2009)。レバノン・カタリーブ党は3月22日、サミール・サアダーが選挙活動を開始する一方、レバノン軍団は4月4日、アントワン・ザフラーの擁立を発表したのである (*14March.org*, March 22, 2009, *al-Hayat*, April 5, 2009)。両者の対立は前述の通り (「[XXII. 北部県トリポリ](#)」

郡」を参照)、サミール・サアードが北部県トリポリ郡で3月14日勢力と無所属が作成したトリポリ団結リストへの参加を勝ちとり、バトルーン郡からの立候補を辞退したことで決着した。

2009年4月17日、ブトルス・ハルブ国民議会議員とアントワン・ザフラー国民議会議員は3月14日リストを発表した(*al-Hayat*, April 19, 2009, *Nanamet*, April 18, 2009)。またこの席上、彼らは①レバノンの独立の尊重と搾取の排除、②「国家内国家」をもたらす「すべてのレバノン人による武器保有」への反対、③国家を麻痺させる拒否権への反対、という政見を明らかにした(*Nanamet*, April 18, 2009)。

2. 3月8日勢力

3月8日勢力では、自由国民潮流政務関係担当官のジュブラーン・バースィール(Jubran Basil)通信大臣がマラダ潮流と調整を行い、リストを作成した。

自由国民潮流は2009年1月、代表のミシェル・アウン元国軍司令官がジュブラーン・バースィール通信大臣を決定し(*al-Hayat*, January 12, 2009)、無所属のジョルジュ・ムラド(Jurj Murad)、レバノン・カターイブ党のサミール・サアード、レバノン共産党の立候補者との同盟を検討したのち(*al-Hayat*, April 3, 2009、「[XXVI. 北部県クーラ郡](#)」を参照)、ジュブラーン・バースィール通信大臣の意向を反映し、前医師組合総裁で無所属のファイク・ユニス(Fayiq Yunis)とのリスト作成を進めようとした(*Nahamet.com*, February 9, 2009)。これに対して、マラダ潮流代表のスライマン・フランジーヤ元内務地方行政大臣は、ファイク・ユニスの兄弟で無所属のニザール・ユニス(Nizar Yunis)とイサーム・ユニス(Isam Yunis)の擁立をめざし自由国民潮流と対立した(*Nahamet.com*, February 9, 2009)。

両者の対立は、マラダ潮流がバトルーン郡での立候補者擁立を断念する代償として、自由国民潮流がズガルター郡でのファイズ・カラム退役准将の擁立を見送ることで決着し(「[XXV. 北部県ズガルター郡](#)」を参照)、後者が立候補者選定のフリーハンドを得た(*al-Hayat*, March 14, 2009)。そして2009年4月9日、ミシェル・アウン元国軍司令官が、ジュブラーン・バースィール通信大臣とファイク・ユニスからなる変化改革リストを発表し(*al-Hayat*, April 10, 2009, *Nahamet.com*, April 9, 2009)、ジュブラーン・バースィール通信大臣とファイク・ユニスの両名は①ミシェル・アウン元国軍司令官が指導する改革運動(Haraka al-Islah)の支持、②検閲、政治的分裂の解消、③法治国家、国民のための国家の建設、といった政見を表明した(*NNA*, April 9, 2009、なお変化改革リストの選挙綱領に関しては「[X. レバノン山地県キスラワーン郡](#)」を参照)。

なお、3月8日勢力内では、ギリシャ正教徒からの得票のためにレバノン共産党との選挙同盟を結ぶべきか否かが一時検討された。だが、ミシェル・アウン元国軍司令官は、バトルーン郡および北部県クーラ郡、ベカーア県西ベカーア郡・ラーシャイヤー郡でのレバノン共産党との協力が3月8日勢力に不利に作用するとみなし、選挙同盟は実現しなかった(*al-Hayat*, April 3, 2009)。

3. 投票結果

2009年6月7日の投票日には、有権者58,444人中32,914人が投票を行った。うち有効票は32,668票、無効票は129票、白票は117票、投票率は56%であった。当選者は3月14日勢力リストの2名、すなわちレバノン軍団のアントワン・ザフラー国民議会議員と無所属のブトルス・ハルブ国民議会議員で、それぞれ17,541票、17,733票であった。敗北した3月8日勢力の変化改革リストのジュブラーン・バースィール通信大臣の得票数は14,267票、ファイク・ユニスは13,132票だった(*NNA*, June 7, 2009)。

XXIX. まとめ

以上、第18期国民議会選挙の選挙戦を詳細に解説した。2008年5月の「均衡崩壊」の戦いによって3月8日勢力が政治的優位に立なかくて実施された本選挙は当初、同勢力が少数派の地位を脱却し、多数派を構成するか否かが大

きな争点となり、投票前の予測では、3月8日勢力が勝利すると考えられた。例えば2008年9月30日にElnashra.comで発表された世論調査によると、3月8日勢力が56議席、3月14日勢力が37議席、その他(僅差)が35議席と、3月8日勢力の優勢に立っていた(<http://elections.elnashra.com/maps-2009.html>)。

しかし投票結果は両陣営の優劣にほとんど変化をもたらさなかった。すなわち表3に示した通り、3月8日勢力は多数派に返り咲くことができず、依然として強い少数派をなすにとどまり、3月14日勢力も弱い多数派の地位を脱却できなかった。

「勝者なし、敗者なし」(la ghalib, la maghlub)というこの結果は、圧倒的多数派の存在を許さないレバノンの宗派主義制度の制度的「欠陥」に起因することは言うまでもなく、弱い多数派と強い少数派を再生産し続ける同制度こそが、レバノンを際限のない国内対立へと陥れ、そのことがシリア、サウジアラビア、イスラエルといった周辺諸国の干渉を招くのである。またこの結果は、選挙後の政治における主導権獲得をめざす政治指導者たちに、政界再編の必要を喚起し、ほどなくレバノンでは3月14日勢力対3月8日勢力という二極対立は消滅し、多極対立が繰り広げられるようになった。

表3 第18期国民議会の議席配分(第18期国民議会選挙結果[2009年6月])

陣営	リスト:政党	議席数
3月14日勢力	ムスタクバル・リスト*:アルメニア社会民主ハンチャク党、進歩社会主義党、ムスタクバル潮流、レバノン・イスラーム集団、無所属	23
	3月14日リスト:国民自由党、進歩社会主義党、ムスタクバル潮流、ラームガヴァーン党、レバノン・カタール党、レバノン軍団、無所属	21
	トリポリ団結リスト:ムスタクバル潮流、レバノン・カタール党、無所属	9
	心のザフレ・リスト:レバノン・カタール党、無所属	7
	尊厳リスト:進歩社会主義党、民主左派運動、ムスタクバル潮流、無所属	6
	クーラ決定リスト:ムスタクバル潮流、レバノン軍団、無所属	3
	マトン救済リスト:レバノン・カタール党、無所属	2
3月8日勢力	変化改革リスト:自由国民潮流、ターシュナーク党、ヒズブッラー、レバノン民主党、無所属	23
	抵抗開発解放リスト:アマル運動、アラブ社会主義バアス党、シリア民族社会党、ヒズブッラー、無所属	18
	バアルベック・ヘルメル・リスト:アマル運動、アラブ社会主義バアス党、シリア民族社会党、団結党、ヒズブッラー、無所属	10
	ズガルター修道所意思リスト:マラダ潮流	3
	協調改革リスト:レバノン民主党	2
	無所属:アマル運動、無所属	1
計		128

(注)*サイダー・ムスタクバル・リストを含む。

(出所)青山[2009a:20]、資料をもとに筆者作成。

XXX. 文献リスト

<日本語文献>

青山弘之[2009a]「合意の必要がないことを合意する」レバノン』『季刊アラブ』第130号(秋)、20-21ページ。
青山弘之・末近浩太[2009]『現代シリア・レバノンの政治構造(アジア経済研究所叢書5)』岩波書店、2009年。
大塚和夫・小杉泰・小松久男他編[2002]『岩波イスラーム辞典』岩波書店。

<外国語文献>

Elnashra.com[2009] “2009 Election Map” (<http://elections.elnashra.com/maps-2009.html>、2009年9月25日閲覧).

<インターネット、新聞・雑誌、通信社等>

14march.org

al-Akhbar (Beirut)

Akhbar al-Sharq

The Daily Star (Beirut)

al-Diyar (Beirut)

Elnashra.com

al-Hayat (London)

Leblover.com

el-Marada.com

al-Mustabqal (Beirut)

al-Nahar (Beirut)

Naharnet

al-Liwa' (Beirut)

Leb Journal

NNA (National News Agency, Beirut)

al-Safir (Beirut)